

[illegible]

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51330	A	越境スタートアップ・ラボ (駒場)	長藤 圭介、杉上 雄紀	工学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		テクノロジー×ビジネス×アートのスタートアップ手法を未来構想と社会実装を通じて身に付ける、東大発イノベーター着火プログラム IGNITE のトレーニング・パートです。 AI が「正解」を量産する時代、本当に問われるのは君が何をやりたいのか。自分の「火」と向き合い、リベラルアーツで本質を探り、飛躍的な未来を妄想する。社会の声に耳を傾け、作って試して磨きながら、現代に実装する。 東大生だけでなく、東京藝術大学、デジタルハリウッド大学、そして全国の大学から選抜された学生たちと切磋琢磨し、第一線で挑戦を続ける起業家・トップランナーと越境しながら、共に価値をカタチにしていく。 人生を賭けて挑みたいテーマを見つけ、本気で挑戦したい学生を、地域・専攻・学年を問わず歓迎します。 IGNITE への参加には選考がありますので、公式サイトで最新情報をご確認ください。 https://ignite-your-ambition.com トレーニングは以下の 2 つがあります ・越境スタートアップ・ラボ 毎週水曜 20:00-21:30@Zoom、全 13 回 IGNITE 選考通過者 40 人 それ以外の東大生 20 人 ・越境リベラルアーツ・ラボ 隔週金曜 18:00-19:30+交流会 21:00 まで@本郷、全 6,7 回 IGNITE 選考通過者 40 人 それ以外の東大生 20 人 ※このゼミは 10 月 2 日 (金) 6 限 (18:45~) Zoom で行われる 工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		完走して最終発表に参加したか、発表内容、終了時のフォーム提出 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51331	A	越境リベラルアーツ・ラボ (駒場)	長藤 圭介、杉上 雄紀	工学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		テクノロジー×ビジネス×アートのスタートアップ手法を未来構想と社会実装を通じて身に付ける、東大発イノベーター着火プログラム IGNITE のトレーニング・パートです。 AI が「正解」を量産する時代、本当に問われるのは君が何をやりたいのか。自分の「火」と向き合い、リベラルアーツで本質を探り、飛躍的な未来を妄想する。社会の声に耳を傾け、作って試して磨きながら、現代に実装する。 東大生だけでなく、東京藝術大学、デジタルハリウッド大学、そして全国の大学から選抜された学生たちと切磋琢磨し、第一線で挑戦を続ける起業家・トップランナーと越境しながら、共に価値をカタチにしていく。 人生を賭けて挑みたいテーマを見つけ、本気で挑戦したい学生を、地域・専攻・学年を問わず歓迎します。 IGNITE への参加には選考がありますので、公式サイトで最新情報をご確認ください。 https://ignite-your-ambition.com トレーニングは以下の 2 つがあります ・越境スタートアップ・ラボ 毎週水曜 20:00-21:30@Zoom、全 13 回 IGNITE 選考通過者 40 人 それ以外の東大生 20 人 ・越境リベラルアーツ・ラボ 隔週金曜 18:00-19:30+交流会 21:00 まで@本郷、全 6,7 回 IGNITE 選考通過者 40 人 それ以外の東大生 20 人 ※このゼミは 10 月 2 日 (金) 6 限 (18:45~) Zoom で行われる 工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		出席回数、終了時のフォーム提出 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51338	A	模擬人工衛星開発を体験しよう B	五十里 哲、 永綱 浩二、船瀬 龍	工学部	集中	2	1 年 理科
授業の目標概要		本講義では、本講義では、学生主体で模擬宇宙機（模擬人工衛星、ローバー、ペットボトルロケットなど）を開発し、ものづくり能力、システム統合能力、プロジェクトマネジメント能力を身につけることを目標とする。 具体的には、国内外で開催される模擬宇宙機関連コンペティション（能代宇宙イベント、ARLISS など）の参加を目指し、学生オリジナルの模擬宇宙機（模擬人工衛星、ローバー、ペットボトルロケットなど）を開発する。学生を2,3チームに分け、チームそれぞれでどのようなミッションを行う模擬宇宙機を開発するかというアイデア出しから、実際の設計・製造、試験、コンペティションの参加まで全てを体験することで、短期間で衛星プロジェクトの一連の流れを体験する。 本講義は1年S semesterのA から2年A semesterのD までで構成される。A から継続的に参加することで、より効果的に知識・経験を得ることができるが、途中からの参加や途中までの参加も可能である。 ----- ※このゼミは10月2日（金）6限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 -----					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		講義及び実習への参加度合いにより、合格・不合格を判定する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51339	A	模擬人工衛星開発を体験しよう D	五十里 哲、 永綱 浩二、船瀬 龍	工学部	集中	2	2 年 理科
授業の目標概要		本講義では、本講義では、学生主体で模擬宇宙機（模擬人工衛星、ローバー、ペットボトルロケットなど）を開発し、ものづくり能力、システム統合能力、プロジェクトマネジメント能力を身につけることを目標とする。 具体的には、国内外で開催される模擬宇宙機関連コンペティション（能代宇宙イベント、ARLISS など）の参加を目指し、学生オリジナルの模擬宇宙機（模擬人工衛星、ローバー、ペットボトルロケットなど）を開発する。学生を2,3チームに分け、チームそれぞれでどのようなミッションを行う模擬宇宙機を開発するかというアイデア出しから、実際の設計・製造、試験、コンペティションの参加まで全てを体験することで、短期間で衛星プロジェクトの一連の流れを体験する。 本講義は1年S semesterのA から2年A semesterのD までで構成される。A から継続的に参加することで、より効果的に知識・経験を得ることができるが、途中からの参加や途中までの参加も可能である。 ----- ※このゼミは10月2日（金）6限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 -----					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		講義及び実習への参加度合いにより、合格・不合格を判定する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51349	A	宇宙資源：サイエンス x テクノロジー x ビジネスの最前線	宮本 英昭	工学部	月 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		宇宙には、地球とはまったく違うチャンスが眠っています。たとえば小惑星。地球から宇宙に出るには大量のエネルギーが必要ですが、小惑星ならジャンプするくらいの勢いで脱出できるほど重力が小さいのです。そして、その中には鉄、レアメタル、水といった、将来の宇宙産業を支える資源が大量に含まれています。 こうした宇宙資源の活用は、「次の産業革命」とも言われるほど注目されています。すでに各国で研究やビジネスが動き出しており、月面探査の ispace 社、小惑星開発の Karman+社といった企業が世界の先頭を走っています。NASA や ESA、JAXA のミッションに関わる専門家たちも、実践の最前線で活躍しています。 この講義では、そうした最前線の研究者や企業のリーダーが実際に登壇します。宇宙を舞台に、資源・産業・法律・国際協力などが交差する、まったく新しい世界と一緒にのぞいてみましょう。海外からの講師も登場しますが、必要に応じて日本語でのサポートも行います。 ----- ※このゼミは10月2日（金）6限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。 -----					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		出席を兼ねたアンケートに毎回回答してもらいます。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51350	A	海研究のフロンティアII	早稲田 卓爾	工学部	金 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		本講義は、理学・工学・農学・法学・総合文化・新領域創成科学研究科、大気海洋・地震・気候システム・東洋文化・生産技術研究所、史料編纂所・アジア生物資源環境研究センターなどで海洋に関する研究・教育活動に関わっている教員が、最先端の研究成果を紹介する。 講義に関する追加情報は、以下に記載されます。 http://www.oa.u-tokyo.ac.jp/ ----- ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）に Zoom で行われる 工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。 -----					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		出席および授業内レポート 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51351	A	UT チャレンジャーズ・ギルド D	廣瀬 明、永綱 浩二	工学部	火 6	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		IT の普及と発展により、我々の身の回りには新しい製品やサービスが登場し、時として生活スタイルを大きく変えたり、ビジネスの枠組み自体に大きな影響を与えたりすることがある。購買者や利用者として製品やサービスが提供するメリットを享受することはたやすいが、逆に購買者や利用者を「これはすごい!」、「これは便利だ」、「これは心地よい」、「これは楽しい」と言わせるモノやサービスを創ってみようではないかというのが本講義の狙いである。 まずは、「作ってみた」「やってみた」というレベルから開始して、最終的には製品やサービスが果たす「社会的なゴール」を意識したレベルのモノづくりに取り組んで欲しいと考えている。従って、講義に参加するにあたっては何にチャレンジしたいのか、具体的な目標を持って臨んでもらいたい。個々の学生諸君の目標に基づき、専門家による指導を受けたり、製造現場を見学に出向いたりしたいと考えている。また、構築したモノやサービスは、完成後、想定される利用者に試用してもらい、利用者の評価を受ける予定である。さらに、本ゼミでは起業を支援した実績があり、起業にチャレンジしたい学生諸君の参加を大いに歓迎する。 ※受講人数：10 名 ※開講場所：授業実施場所欄を参照 受講を希望する学生は、永綱までメールで申し込みこむこと。（希望者多数の場合には抽選） ガイダンス/ Guidance： 合同ガイダンスが設定される場合（別途周知される予定）にはこれに参加する。 ※個別ガイダンスは第一回講義の10月 6 日 18：45 からオンラインで行う。 Zoom のリンクは UTOL を参照のこと ----- ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。 ----- The spread and advancement of IT has brought a steady stream of new products and services into our everyday lives — ones that can, at times, dramatically reshape our lifestyles or even upend the very framework of business itself. As buyers or users, it is easy enough to simply enjoy the benefits that such products and services provide. It is far harder, however, to be the one who creates a product or service that excites and opens the eyes of buyers and users. This seminar's aim, then, is precisely this: to try our hand at creating something — a product or service — that makes buyers and users exclaim, "This is amazing!", "This is so convenient," "This feels great," or "This is fun." Our hope is that participants will start out at the level of "I gave it a try" and, ultimately, work their way up to a level of creation that is conscious of the "social goal" a product or service is meant to fulfill. Accordingly, when joining the seminar, participants are asked to come in with a concrete goal in mind as to what they want to challenge themselves with. Based on each participant's individual goals, I also intend to arrange guidance from outside experts and site visits to relevant locations. In addition, once a product or idea has been built or devised, the plan is to have prospective users try it out and provide feedback. Furthermore, this seminar has a track record of supporting student entrepreneurship, and warmly welcomes students who wish to take on the challenge of starting a business.					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		ガイダンス、講義、実習、システム構築、事業計画書、プレゼンテーション、発表会への参加。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51380	A	「現代の数学 ― その源泉とフロンティア ―」	権業 善範、BEZ Richard Neal、 毛塚 由佳子、逆井 卓也、 増田 弘毅	理学部	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		高等学校で学んだ数学、大学の前期課程で学ぶ数学が、どのように現代の数学につながっているか、現代の数学の研究の源泉はどこにあり、どのようなことがわかっていて、何を求めて研究が行われているかということを、最前線で活躍する数学者がいくつかのトピックについて数回ずつ解説する。					
成績評価方法		出席とレポートによる合否判定で行う。レポートは4名の先生の中から一人選んでその先生の講義に対するレポートを出してください。（提出方法の詳細は初回ガイダンス時に指示します。）					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51381	A	惑星科学のフロンティア	瀧川 晶、諸田 智克、 宮本 英昭、吉岡 和夫、 田近 英一、三河内 岳、 橘 省吾、笠原 慧、 生駒 大洋、関 華奈子、 桂華 邦裕、今村 剛	理学部	金 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		我々は、太陽を周回する天体の一つである「地球」という惑星に住んでいる。それは、太陽系では地球だけが海や温暖な気候を有するからだろう。そのような生命にとって快適な環境はどのようにもたらされたのか？また、太陽系外には第二の地球と呼ぶにふさわしい惑星は存在するのか？近年では、理論・室内実験に加えて、太陽系探査や系外惑星観測など様々なアプローチで研究がなされている。本講義では、この分野の世界をリードしている科学者が最先端のサイエンスを講義する。					
成績評価方法		出席のみ。ガイダンスはありませんので、12回の講義に参加してください。 出席に関する問い合わせは、授業当日の講義時間内に各担当教員におこなってください。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51430	A	医科学研究最前線	武川 睦寛、小沢 学、鈴木 洋、 根岸 英雄、前島 亜希子、 武田 憲文、LI SIHAN、 井元 清哉、長谷 耕二	医科学研究所	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		がん・免疫/アレルギー疾患・感染症をはじめとする難治性疾患の病因・病態の解明と、これらの疾患に対する治療・予防法の開発を目指す医科学研究所の研究活動の実際を紹介する。さらに、関連する分野（ゲノム・エピゲノム解析、分子病態解析、腸内細菌、感染症・自然免疫、がん、疾患モデル動物、循環器医療など）の動向について、集中講義形式で分かりやすく解説する。 <12月12日> 9:15～9:30 医科研紹介 9:30～16:40 講義(1 コマ 90 分、12:40～13:30 昼休み) <12月13日> 9:30～16:40 講義(1 コマ 90 分、12:40～13:30 昼休み) ※ガイダンスは本年度は行わない。					
成績評価方法		レポート <レポートについて> ・レポート内容：8 講義全てについて、自分が興味を持った内容をまとめる。 ・形式：一つの PDF ファイルで提出（講師 1人につき A4用紙 1 ページ、計 8 ページ（表紙含まず））・・・ファイル名は、学籍番号＋氏名とすること ・提出先：以下の URL の受取フォルダにアップロードしてください。 https://univtokyo-my.sharepoint.com/:f/g/personal/9558378034_utac_u-tokyo_ac_jp/IgC6ZLgkmbz0R5yOdHo5mCVBAcaKPa9ngJaNkPIgGEIRmAw ・提出期間：令和 8 年 12 月 14 日（月）～12 月 18 日（金）（厳守） ・その他：A4 用紙 1 ページごとに、氏名、所属科類もしくは学部・学科、学年、学生証番号を必ず明記すること。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51437	A	リベラルアーツとしての工学：工学の歴史・現在・未来を俯瞰するオムニバス講義	戸矢 理衣奈、松永 行子、 菅野 裕介、石井 和之、 宍戸 常寿、川添 善行、 小野塚 知二、志村 努、 吉川 暢宏、平本 俊郎、 今井 公太郎、芳村 圭、 本間 裕大、池内 与志穂、 枝川 圭一	生産技術研究所	火 3	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		本講義では、教養学部 1-2 年生が文系理系を問わず、人間・社会との関係性のなかで総合的に科学技術の概念を学ぶことを目的とする。 我々は、AI、半導体、情報工学、有機 EL 等の先端科学技術に日々接しながら過ごしている。現代では先端科学技術が社会そして人間をも大きく規定しており、それは、エンジニアだけではなく社会全体で共有して考えるべきテーマであり、人類に共通する課題ともなっている。これまでも科学技術にまつわる意思決定にはエンジニアのみならず様々な社会的立場の者が関与してきたが、いまや文系理系に拘らず、現代人に必須の教養としての「リベラルアーツとしての工学」が求められている。 本講義では、工学の主要領域にて先端研究に携わる研究者がオムニバス式に講義を担当する。専門領域の過去、現在、未来を踏まえつつ、人間や社会との関係性を考えるうえで焦点をなす研究や事例に着目し、数式を基本的に使わずに講義を実施する。 教養学部生が社会を構成している先端科学技術の起点及びその発展に接することで、未来を拓くための基盤となる知見を得るとともに、俯瞰的な視点を涵養する機会となることを期待している。					
成績評価方法		前半（A1 相当期間）4 回、後半（A2 相当期間）4 回以上の出席を最終レポート提出の必須要件とする。 ※特別な事情により前半、後半各 4 回の出席が難しい場合は予め相談すること（全 8 回以上の出席は必須）。 ・毎回の出席 「講義で学んだことを 500 字以内にまとめよ」 ※ UTOL で講義終了 10 分前から講義終了後 30 分までに提出すること ・レポート 「興味をもった講義を複数選び、その内容に関して独自に調査したうえで、未来の工学のあり方を提案せよ。分量は A4 用紙 2 枚程度とする」 ※ UTOL で指定する期日までに提出すること					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51445	A	多様な視点からジェンダーを見る	小川 真理子	多様性包摂共創センター	金 4	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		社会が大きく変動する中で、「ジェンダー研究」そのものが問い直しの対象となっている。このような問いに応えるべく、本講義では、ジェンダー、男性性／女性性が、文化、階級、人種、国籍、エスニシティ、ナショナリズム等とどのように交差し、相互に作用しているのか、さらに、それが国や社会によってどのように異なるのかについて考えていく。 本講義では、教育、心理、社会問題、健康、医療、公衆衛生、災害、科学技術に関するテーマ、国内外の事例などのジェンダーにかかわるトピックを各講師の専門分野の視点から取り上げる。 本講義は、ジェンダー、セクシュアリティに関する基礎的な概念を確認したうえで、ジェンダーをめぐる多様な問題について自ら考える機会を持つことを目的としている。ジェンダーの多様性を批判的に理解し、自らの立場や社会構造との関係を分析できる力を養うことを目指している。初回はイントロダクション、2 回目から 11 回目までは各講師の専門領域の切り口からジェンダーに関連したトピックについて講義を行う。第 12 回、第 13 回は講義を踏まえグループに分かれて発表を行い、最後にまとめを行う。					
成績評価方法		ディスカッションへの参加度、毎回の授業後のコメントカード（300 字～400 字）、期末レポート（1,000 字）を総合的に評価する。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

[illegible]

成績評価方法	う思想を起点に、健康に資する知恵を人から人へ伝え、日々の暮らしの習慣として根づかせたシロタイズムとは何かを考える。
	第 12 回 1 月 18 日 固有性は、公共性をつくれるか——United by Unique 一人ひとりの問いを、世界に共有する 北風祐子（電通） がんの経験は一人ひとり異なる。その固有性を物語に回収することなく、他者に届き、社会を動かす言葉へどのように翻訳できるのか。World Cancer Day の実践を通して、表現が共感と連帯を生む力と、他者の経験を代弁・消費する危うさを考える。
	第 13 回 1 月 23 日 Better Together／United by Unique 困難を共有することから始まるアジア連携を構想する。異なる業種や専門領域に属する企業・組織の連携を通して、持続可能な未来を築くためのパートナーシップのあり方を討議する
	本講義における邂逅とは、困難によって裂かれていた世界が、別の身体、別の制度、別の知、別の地域と接触し、問いの形そのものを変えてしまう臨界点である。受講者は、思想家、研究者、政策担当者、医療者、企業人、技術開発者、表現者らの議論を通じて、人間や社会のなかに隠れている困難を発見する力、その困難が何を断ち切り、何を新しくつなぎうるのかを考える力、異分野と異地域を横断して知と人を結び直す力、そして一人ひとりの固有の経験を公共的かつ国際的に共有可能な問いへ翻訳する力を身につけることを目指す。
教科書 ガイダンス	本講義は、集中の枠であるが、主として月曜日の 5 限に、オムニバス授業として実施する。やむを得ず出席できない回については、オンデマンドでの受講も可能とする。
	出席（オンデマンド受講も可能）と最終課題
	出席 40%（リアクションペーパーの提出を出席とみなす。内容は評価対象ではないが最終課題への補助線として取り組むこと）、最終課題 60%（レポート）を基本とする。評価基準は講義にて説明
	教科書は使用しない。／Will not use textbook
	第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60219	A 2	経営工学のすすめ	川中 孝章	工学部	金 4	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		皆さんの中には、理系に進んだけれど文系分野にも興味がある。文系に進んだけれど理系分野にも興味があるといった人がいるのではないのでしょうか？私も高校時代、数学と社会が好きでした。経営工学は文理融合の分野です。経営学、経済学を中心とした社会科学の諸問題を、科学的視点から数理的あるいは工学的アプローチにより解決することを目指しています。 本講義では、経営工学のベーシックな理論を中心に解説します。さらに、最新の研究論文にも触れながら経営工学の応用事例を紹介します。取り上げるテーマは以下を予定しています。 ・生産管理 ・ファイナンス ・品質管理 ・人的資源管理 ・ロジスティクス、サプライチェーンマネジメント（SCM） ・マーケティング ・プロジェクトマネジメント 学際的分野のため、文科、理科を問わず受講することができます。 ----- ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。 -----					
成績評価方法		出席およびレポート					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60222	A 2	医学・生命科学への量子計算の応用（医学系・理学系・新領域創成科学による合同講義） Applications of Quantum Computation in Medicine and Life Sciences (Joint lecture by Schools of Medicine, Science, and Frontier Sciences)	角田 達彦	理学部	木 5	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		この講義シリーズでは、将来、医学・生命科学へ量子計算を応用する事を目的に、量子計算機の計算原理、プログラミング、などを学ぶ。また、医学・生命科学における計算についても、医学・生命科学を研究している研究者からの問題提示をして貰うことにより、量子計算によってどのような課題の解決が期待されているかを学ぶことができる。 In this lecture series, students will learn about the principles of quantum computation, programming, and other aspects of quantum computers, with the aim of applying quantum computation to medical and life sciences in the future. In addition, by having researchers working in the medical and life sciences present problems about computation in the medical and life sciences, students can learn what kind of problems are expected to be solved by quantum computation.					
成績評価方法		期末試験を基本とするが、状況により、小テストやレポートなどに変更する可能性もある。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

全学自由研究ゼミナール

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50059	A	Fundamentals of Physical Sciences (PEAK)	ウッドワード ジョナサン ロジャー	PEAK 前期	月 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		In this course, we cover some key topics across the physical sciences to help ensure students who have studied differing amounts of chemistry and physics in high school have a solid foundation of key principles.					
成績評価方法		Grades for the course will be awarded based on attendance and participation in the group work activities (30%), performance in live online quizzes (10%), short written assignments (10% and a final exam (50%).					
教科書 ガイダンス		プリントを配布する。／Will distribute handouts 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50216	A	Introduction to understanding public policy and the field of policy sciences	鈴木 早苗、SVENSSON Sara	PEAK 前期	火 1	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		The course gives an introduction to understanding public policy and the field of policy sciences. Upon completing the course students will understand the distinction between analysis of policy and for policy, and they will have a good insight into and be able to apply major theories of the policy process. They will have the skill and capacity to write a short policy brief based on the analysis of a policy problem.					
成績評価方法		participation 20%, Policy Brief (40%), final exam (40%)					
教科書 ガイダンス		授業中に指示をする。／Will specify at class time 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50553	A	Introduction to Biology	シェファークソン リチャード 、小見 美央	PEAK 前期	水 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		This course introduces fundamental concepts in modern biology, with a focus on understanding life at the molecular, cellular, and organismal levels. Students will explore how molecules form cells, how genes and genomes store and express information, and how these processes shape organisms, immunity, and populations. The main objectives are: 1) to acquire essential vocabulary and core concepts in life science (genes, genome, cells, molecular biology, immunity, and population genetics) 2) to understand how these concepts are connected across different biological scales 3) to practice explaining biological ideas clearly in English					
成績評価方法		Non-native English speakers are welcome. The course is designed as an accessible introduction to biology in English, and provides opportunities to interact with English-speaking peers while building confidence in both scientific understanding and communication. Presentation (30%), participation (40%), and final exam (30%). The participation score includes attendance at face-to-face sessions, scores for short quizzes given at each session, and a short reaction paper after each session.					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50617	A	Introductory course in linear algebra	松尾 厚	PEAK 前期	水 3	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		Phenomena in natural and social sciences are usually complicated, and seldom described by linear equations. However, Linear Algebra is still powerful and effective in describing essential parts of the phenomena by linear approximation. Thus Linear Algebra has vast applications. Linear Algebra will further provide basics for considering linear spaces that appear in quantum mechanics or Fourier analysis. The ideas in Linear Algebra are broadly utilized in sciences and engineering, including agriculture, medicine, and economy, as well as in mathematics and physics. Although Linear Algebra is simple and clear in theory, one needs to be familiar with abstract concepts in mathematics to properly deal with it in practice. It is important for students to keep on deepening their understanding by working with exercises and related problems.					
成績評価方法		Final examination, attendance, and class participation.					
教科書		プリントを配布する。／Will distribute handouts					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50675	A	渋谷まちづくりゼミ	小泉 秀樹	学生による全学自由 研究ゼミナール	水 6	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		渋谷をケースとして、まちづくりに関する基本的な理解を深める。 渋谷まちづくりゼミは、東京大学駒場キャンパスを拠点に、渋谷のまちづくりを知り、考え、実践するためのゼミです。 100 年に一度と言われる再開発が進む渋谷を舞台に、講義と実践の両輪で最前線を学びます。					
成績評価方法		各回講義での参加状況					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50804	A	Single variable calculus	長谷川 立	PEAK 前期	木 3	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		In this course, we study the differentiation and integration of a function of one-variable (which is also called one-variable function or single-variable function). Intuitively, differential means the slope of the tangent line of a function at a given point, and integral measures the area bounded by the graph of the function and x-axis over a given interval. Both concepts need the concept “limit”, so the first part of this course will contain the definition of a function, limit of a sequence, continuous function and related topics. In the second part of this course, we study the differential of a function, the definition, calculation techniques, properties and applications. In the third part, we define the definite and indefinite integral of a function, study the fundamental theorem of calculus: the connection between differentiation and integration, and introduce the calculation techniques. Power series will also be introduced. In the end, we discuss how to solve some simple differential equations.					
成績評価方法		Quizzes (50%) + a final (50%)					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50873	A	笑って学ぶ狂言講座	内藤 連	学生による全学自由 研究ゼミナール	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		「狂言」は六百年以上続く日本の伝統芸能。現存する世界最古の舞台芸術として能とともにユネスコ無形文化遺産に登録されています。室町時代のコントのようなもので、近年はアニメ「鬼滅の刃」が能狂言として舞台化されたことも注目を集めました。 東京大学教養学部の学生が、多様な授業の一環として狂言について学び、それを緒に日本文化への造詣を深めることを推進する。 人間国宝・野村万作師に師事する、内藤連の指導のもと、狂言を多面的に学びます。狂言のイロハを学び、「映像鑑賞」と「ワークショップ」を中心とします。「映像鑑賞」では、狂言の様々な演目を鑑賞し如何なるものか知り、講師の軽妙な解説とともに狂言の描く豊かな世界を堪能します。「ワークショップ」では、姿勢や歩き方、台詞や発声方法の「型」を習得します。参加者の関心に応じて短い狂言のワークショップを行い、身体を通して狂言の面白さをより実感でき、狂言とは何かを具体的に学びます。 特別な知識や経験は必要ありません。 出席にて評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 特に行わない。／Will not conduct guidance					
成績評価方法							
教科書							
ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
50874	A	国際化を読み解くゼミナール	須田 洋平	学生による全学自由 研究ゼミナール	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		1945 年以降発展してきた国際法に基づく秩序が近年危機に瀕している。他方で、国際的に基づくルールが重要になっている分野（ビジネス、環境問題等）もあり、国際法をベースにした国際社会における「法の支配」の帰趨に関心が高まっている。そこで、2026 年時点での国際法の現在地を知るべく、国際情勢を意識しつつ、様々な角度から分析し、議論をしていきたい。 このゼミナールを通じて、学生には国際法についての知見を深めること、国際情勢への関心を持つこと、そして国際法が今後どうあるべきかについて自分なりの意見を持つことを期待したい。					
成績評価方法		学生の参加姿勢と学生発表の内容をもとに評価する。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51083	A	法と社会と人権 ー社会の実態 を知り、人権を学び考えるー	中川 素充	学生による全学自由 研究ゼミナール	金 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		当ゼミは、1 9 9 2 年度から川人博弁護士が中心になり担当してきた。今学期も川人弁護士の協力を得て、当ゼミの出身者である中川素充弁護士が担当する。矢野領弁護士、石原詩織弁護士及び笠置裕亮弁護士（当ゼミOB・OG）も協力する。 A セメスターのテーマとしては、国際、政治・司法、地方・福祉、文化共生、科学技術、教育を予定している。 文Iは勿論、文II・文III・理I・理II・理IIIの学生も歓迎する（例年、文I以外の学生も多く参加している）。 人権問題を考えるにあたって大切なことは、社会の実態をよく知ることである。このゼミでは、従前より、普段の授業時間での講義以外にフィールドワークを実施している。事件現場、NGO、法律事務所、官公庁、企業、労働組合、裁判所、少年院、刑務所、テレビ局、新聞社、病院などに出向き、様々な当事者、専門家、弁護士、医師、公務員などから話を聞く。様々な職に就いている当ゼミ卒業生との交流も随時行う。 これらのフィールドワーク（主として平日午後6時40分以降、土日祝日に実施）は、今学期を通じて15回以上実施予定である。いずれかを選択して、計1回以上参加すること。 金曜5限の授業では、10月～12月上旬は講義形式（各分野の最前線で活躍している人たちをゲストとして）を中心にし、12月～1月はテーマ班ごとに、授業やフィールドワークで学んだことをまとめて、論考を作成してもらうとともに、学生発表を実施する。 ※ ガイダンスは10月2日5限（第1回授業時）におこなう。					
成績評価方法		日常のゼミ活動、学生発表及び学期末レポートにもとづく合否判定					
教科書		講義及びフィールドワークで学んだことを基礎にして、上記発表を行い、かつ学期末レポートを作成すること 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 川人 博 編著 『テキストブック現代の人権第4版』 日本評論社 978-4-535-51725-7 なし					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51290	A	SDGs を学べる授業をつくらう / Designing a Lesson Plan for High School Students to Learn About the SDGs	中澤 明子、 草本 明子	教養教育高度化機構	火 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		持続可能な開発目標（SDGs）は、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継として 2015 年の国連総会で採択され、17 の目標が定められている。MDGs が途上国の貧困削減や社会開発に焦点を当てていたのに対し、SDGs は世界中の国々の経済・社会・環境といったより広い問題を扱うものである。その広さゆえ総花的であるという批判もある一方、多くのアクターを巻き込めるという利点も指摘されている。 この授業では、このような SDGs について高校生が効果的に学べる授業を設計してみることで、SDGs についての自分自身の学びを深めることを目指す。他者に教えることそのものや、授業を設計する過程での調査や議論は、本人にとって最も身につく学びとなる。また、この授業では「効果的に学べる」ためにアクティブラーニングという手法を用いた授業を設計することを目指す。 具体的な到達目標は、以下の通りである。 ①SDGs が作成された背景について説明することができる ②SDGs の意義について説明することができる ③SDGs の課題について説明することができる ④SDGs の 17 の目標について説明することができる ⑤学習者の学びを深める授業の方法について説明できる ⑥SDGs について学習者の学びを深める 50 分間の授業を設計することができる					
成績評価方法		最終成果物＝授業案（50%）、平常点＝議論への貢献（50%）					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行く。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51291	A	AI 社会を生き抜くための教育・学習を考える	中澤 明子	教養教育高度化機構	火 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		ChatGPT 等の生成 AI が登場してから、人と AI との関わりがより日常的になり、AI を適切に、効果的に使うことが求められています。すなわち、AI 社会を生き抜くため、求められる能力・スキルが変化しつつあると考えられます。これから社会に出ていく大学生自身が AI について理解し、どのような能力・スキルを身につけるべきかを考え、認識することも重要です。 本授業の目的は、授業での文献・資料の読解や体験・議論を通じて、AI 社会を生き抜くために求められる教育・学習の在り方を自分なりに考えて示すことです。 授業の目標 ・AI や教育・学習に関する資料を読み内容を説明できる。 ・AI や教育・学習に関するトピック、キーワードについて定義や内容を自分の言葉で説明できる。 ・文献・資料、ゲスト講義の内容について疑問・質問を考え、口頭もしくはテキストで示せる。 ・問いに対する考えや教育・学習の在り方についての自分の考えをテキストもしくは口頭で他者に説明できる。 ・AI 社会を生き抜くために求められる教育・学習の在り方をレポートもしくは口頭発表で示せる。					
成績評価方法		最終成果物（40%）、毎回のふり返しシートの提出（40%）、グループワーク/ディスカッションへの参加・貢献（20%）により総合的に評価します。					
教科書		最終成果物は、AI 社会を生き抜くための教育・学習に関するパンフレット（教育・学習のコンセプトやプログラム、方法などを記したもの）をグループで作成してもらう予定です。					
ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行く。／Will conduct guidance at first time					

[illegible]

時間割 コード	開講	講義題目	担当教 員	所属	曜限	単位	対象
51294	A 1	グローバルシチズンと持続可能な社会 Global Citizens & Sustainable Society	宮崎 彩	教養教育高度化機構	月 5	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		What is it that we can do as "global citizens" to tackle the universal issues to build a more sustainable future?? このようなクエスチョンを念頭に、グローバル人材からグローバルシチズンについて学生の皆さんと考えてきました。今年度の本全学自由研究ゼミナールでは、2030 年以後の国際社会に何が求められているのか、そのために学生たちがどう羽ばたいていくべきか、に焦点をあて、国際的に活躍されている様々なゲストにお話を伺います。 特に今年は「文化」に着目したいと考えています。 変わり続ける国際政治の中で、21 世紀に求められるグローバル・シチズンとはどのような人であるのか、その姿を考え、学生による新たなグローバル・シチズン像を打ち出すことを目標としています。 持続可能な社会を実現するために、様々な分野で国境を超えてそれぞれの道を切り拓いてきた方たちとのディスカッションを通して、グローバル・シチズンに求められる資質とは何か、2030 年以後の持続可能な社会を構築していくために何が必要なのかについて、正面から向き合います。 これまでお呼びしてきたゲストは次のようなバックグラウンドの方達でした。 ・前 UNDRR（国連防災）長 水島真美さん ・国際人道支援の専門家 ・国際機関・国家機関・NGO で働く専門家 ・国会議員（モンゴル） ・大学、研究機関の研究者（シンガポール、アメリカ、日本） ・海外ビジネスを展開するビジネスマン 今年度は「文化」をキーワードに活躍する世界中の先輩方をお招きします。 到達目的： 国境を越えて道を切り拓いてきた先輩やそのような人々を輩出しようとする既存の施策などから、いわゆる「グローバル・シチズン」として求められるファクター（ツール、マインドセット、スキル、経験など）を学び、構造化することを目的とします。そのうえで、国内外の社会問題・情勢に対応するために必要なファクターを言語化し、2030 年以後の未来を見据えて、「グローバル・シチズン」に求められる資質を学生主体で定義します。 到達目標： 1：グローバル・シチズンに求められている諸要素・条件などを知り、批判的に分析できる。 2：すでに世界で活躍する人々との対話を通じて、グローバル・シチズンに求められるファクターを抽出し、定義を考える。 3：グローバル・シチズンを育成するために求められるファクターと、それを獲得するために必要なツール・場などを考え、定義を作る。 What is it that we can do as "global citizens" to tackle the universal issues to build a more sustainable future?? With these questions in mind, we have been exploring the concept of “global citizens” alongside you, our students, building on the idea of “global talent.” In this academic year’s Seminar, we will focus on what will be required of the international community after 2030 and how students should spread their wings to meet those demands, while hearing from a variety of guests who are active on the international stage. In particular, this year we intend to focus on “culture.” Amid the ever-changing landscape of international politics, our goal is to consider what kind of person constitutes a global citizen in the 21st century and to propose a new vision of the global citizen developed by the students themselves. To realize a sustainable society, we will engage directly with the qualities required of global citizens and what is necessary to build a sustainable society beyond 2030 through discussions with individuals who have blazed their own trails across borders in various fields. The guests we have invited in the past have had the following backgrounds: ・ Director Mami Mizutori, former Executive Director of UNDRR (United Nations Office for Disaster Risk Reduction) ・ Experts in international humanitarian aid ・ Professionals working at international organizations, government agencies, and NGOs ・ Members of Parliament (Mongolia) ・ Researchers at universities and research institutions (Singapore, the United States, Japan) ・ Businesspeople expanding their operations overseas This year, we will invite leaders from around the world who are active in the field of “culture.” Objectives: The goal is to learn from and systematize the factors—such as tools, mindsets, skills, and experiences—required of so-called “global citizens,” drawing on the experiences of mentors who have blazed trails across borders and existing initiatives aimed at fostering such individuals. Building on this, students will articulate the factors necessary to address social issues and global situations both domestically and internationally, and—with an eye toward the future beyond 2030—student-led initiatives will define the qualities required of “global citizens.” Learning Objectives: 1: Understand and critically analyze the various elements and conditions required of a “global citizen.” 2: Through dialogue with individuals already active on the global stage, identify the factors required of a “global citizen” and consider how to define them. 3: Consider the factors required to cultivate “global citizens,” as well as the tools and environments necessary to acquire them, and formulate a definition.					
成績評価方法		25% 授業への参加状況 75% 課題の提出状況及び質的評価 内訳： 25% ディスカッション参加					

教科書	25% グループプレゼンテーション 50% 最終「グローバル・シチズン」定義作成・提出 教科書は使用しない。／Will not use textbook
ガイダンス	特に行わない。／Will not conduct guidance

授業の目標概要 成績評価方法 教科書 ガイダンス	この講座では、「人の気持ちの動かし方」を研究します。 人の気持ちが動くとき、社会は動く。そのスイッチを探していきます。 電通のクリエイティブと東京大学が手を組み、 人のこころを動かす「企画」を探究する研究所を立ち上げました。 社会のためになること、あたらしい体験の創出、研究やサービスの立ち上げ。 どんな挑戦にも共通するのは、「人のこころを動かす」ことです。 気持ちが動かなければ、人は動きません。 AIが発達し人間性への回帰が進む時代に、 人の気持ちと向き合い、動かす力はますます重要になります。 映像、言葉、体験、空間、ビジュアル。 私たちが培ってきた多様な表現の中心にあるのが「企画」です。 本講座では、映画、漫画、音楽、ファッション、落語、短歌などを手がかりに、 人の気持ちはいつ、なぜ動くのかを探究しています。 目指すのは、誰もが「企画」を力にできる社会です。 何か面白いことを考えてみたい。そんなあなたとの出会いを、楽しみにしています。 ■進め方について 各回テーマを持ちながらも、大きく4つの力を鍛えていきたいと考えています。 見る力：課題を見つける。表現を見る。世界を見る目の解像度を上げる。 分析する力：伝え方を収集する。人の気持ちが動く瞬間を収集する。類型化して一般的な手法にしていく。 表現する力：人の心を動かす企画をする。それに伴う表現方法を学ぶ。 実践する力：実際のクライアントを巻き込んで、上記の研究を実践する。 このどれもが、社会人、表現者の基礎体力となるような力となるのは間違いありません。 研究のみならず表現・実践まで落とし込んでいくことが、本授業の醍醐味となるはずです。 <去年の授業の内容例> ・コピーライティング、デザイン ↳専門講師による言葉とビジュアルのワークショップ ・駒場祭にて「もやけ屋敷(2024年)」「東大VS〇〇(2025年)」を展示 ↳毎年駒場祭で企画を考案・出店しています。 ・学食副菜バトル ↳班ごとに副菜を担当し、プロモーション企画を考え、実装。一番売り上げが上がった副菜を競いました。 ・渋谷の新しい地図作り ↳渋谷を班ごとに散歩し、自分なりの解釈で渋谷のあたらしい地図を描きました。 ・ゲスト講師特別講義 ↳映画プロデューサーやCM/映画監督、起業家などゲストによる講義。 ・バラアスリートと遊びの開発 ↳バラアスリートをお呼びし、班ごとに「みんなが楽しめる新しい遊び」を開発し、実践。 全ての授業への参加を前提に、個人ワークの提出内容、グループワークへの貢献、プレゼンテーションの内容により評価します。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance
---	---

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51296	A	スタートアップを考える：社会課題を解決するビジネスエコシステムの視点	桑田 光平	教養教育高度化機構	水 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		授業の目標概要： スタートアップを、技術・アイデア勝負という視点だけでない、より俯瞰的かつ実践的な視点で現役のコンサルタントと共に考えてみませんか。日本経済の抱える課題解決の観点から、スタートアップを取り巻くビジネスエコシステムとその課題を取り扱います。 近年スタートアップは急成長を遂げており、日本のスタートアップ企業はおよそ2万社を超えていると言われています。学生のみなさんにとっては大企業よりもむしろ身近な存在になりうるほどかと思えます。一方でスタートアップ自体は失敗するケースも少なくないというのも事実です。成功に届かなかった要因は技術・アイデアが評価されなかった、それだけでしょうか。数多くのスタートアップが生まれる中において、本来であれば社会に還元されるべき多くの技術・アイデアが埋もれてしまっているならば、それは看過できない社会課題の一つです。その課題について、スタートアップを取り巻く「ビジネスエコシステム」を主題として、「ステークホルダー」・「ファイナンス」・「M&A」などといった観点も用いつつ紐解いていきます。本授業の計画やファシリテーションは、現役コンサルタントが行います。					
成績評価方法		・出席数とリアクションペーパーを総合的に勘案して評価 ※具体的な評価方法についてはガイダンスにて説明します。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51297	A	脱植民地主義的フェミニズム ／クィア研究	福永 玄弥	教養教育高度化機構	金 4	2	1年 文科 理科 2年 文科 理科
授業の目標概要 本講義では、「脱植民地主義的フェミニズム／クィア研究」をテーマに、主に東アジアの地域を念頭に置いた関連の学術論文を講読し、脱植民地化プロジェクトへの批判的参与を促すことを目的とする。 東アジアにおいては、19世紀から20世紀にかけて、伝統的な華夷秩序が崩れ、「大東亜共栄圏」へと国際秩序が再編された。その中で、日本は帝国化を進め、北海道や沖縄、朝鮮半島、台湾といった地域に対する植民地支配をとおりて、これらの地を近代化のプロセスへと巻き込んだ。この過程において、「性の政治」は日本の帝国主義および植民地主義のプロジェクトにおいて極めて重要な位置を占めていた。 1990年代、グローバル冷戦の終焉以降、かつて植民地支配を受けた諸地域では、脱植民地化をめぐる議論が活発化した。一方で、敗戦後の日本は、脱帝国化を十分に果たすことなく、こうした議論に応答する言説や運動を欠いたまま、歴史修正主義の台頭を許してきた。 本講義では、(脱)植民地主義および(脱)植民地化の諸相を、ジェンダーやセクシュアリティの観点から批判的に検討する。受講生は、これらの議論を通して、脱植民地化のプロジェクトに自らの立場から参与するための視座を獲得することを目指す。 成績評価方法 授業に対する貢献度（発表やディスカッションへの参加）を総合して評価する。 教科書 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51298	A	「ダイバーシティ／Diversity & Inclusion」再考	福永 玄弥	教養教育高度化機構	金 3	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 【授業の概要】 近年、経済や政治や文化といったさまざまな領域で「ダイバーシティ／Diversity & Inclusion／Diversity, Equity & Inclusion」が関心を集めている。日本では 2010 年代以降、「ダイバーシティ」言説の広がりとともにそれを推進する取り組みが注目を集め、企業では女性や性的マイノリティをはじめとするマイノリティの「活用」が「ダイバーシティ・マネジメント」や「D&I」「DEI」というスローガンのもとで進められている。行政や自治体でも、いわゆる「同性パートナーシップ条例」の制定や、防災・減災活動におけるマイノリティ視点の導入といった施策が「ダイバーシティ」言説によって正当化されている。東京大学も 2022 年に「ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を公開し、2023 年 4 月には教養学部に D&I 関連授業とセーフアーススペース（KOSS）を提供する「Diversity & Inclusion 部門」を設置した。 「ダイバーシティ」の取り組みは、国連が推進してきた SDGs や、近年のフェミニズムや性的マイノリティ運動、障害者運動、反レイシズム運動といったマイノリティの社会運動に対する関心の高まりとも親和性が高いように見える。しかし、そもそも「多様性を包摂すること（Diversity & Inclusion）」は、国家や組織に対していかなる変化をもたらすプロジェクトなのだろうか。 もとより「包摂」と「排除」は表裏一体で、メンバーシップの境界設定をめぐる政治である以上、包摂されるメンバーシップには臨界点がある。とするならば、どのような政治力学によって特定のメンバーが歓迎すべき人として包摂され、あるいは歓迎されないヒトとして排除されるのか。およそあらゆる組織にはさまざまなマイノリティが「すでにいる／た」はずだが、かれらは「包摂」されていなかったのだろうか。とするならば、どのような意味においてそういえるのか。D&I のプロジェクトは、このような困難や難題といかに向き合ってきたのだろうか。 【目標】 この授業では「ダイバーシティ／D&I／DEI」言説をラディカルに考える／考え直すことを目標とする。そのために、そもそも「差別」とはいかなる現象なのか、どのように解消することができるのか／できないのかを、多様なマイノリティの歴史的・理論的実践から検討する。そのうえで、近年の「ダイバーシティ」をめぐる言説を批判的に読み解き、社会正義を実現するアプローチとしてのダイバーシティを模索する。 成績評価方法 授業に対する貢献度（発表やディスカッションへの参加）を総合して評価する。 教科書 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51299	A	サイバーフェミニズム	飯田 麻結	教養教育高度化機構	火 3	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		サイバーフェミニズムの歴史的な隆盛とその代表的な作品・プラットフォームを参照した上で、 https://cyberfeminismindex.com/ に掲載された文献を中心に、デジタル・テクノロジーとジェンダー、セクシュアリティに 関する多角的な視点を獲得することを目的とする。その上で、同時代的な科学技術が身体に関する理解をどのように変 容させているのか、具体的な事例とともに批判的に考察する力を身に着けることが望ましい。					
成績評価方法		出席、ディスカッションへの貢献、授業内での発表(15 分程度)、期末レポートに基づき総合的に判断する。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51300	A	フェミニスト／クィア障害学	清水 晶子、 井芹 真紀子	教養教育高度化機構	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51303	A	ブランドデザインスタジオ 34 「恋」をブランドデザインする	真船 文隆、 山上 揚平	教養教育高度化機構	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		本プログラムは、東京大学教養学部と博報堂生活者発想技術研究所が連携し、「21KOMCEE」を舞台に『正解のない問いに、共に挑む』特別教育プログラムです。多様なチームで連携しながら、広告会社社員・ブランドコンサルタントのファシリテーションのもと、ワークショップ形式で「共創」の手法（思考法やグループワーク、各種スキル）を実践的に学びます。 今期の授業のテーマは『「恋」をブランドデザインする』です。 古今東西、「恋」に関する書物は数多く存在します。日本では『万葉集』や『源氏物語』、古代ローマではオウィディウスの『恋の技法（アルス・アマトリア）』など、古くから人は「恋」を語り、その登場人物の心情には、現代の私たちが読んでも深く共感できるものが多いあります。 一方で、「恋」にまつわる経験は、決して「どの時代でも同じ」ものではありません。顔を合わせられない二人の距離を縮めるものが、かつては「和歌」であり、現代では「SNS」や「マッチングアプリ」であるように、ツールやメディアもまた恋愛観に影響を与えてきました。ただ、写真やプロフィールしか知らない相手と最初に言葉を交わす現代の体験は、顔も知らぬまま和歌を贈り合った平安時代の恋愛に、どこか通じるものがあるのかもしれない。あるいは、ロマン主義以前のヨーロッパでは「理性を脅かす狂気」として、人を破滅に導くものとして描かれたこともあります。「恋」の経験は決して個人的な感情だけでは片づけられず、その時代の社会制度や価値観を反映し、変化してきたものといえるでしょう。 さて、ひるがえって現代、「恋」の経験はどんなものに変化しているのでしょうか。博報堂生活総合研究所の調査では、約30年前と比較し、「今欲しいもの」に「恋人」を挙げる割合は低下しています。また、他者に恋愛感情を抱かない、あるいは抱きたくない登場人物のドラマにも多くの共感が寄せられました。一方で、アイドルやキャラクターに対する「ガチ恋」や、音楽や映画に「恋する」など、「恋」という単語の使われ方は多様になっています。現代は、恋をするものも自由であり、またその対象も人間には限らない、「恋」の経験が非常に多様で豊かな時代と言えるでしょう。 この時代において、「恋」とは一体何なのでしょう？ この授業では、個人の感情でありながら、強く時代の影響を受け、変容し続ける「恋」について深く思索していきたいと思います。そして、その探求をもとに、人々を豊かにし、真のつながりを育む製品やサービスを具体的に構想いただき、新しい「ブランド」として提案していただきます。 なお、テーマを鑑み、本授業（ワークショップ）では、参加するメンバーの誰もが「何を言ってもいい」「ほかの人（の発言・意見）に否定的な態度をとらない」「ワークショップで話されたことは、（本人の許諾がないかぎり）他の場では口外しない」ことをグラウンド・ルールとします。 詳しくは10月8日（木）17:30～開催されるガイダンス兼体験ワークショップで説明します。関心を持っていただける方は、ぜひご参加ください。					
成績評価方法		全ての授業への参加を前提に、個人ワークの提出内容、グループワークへの貢献、最終プレゼンテーション内容により評価します。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51305	A	ミューオンを知ろう	松本 悠	教養教育高度化機構	月 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		ミューオン、あるいは素粒子と聞くと何やら難しい感じがするかもしれません。確かに、きちんと理論を勉強するには、基礎知識が必要です。しかし“素粒子”は、非常に身近な存在です。そこで、この授業では、理論的な背景はある程度割愛して（希望があれば説明します）、素粒子の種類や性質、相互作用といった観測事実を基に、どのように分類できるのかを自ら考えながら理解してもらいます。 そして簡単な実験装置を使い、宇宙から飛来する素粒子、ミューオンを観測し、その実験結果から何が分かるか、考えてもらいます。ただ装置を使ってデータを解析するだけではなく、実験装置自体に改良を加えて、独自の観点から実験計画・実施し、検証をするという素粒子物理実験の、簡単な体験をしてもらいたいと思います。					
成績評価方法		出席点を基本とします。その上に、題材への取組姿勢や、グループワークへの積極性、プレゼンテーションおよびレポートの内容を評価に加えます。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51306	A	STEAM 教育の実践～物理と アートの実験教室～	松本 悠	教養教育高度化機構	金 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		皆さんは、教える側に立ったことがあるでしょうか？友達に授業でわからないところを教えた、弟や妹の勉強を見てあげた、あるいは親にパソコンの使い方を教えてあげた、など色々あると思います。これらは知識や技術をピンポイントに効率よく伝えられますね。家庭教師や塾講師で授業した場合は？じっくり時間をかけて問題の解き方や考え方を教えられますね。ではさらに、最近増えてきた「実験教室」では、何を教えられる（伝えられる）でしょうか？「実験教室」ならではの、伝える内容・深さ・効率（効果）があります。それを議論し、目的を達成できそうな教材開発・授業計画を行い、実践し、検証するのがこの授業の目標です。 「実験教室」の内容は、科学は基本的に物理系で進めたいと思いますが、話し合って生物・化学系でも良いかと思います。一方で STEAM の”アート”は、根底にはリベラルアーツという意味の教養ですが、何を教養としてフォーカスするかはその都度目的を設定していかなければなりません。非認知能力の強化や、まさに芸術としての自己表現を取り入れた STEAM 教育になればと考えています。 実践の場は、埼玉県のとある地域の一般市民向け実験教室で、対象は小学生、日時は 1 1 月、1 2 月、2 月の日曜です。必須ではありませんが、極力 1 回は参加するようにしてください。詳細は授業でお話します。 サークルでも「実験教室」活動を精力的に行っているところもあり、実験教室で教える側に立った方もいるかと思います。それぞれの活動場所で、それぞれの目的があると思いますが、皆さんの知見を合わせ、さまざまな視点から実験教室を組み立てていきたいと思います。					
成績評価方法		出席点を基本とします。その上に、題材への取組姿勢や、グループワークへの積極性、プレゼンテーションおよびレポートの内容を評価に加えます。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51307	A	University of Tokyo – Accenture "Hack the Future: Provoke, Imagine, Impact"	高橋 史子	教養教育高度化機構	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		Overview Look around you. There are probably things in your daily life that make you think, "Why does this still work this way?"—or, "I wish things looked different." The world isn't going to change by itself. This seminar is about developing the confidence to see what needs to change, design a better version, and make it happen. Now, generative AI can answer almost anything you throw at it—and what felt impossible a few months ago keeps becoming possible faster than anyone expected. That raises a genuinely hard question: what's left for us to do? One answer: the things that still take a human. Getting to the heart of the problem. Designing a smarter fix. Bringing the right people on board. That takes both logic and gut instinct—and the only way to build either is by doing the work by yourself. That's what this seminar is built around. You'll tackle problems you've never thought about before, look at them from angles you haven't tried, and work your way to answers that are genuinely your own. You'll get sharp feedback along the way, and finish by pitching your ideas directly to professionals with real-business experience. Accenture works with organizations all over the world to solve complex, high-stakes problems—and we know firsthand what it takes to drive meaningful change. In this seminar, Accenture consultants will guide you through the process—sharing frameworks, offering feedback at key moments, and helping you find your own path from problem to solution to pitch. No prior experience required. Just bring your curiosity—and your appetite to hack. Expected outcomes -From the lectures on various themes, understand the situations of the “companies” that you may interact daily. Learn new techniques to investigate the situation. -Deepen your thinking through discussion with your teammates. -Get trained to define your own “guiding questions” and find answers for each. Examples of the “guiding questions”: •How can I reduce the waiting time at a store I frequently visit? •How can I encourage people who don’t usually go to the movies to want to visit theaters regularly? •How can I make makeup more enjoyable and accessible for men? •How can I express our reactions in Zoom meetings in a way that feels as natural as face-to-face conversations? •How can I make crowded train commutes more enjoyable? •How can I make the experience of waiting for trains at Komaba-Todaimae Station more comfortable, without reducing the number of users? -Learn techniques to tell a convincing story to gain understanding from the audience. -Understand skills and approaches required to accomplish the task when working as a team with diversity.					
成績評価方法		Self-reflection form (80%) -It is required to submit a filled form after the end of each lesson. -You should reflect on what you learned each week. You may also share your questions or thoughts. -Attendance of the lesson is only recognized if the form is submitted. Final presentation (20%) -Each student will make presentations on either Week 12 or 13. -Each will identify a problem related to themselves that they wish to resolve. -Lecturer (10%) and Accenture (10%) will determine the points. Evaluation points -Is the presentation following the standard format and including all the topics to be covered? -Was the story logical and convincing? -Is the time managed well?					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51308	A	駒場で「食」を考える	岡田 晃枝	教養教育高度化機構	金 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		この授業は身近な野菜の問題からスマート農業、そして海外の食品市場のことまで、「食」をキーワードとして文系・理系の枠を超えて学び合い、議論しあう授業である。最終的に、学んだ内容を活かし、グループで政策提言をまとめて発表してもらう。農業政策に関わる実務家をゲストに迎え、コメ、野菜、農村振興など多岐にわたる 이슈について、多角的な視点から検討する。					
成績評価方法		授業へのコミットメントと課題によって評価する。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51310	A	茶わんの湯からホリスティックに科学を考える 科学・文化・感覚をつなぐ眼差しのトレーニング Lessons from a Tea Cup: Toward a Holistic View Connecting Science, Culture, and the Senses	鹿島 勲、 堀 まゆみ	教養教育高度化機構	木 3	2	1年 文科 理科 2年 文科 理科
授業の目標概要 時間と空間を超越、普遍性を追求、多様性を受け入れ 学問分野を自由に横断する、日常生活の中にある茶碗から 私たちのホリスティックな挑戦 Transcending time and space, pursuing universality, and embracing diversity, freely traversing academic disciplines, beginning with a teacup in everyday life, our holistic challenge continues. 普段は意識しない、何の変哲もない茶わんと湯。物理学者・寺田寅彦の名随筆「茶碗の湯」を起点に、素朴な疑問を大切にしながら、身近なものごとに潜む本質を、授業内の作業や実験を通じて科学的・多面的に考察します。多様な要素を相互につなぎ、全体として理解しようとする視点、学際的に知をつなぎ、知性と感性のバランスを意識し、多面的な気づきを育む視点、すなわち「ホリスティック（全体的・統合的）な視点」を重視します。加えて、観察・実験・交流を通して、寺田寅彦の思考（身近な事象の本質を見抜く眼差し）を養うことが本ゼミの主目的です。 【到達目標】 1. 身近な事象から自分の問いを立て、観察・実験にもとづいて自分の言葉で説明できる。 2. 一つの対象を科学・技術・文化・歴史など複数の視点から記述し、それらに関連づけてホリスティックに論じる。 3. 生成 AI を活用したハイブリッド執筆・評価のプロセスを記録し、自分なりの活用方法を設計・説明できる。 4. 他者（クラスメート・ゲスト・学外協力者・AI）の視点からのフィードバックを受け止め、自分のエッセイと問いを更新できる。 5. このような取り組み、交流と時間の過ごし方を楽しむ余裕を持つ。 【授業構成】 オブジェクト・ベース・ラーニング（Object-Based Learning）のスタイルで進めます。身近な「モノ」や「現象」を Slow Looking（時間をかけてじっくり観察すること）から始め、そこから展開するストーリーを通じて分析・探究を行い、対象を変えながら学びを深め、各自が自分の問いを探します。今シーズンは、湯・光・水・茶から茶碗、そして石やコトバへと対象を広げ、参加者は自分のエッセイの執筆準備をしつつ、ゲスト講師の眼差しに触れながら授業は進行します。 【ゲスト講師】（敬称略・順不同） 登壇日はガイダンスで発表 片岡弘樹（ノリタケ株式会社） 「茶碗と科学」：ものづくり・器・セラミックス・歴史・社会・文化 ・芸術 * 2015 年から今シーズンで 12 回目！全ての授業「茶わんの湯」に登壇 堀まゆみ（教養学部附属教養教育高度化機構 EX 部門） 「茶わんの湯」から水環境を考える * 環境分析化学、本授業の担当教員 鳥井寿夫（東京大学総合文化研究科広域科学専攻 関連基礎科学系、物理部会） 「液滴の魔術：ニュートンの虹と現代光科学」 * 2015 年授業「茶わんの湯」立ち上げメンバー							

トム・ガリー（東京大学グローバル教育センター）
言語教育、辞書学、翻訳論
*2015 年授業「茶わんの湯」立ち上げメンバー
館野繁彦（タテノイト、地球惑星科学者保育士）
「何の変哲もない石が語る 46 億年」地球科学の視点
*新規メンバー

Shigehiko Tateno et al. The Structure of Iron in Earth's Inner Core. Science, 330(6002): 359-361, 2010.
【備考】

エッセイ・ルーブリックの執筆も授業時間内に行います。宿題は基本的にありません。
テキスト入力・ネット接続が可能な端末をご持参ください。

【問い合わせ】

kashima+Lesson_from_Teacup@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
===EN===

An ordinary teacup and hot water — things we rarely stop to notice. Starting from physicist Torahiko Terada's essay "Lesson from a Tea Cup/Chawan-no-yu/ちやわんのゆ/茶碗の湯", we look closely at everyday things and explore the essence hidden in them through hands-on work and experiments. The course values a holistic view: connecting knowledge across fields, balancing intellect and sensitivity, and nurturing many-sided awareness. Our main aim is to cultivate Terada's way of seeing — perceiving the essence of familiar things — through observation, experiment, and exchange.

[Learning Objectives]

1. Raise their own questions about everyday things and explain them in their own words, based on observation and experiment
2. Describe one object from several viewpoints — science, technology, culture, history — and connect them into a holistic account
3. Record their own process of AI-assisted writing and evaluation, and design and explain how they use these tools
4. Take in feedback from others (classmates, guests, outside collaborators, AI) and revise their essay and questions
5. Keep enough room to enjoy the work, the exchange, and the time spent together

[Structure]

The course runs in an *Object-Based Learning* style. We begin with *Slow Looking*, taking time to observe familiar objects and phenomena closely, then move through analysis and inquiry, changing subjects as we go, while each person searches for their own question. This season we widen our focus from hot water, light, water, and tea to the teacup, and further to stone and words, guided along the way by our guest speakers.

[Guests] Lessons from:

Hiroki Kataoka (Noritake Co.) #ceramics

Mayumi Hori (environmental chemistry) #water

Toshio Torii (physics) #light

Tom Gally (language, translation) #words

Shigehiko Tateno (Tatenoito, Earth and Planetary Science) #stone

[Notes]

Essay and rubric writing are done in class. There is generally no homework. Please bring a device with text input and internet access.

Contact: kashima+Lesson_from_Teacup@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

80 点以上で合格。点数化そのものを目的とせず、ホリスティックな学びのプロセスを評価します。

項目（点）

課題への回答・提出、グループワークへの参加（40 点／到達目標 1・2）
ルーブリック・キューブ・エッセイのプロセス提出（40 点／到達目標 2・3）
クラス内フィードバックへの参加（20 点／到達目標 4）

合計 100

*エッセイは、クラス内での相互評価に加え、生成 AI と人によるハイブリッド評価や、世代・専門を越えた学外協力者による評価など、多様な視点を取り入れる企画を予定しています（内容は変更の可能性あり）。

===EN===

Pass: 80% or above. Scoring itself is not the goal; we value the holistic process of learning.

Items (points):

Answering and submitting tasks, and taking part in group work (40 / Objectives 1 & 2)

Submitting the Rubric Cube and essay process (40 / Objectives 2 & 3)

Taking part in in-class feedback (20 / Objective 4)

Total: 100

Essays may be assessed through several perspectives — peer review in class, hybrid human-and-AI evaluation, and evaluation by outside collaborators across generations and fields (details may change).

教科書は使用しない。／Will not use textbook

第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time

成績評価方法

教科書
ガイダンス

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51314	A	生活誌聞き書きフィールドワーク実習@高知	白 佐立	教養教育高度化機構	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に留意すること。 高知の職人や日曜市に店を出す人びとのライフストーリー、そしてものづくりや商いに込められた思考を聞き取るとともに、彼らの暮らしに密着するフィールドワークを通して、ミニマガジン（ZINE）の制作と聞き書きルポタージュの執筆に取り組んでもらいます。 高知は、とても不思議な場所です。経済統計の上では、決して上位に位置する地域ではありません。人によっては「なにもない田舎」と思うかもしれません。 けれど実際に足を運ぶと、「なにもない田舎」にしかないこと・もの・人に、いくつも出会うことになります。 300年以上続く日曜の定期市では、約300の店が軒を連ね、前日に収穫された農産物や手づくりの加工食品が、行き交う人でにぎわう通りにずらりと並びます。港近くの海産物加工場の直売所には、数時間前に水揚げされたばかりのドロメが並びます。山あいの小さな工房では、炭とかまどを使った昔ながらの製法で、1日70丁だけの豆腐が今も丁寧に作られ続けています。県外に展開していない地元の飲食店の多くは、それぞれ独自のコンセプトをもち、個性的な空間とゆったりとした時間のなかで料理を提供しています。そして海辺に並ぶビニールハウスでは、真夏の日中には80度にもなる過酷な環境のなか、鋭くも優しいまなざしで塩と向き合う「塩杜氏（しおとうじ）」が、塩なのに甘い不思議な塩を生み出しています。 高知でしか出会えないものには、たしかな「エネルギー」が宿っています。このエネルギーの正体は何なのか。それを生み出している人びとは、どのような人生を歩み、どのように今の暮らしを築いてきたのか。 ただし、この「エネルギー」ということば自体、外から来た者が驚きとともにつけた仮の名前にすぎません。現地で暮らす人びとにとって、それは特別なことでも何でもない、ただの日々かもしれない。自分が持ってきたこの枠組みを疑い、出会った人びとのことばに触れながら、自分自身のことばへと置き換えていく。それが、この研修の重要な作業になります。 この研修では、高知の「ふつうの暮らし」に流れる時間を体感し、そこで生きる人びとの声に耳を傾けます。ただ話を聞くだけでなく、彼らと時間をともにし、その生活のリズムのなかに入り込んでいきます。 そのうえで、2つのアウトプットに取り組んでもらいます。 ① チームでミニマガジン（ZINE）を企画・制作する ② 個人でルポタージュを執筆する フィールドワークで出会った人びとの声を、あなた自身の視点とことばで形にする。「観光」ではなく「記録」と「対話」を通して、高知のリアルを掘り起こしていきます。 なお、人の語りを聞き、記録し、それを作品として外に出すという行為には、相応の責任がともないます。本研修では、聞き取りと撮影にあたっての事前の同意、記録の取り扱い、そして書いたものを公開する前に本人に読んでもらうことを含め、記録する者としての手続きを重視します。具体的な作法については事前講義で扱います。 【ガイダンス】 ・日時：2026年10月9日（金）12:20～12:50 ・場所：国際教育研究棟（KIBER）314教室 ・受講人数は10名程度とし、履修希望者が多い場合はレポートによる選抜を行う。レポートの課題、字数、提出方法および期限は、ガイダンスで説明する。 * 授業計画・方法についてはガイダンス時に説明する。 * 駒場キャンパスから現地までの往復交通費および現地での宿泊費の一部は、大学が負担する場合がある。自己負担額の概算は、ガイダンスで提示する。 * 南京大学短期留学生の参加可否を含む1回目フィールドワークの実施体制については、確定次第LAPウェブサイトで告知する。 * 講義に関する最新情報はLAPウェブサイト（http://www.lap.c.u-tokyo.ac.jp/ja/）を参照すること。問い合わせも同サイトの問い合わせ欄から行うこと。 【開講・作業期間】 ・単位取得には、ガイダンス、事前講義（対面）、2回のフィールドワークすべてへの参加と、フィールドワークの成果							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51315	A	生活誌聞き書きフィールドワーク実習@南京	白 佐立	教養教育高度化機構	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【授業概要】 本研修は、中国・南京で暮らす人びとの仕事や生活について、現地での観察と聞き取りを行い、その経験を「生活誌の聞き書き」として記録するフィールドワーク型の授業です。 南京は、長い歴史をもつ都市であると同時に、急速な都市開発や社会の変化が進む現代都市でもあります。市場や商店、屋台、集合住宅、地域に根ざした小規模な店舗など、日常生活のさまざまな現場を訪れ、そこで働き、暮らす人びとの対話を重ねます。 一人ひとりとは、どのような経緯で現在の仕事や暮らしを選び、南京という都市の変化をどのように経験してきたのでしょうか。また、家族、仕事、地域社会との関係のなかで、どのような価値観や生活のあり方を築いてきたのでしょうか。本研修では、こうした問いをもとに、南京大学の学生と本学の履修者がチームを組み、調査テーマの設定、調査対象の検討、聞き取り項目の作成、現地調査、記録の整理と執筆に共同で取り組みます。 ただし、南京大学の学生との共同活動および南京での現地研修の実施については、現在の国際情勢ならびに両大学の調整状況を踏まえて決定します。国際情勢および相手校との調整状況により、南京大学の協力を得ることが困難となった場合には、フィールドワークの内容を変更することがある。その場合も、可能な限り現地への派遣を行う方針である。 【授業の方法】 本研修では、教員があらかじめ用意した調査課題を履修者が遂行するのではなく、調査の問いを立てる段階から、履修者自身が研修の内容を構想します。 南京大学の学生とのオンラインミーティングや担当教員によるチュートリアルを通して、次の事項を検討します。 ・南京でどのようなテーマを調査するか ・どのような場所を訪れ、誰に話を聞くか ・相手との関係をどのように築くか ・どのような質問を設定するか 履修者には、調査を自ら構想する企画力に加え、異なる文化的・言語的背景をもつ学生と協働しながら、計画を具体化していく行動力と調整力が求められます。 現地では、人びとの仕事や暮らしの場を訪れ、観察と対話を重ねます。短時間のインタビューだけで相手を理解したと考えるのではなく、語られた内容がどのような経験や社会的背景と結びついているのかを検討します。また、調査する側である自分自身の立場や先入観についても振り返ります。 なお、中国語の運用能力は履修の要件としません。現地での聞き取りにあたっては、南京大学の学生が言語面での協力をしてくれます。 本研修を通して、次の力を身につけることを目標とします。 ・フィールドワークの問いを設定し、調査を計画する力 ・インタビュー、参与観察、フィールドノート作成の基礎的な方法 ・異なる文化的背景をもつ人びとと対話し、協働する力 ・他者の語りを整理し、文脈を踏まえて文章化する力 ・他者の人生や生活を記録し、発信する際の倫理について考える力 【ガイダンス】 ・日時：2026 年 10 月 16 日（金）12：20～50 ・場所：国際教育研究棟（KIBER）314 教室 ※受講者数は 10～15 名程度を予定している。履修希望者が多い場合は、レポートによる選抜を行う。 ※授業計画、選抜方法、研修の実施方法などの詳細は、ガイダンス時に説明する。 ※原則として、ガイダンス、事前講義、南京大学の学生との合同ミーティングおよび現地研修の全日程に参加できることを履修条件とする。 ※駒場キャンパスから南京までの往復交通費および現地での活動費の一部を、大学が補助する予定である。補助の対象、自己負担額その他の費用については、ガイダンス時に説明する。 ※海外渡航に必要な旅券、査証その他の手続きについては、大学からの案内に従い、履修者自身が所定の期限までに行う必要がある。 ※国際情勢、渡航安全情報、感染症の流行、両大学の事情その他のやむを得ない理由により、日程、実施方法、訪問先などを変更することがある。 ※授業に関する最新情報は LAP ウェブサイトを参照すること。問い合わせも、LAP ウェブサイトの問い合わせフォームから行うこと。							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51316	A	中国社会文化研修～深思北京 2026	原 和之、朱 芸綺	教養教育高度化機構	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。北京だけを見て、中国全体を理解することはできません。しかし、北京という一つの都市を深く見つめることは、中国社会の複雑さや多様性を考える重要な入口になります。 北京には、長い歴史と現代の政治・経済・文化が幾重にも重なっています。中国各地、さらには世界各地から多くの人びとが集まり、首都としての大きな制度が動く一方で、そこには北京ならではの空気、生活のリズム、そして、この都市で暮らす人びとが培ってきた知恵があります。 本授業では、北京を単なる「中国の縮図」として捉えるのではなく、一つの固有な都市として丁寧に観察します。学生自身が「何を見るのか」「どのように見るのか」「そこから何を考えるのか」を問いながら、対話、観察、記録、共同研究に取り組みます。 授業名にある「深思北京」とは、北京について多くの知識を得ることだけを意味しません。目の前の人や出来事をすぐに理解したつもりにならず、先入観をいったん脇に置き、自分自身のものの見方まで問い直すことを意味します。 本授業では、日中の学生による混成チームを編成し、学生主体の自由研究を研修の中心に据える予定です。あらかじめ用意された答えを再確認するのではなく、自ら問いを立て、実際に歩き、話を聞き、観察し、考えることが求められます。 現在、提携先の大学における学生交流、ワークショップ、家庭訪問等を実施する方向で調整しています。社会・文化関連機関等への訪問についても検討していますが、国際情勢、渡航条件、受入先との調整状況により、実施内容や形式が変更される可能性があります。 この授業を通じて、以下の力を身につけることを目標とします。 ・都市や社会を、既存のイメージだけに頼らず、多角的に観察する力 ・自ら問いを立て、観察や対話を通じて考察を深める力 ・異なる言語的・文化的背景を持つ相手と協働する力 ・不確実な状況のなかで、自分で判断し、行動する力 ・他者との出会いを通じて、自らの価値観や社会の見方を問い直す力 語学力や中国に関する知識の多さだけが、この授業への参加条件ではありません。知らない環境に一步踏み出し、自分の目で確かめ、他者とともに考えてみたいという意欲を重視します。 【注意】 この授業は、開講日程および参加者選抜の都合上、通常の授業とは参加申込方法が異なります。履修を希望する学生は、必ず「関連ホームページ」に掲載される案内を確認してください。 【使用言語】 中国語・英語・日本語の使用を想定していますが、3言語すべてを使用できることが求められるわけではありません。自分と相手の言語能力に応じて、使用する言語や伝え方を柔軟に工夫しながら、意思疎通を図ってください。語彙や文法の正確さだけでなく、相手を理解しようとする姿勢と、伝えるための工夫を重視します。							

全学自由研究ゼミナール

成績評価方法	研修中のパフォーマンスと研修後提出課題を総合して評価する。
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
	特になし
ガイダンス	特に行わない。／Will not conduct guidance

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51317	A	災害復興と法・社会	米村 滋人、 清水 亮	法学部	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		日本は世界有数の災害大国であり、地震・津波・火山噴火・台風・集中豪雨等による被害が頻繁に発生している。災害の発生後に問題となるのが、被災者・被災地域の復興である。復興支援は行政（政府や関係自治体）によっても担われるが、近年は、ボランティア活動や各種非営利活動等の民間の支援活動が重要な役割を担っている。この授業では、東日本大震災や能登半島地震などの実例を素材として、災害復興の現状と課題を知り、復興に向けた活動の意義やそのあり方を考えることを目的とする。同時に、われわれ自身が有意義な復興支援に従事するためにはどうすれば良いかについても、議論を交わしたい。					
成績評価方法		平常点とレポートによる。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51318	A	ラテンアメリカ現代政治に触れる	馬場 香織	法学部	金 3	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		本演習では、民主主義、ポピュリズム、貧困・格差、組織犯罪、ジェンダーなど、ラテンアメリカ現代政治にまつわるさまざまなテーマについて、政治家の演説や統計資料、映像などを手掛かりに問題の所在を把握し、履修者同士の討論を通じて、地域各国の政治の現状と課題に関する理解を深めることを目標とする。ラテンアメリカに関する予備知識は前提としておらず、履修者が具体的な事例を入りに「ラテンアメリカのいま」に触れ、比較政治の視点から現象を分析的に捉える基礎的な力を習得することを目指す。					
成績評価方法		授業への積極的な参加によって評価する。					
教科書		事例に対する分析的視点、疑問点の提示、他者との対話から学びを深める態度など。					
ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51319	A	現代中国政治基礎	李 昊	法学部	水 4	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		本演習では、現代中国政治外交に関する日本語の研究書籍を講読します。担当者は本郷において、英語文献を購読する演習を開講していますが、その導入として想定しています。					
成績評価方法		議論への参加 100%					
教科書		授業中に指示をする。／Will specify at class time					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51325	A	『世界開発報告』を読む 2026A	森川 想	工学部	水 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		最新版の『世界開発報告』を会読します。開発を学ぶことは、先進国・途上国を問わず現代社会の課題を見つめることに直結すると担当者は考えています。報告そのものや、その根拠となっている文献をクリティカルに読み、議論することで、社会課題解決のために世界各国で行われているプラクティスの可能性や限界、科学技術（社会科学・自然科学）と公共政策の関係等について考え、見直す機会としていただければ幸いです。 ガイダンスは第一週に Zoom にて実施します。この日時に出席できない方は別途相談もできますのでその場合はメールでご連絡ください。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		議論への貢献 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51335	A	カーボンフリー社会のための 燃焼の科学	LEE MIN HYEOK、秋葉 貴 輝、鈴木 雄二	工学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		炎を使った料理が人類を人類たらしめたという説がある一方、最近では「モノを燃やすのは悪」という風潮が広まっています。「燃やす」という行為は必然的に環境に悪影響を与えるのでしょうか？本ゼミナールでは、カーボンフリー社会のための燃焼について講義と実験を通じて学びます。 近年、カーボンニュートラルの達成は緊急の課題となっていますが、国土が狭く平野の少ない日本では再生可能エネルギーで需要を全て賄うことは困難です。そのため、自然エネルギー由来の水素、あるいは水素の運び手としてのアンモニアをカーボンフリー燃料として海外から輸入し、火力発電所、工業プロセス、船舶などで燃焼させて用いるための取り組みが精力的に行われています。 本ゼミナールでは、国内外のエネルギー事情、カーボンフリー燃料の燃焼、宇宙における燃焼についての講義と、燃焼の先端計測の実験を通じて、将来のエネルギー変換でさらに重要性が増す水素、アンモニア燃料について学習します。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。 出席（全 3 回の出席が必須です）および発表会での評価 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51340	A	製品を分解してわかる環境問題	梅田 靖、三竹 祐 矢、木下 裕介	工学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		製品を開発する際に、環境への影響を配慮して製品を設計することは今や当たり前のことになりつつある。この講義では、製品使用後にリサイクルを容易にするための「リサイクル性設計」に焦点を当て、実際の製品（液晶テレビを予定）を分解しながら、どのような設計上の工夫がされているのかを観察するとともに、「リサイクル」の仕組みについて学ぶ。 ※このゼミは 10 月 2 日（金）（予定）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		講義中の積極性、レポートから総合的に判断する プリントを配布する。／Will distribute handouts 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51341	A	Building Robots Inspired from Nature	飯田 史也	工学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		This seminar introduces students to the fundamental principles of animal locomotion and explores how these concepts can inspire robotic design. Participants will study key mechanisms behind natural movement and apply this knowledge by constructing a simple robot. The hands-on project will allow students to analyze motion and understand the connection between biological systems and engineering solutions.					
		※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		Course attendance and final presentations. 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51342	A 1	The Value of Language - From Multilingualism to Technology (言語の価値 - 多言語主義から技術まで)	HAUTASAARI ARI MARKKU JUHANI	工学部	月 5	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		This seminar explores how language and language use creates and enables the exchange of value in the global society from the historical perspective to the 21st century digital era. We begin with an introduction to the history and philosophy of language, discuss how language shapes the way we think and interact, and how verbal and non-verbal communication influence how we perceive ourselves and other actors in our daily lives. We will then look at the role of language in the creation of economic and societal value, as well as explore the role of technological innovations, including machine translation, automated speech recognition and the Internet in general, that enable and enhance value creation through mediating and transforming language use. This seminar will also introduce guest speakers from the field of language training and linguistics.					
		※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法		Active participation / 出席・授業への積極的な参加					
		Final report / ファイナルレポート					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51345	A	化学システム工学の研究を体験しよう！	小畑 圭亮、高鍋 和広、岸本 史直、 HU PEIDONG、林 勇佑、 SIMANCAS COLOMA RAQUEL、竹本 晶紀、 山崎 友香理、杉山 弘和、脇原 徹	工学部	集中	2	1 年 理科
授業の目標概要		「環境・エネルギー・医療」を柱とする化学システム工学。本郷キャンパスの研究室に実際に入って、研究体験します。触媒化学とエネルギーの研究室（高鍋・小畑・岸本研）、環境浄化作用を持つ多孔性材料の研究室（脇原研）、そして医薬品の製造プロセス設計の研究室（杉山・Badr 研）が参加します。化学を基盤に、様々な知識をネットワーク状に組み合わせて、社会の実課題を解決し、あるべき姿を示す化学システム工学の真髄に触れます。					
		※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法		実習への参加により評価する。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51346	A	生体を化学システムとして捉えてみよう！	太田 誠一、 西川 昌輝	工学部	集中	2	1 年 理科
授業の目標概要		本ゼミナールは工学部の化学システム工学科の研究室の協力により実施する全学自由研究ゼミナールです。研究室において最先端の研究を体験し、化学・生命系分野に関する理解を深めてもらうことを目的としています。 原則教養学部 of 講義と重ならない日程、時間帯に各研究室に数人のグループで参加し、研究室の教員や大学院生の指導のもとに、ショートコースの研究プログラムにしたがって実験・研究を行います。実際にゼミを行う日程、時間帯は受講決定後、受講生と受け入れ研究室との相談により決定します（3~4 日間）。研究を体験できる貴重な機会ですので、多くの方の参加をお待ちしております。なお、この本ゼミは入門編ですので、高度な専門知識は必要ありません。対象クラスは 1 年 理科です。本講義を受講するためには、履修届提出のみではなく、別途申込が必要です。ガイダンスにて申込方法をアナウンスするので、必ずそれに従い申し込んで下さい。 【ガイダンス】 ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		実習への参加により評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51347	A	化学・生命系 3 学科 全学自由研究ゼミナール 化学生命工学科「分子の世界に飛び込もう：化学と生命の最前線に触れる」	正井 宏、西増 弘志、 川口 大輔、酒井 崇匡、 山東 信介	工学部	集中	2	1 年 理科
授業の目標概要		本ゼミナールは工学部の化学・生命系三学科(化学生命工学、応用化学、化学システム工学)の研究室の協力により実施する全学自由研究ゼミナールです。各研究室において最先端の研究を体験し、化学・生命系分野に関する理解を深めてもらうことを目的としています。 原則教養学部の講義と重ならない日程、時間帯に各研究室に数人のグループで参加し、研究室の教員や大学院生の指導のもとに、ショートコースの研究プログラムにしたがって実験・研究を行います。実際にゼミを行う日程、時間帯は受講決定後、受講生と受け入れ研究室との相談により決定します（3~4 日間）。研究現場、討論などを体験できる貴重な機会ですので、多くの方の参加をお待ちしております。なお、この本ゼミは入門編ですので、高度な専門知識は必要ありません。対象クラスは 1 年 理科です。 【注意】本講義を受講するためには、履修届提出のみではなく、別途申込が必要です。工学部合同説明会にて申込方法をアナウンスするので、必ずそれに従い申し込んで下さい。 ※開講日・具体的内容は、授業計画欄参照。 ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		実験等への参加により評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51376	A	「物理系のための複素幾何入門」を読む	高山 茂晴	理学部	月 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		普段の数学の講義とは幾分異なるアプローチで、やや進んだ複素幾何とよばれる分野に触れてみる。テキストには特に理論物理で必要となる数学の理論について書かれている。特徴としては、物理系の学生、研究者が必要な数学の知識を、見よう見まねではなく、少しはじっくり勉強してみようという動機、欲求を満たすように書かれている（らしい）。例えば、定義、定理、証明のように進むのではなく、使い方に重点をおいて「実践的な」仕方で読み進めることができる（らしい）。授業ではテキストの本题までは到達できないと思われるが、何かのきっかけになることを目標とする。授業担当者は複素幾何学を専門とする数学者である。物理の知識は全くない。					
成績評価方法		発表を中心とした授業への参加状況、およびレポート（発表のノート、スライド、その準備についてまとめたもの）により評価する。					
教科書		次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 秦泉寺雅夫 物理系のための複素幾何入門 サイエンス社 978-4-7819-9059-0					
ガイダンス		SGC ライブラリ 151 臨時別冊・数理科学 2019 年 7 月 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51377	A	深谷賢治著「双曲幾何」(岩波書店)を読む	小木曽 啓示	理学部	木 3	2	1 年 理科 2 年 理科
授業の目標概要		深谷賢治著「双曲幾何」を輪講形式でよみすすめることで、微分積分学や線形代数学で学んだことが、より進んだ幾何学において使われる様子を理解するとともに、セミナー形式で発表する経験を通じて、数学での発表能力を身に着ける。					
成績評価方法 教科書		出席と発表により評価します。人数によって発表回数が十分に確保できない場合にはレポート等の代替措置も考えます。 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 深谷賢治 双曲幾何 岩波書店 4-000006882-2					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51385	A 1	遊んで学ぶ！ゲノム育種ゲームでひもとく遺伝学とデータ科学	師田 郷太、 櫻井 建吾、岩田 洋佳	農学部	火 2	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		本授業では、シミュレーションゲームを通じて、ゲノム情報を活用した育種戦略や遺伝学・データサイエンスの応用を体験的に学ぶ。育種とは、優れた形質をもつ作物や家畜を選び出し、交配や選抜を通じて次世代へと受け継がせる営みであり、農業の根幹を支える重要な技術である。育種はこれまで、育種家の経験と観察によって大きく進められてきた。近年では、ゲノム情報という新たなデータを活用し、より効率的かつ高精度に選抜を行うゲノム育種が注目されている。新しい品種を開発するには、選抜個体、選抜強度、交配様式、交配組合せ、各形質に対する選抜の重みなど複雑な要因が絡み合う。本来、これらの要因の効果を定量化するには長期間の栽培試験が必要であるが、コンピュータシミュレーションを活用することで、効率的に育種戦略を探索でき、どの程度遺伝的に改良できるのかが予測できる。授業では、ゲノム情報を活用しながら選抜を行うゲノミック選抜を中心に、優れた品種改良戦略とは何かについて議論し、実際に設計・検討する。また、育種設計における最適化手法の有無がシミュレーション結果に及ぼす影響についても検討し、理論と実践の両面から理解を深める。 さらに、本授業を通して学生は以下のスキルを身につける。 1) ゲノム情報を利用した選抜戦略の立案力 2) 育種過程をモデル化し、最適化を考える力 3) シミュレーションデータの解析および結果解釈の力 4) データサイエンス的視点から農業課題を解決する応用力					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		本授業の成績は、出席、小レポート、最終レポートを総合的に評価して決定する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51388	A	日本は林業を放棄してよいのか A （自由自主の企画系ゼミ） —日本国民は国土面積の 2 5 %に 及ぶ人工林をどうするつもり？	鴨田 重裕	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科

授業の目標概要

【注意】この自由研究ゼミは、下敷きとなる体験ゼミで学んだことを社会に発信することを目的とします。発信の場として来年の五月祭に、企画を立ち上げていただきます。この企画の責任者になったり、責任者を強力にサポートしたりすることを乐しまいたい方向けのゼミであることを、初めにしっかりとお伝えしておきます。

この自由研究ゼミは発信するゼミです。

ゼミでは、「獣害問題とは何の問題か」と「日本は林業を放棄してよいのか」との二つの視点を提示しています。

これらの切り口で、実際に現場であなたが何を感じたか、どのようなことを考えたか。さらには、社会の理解が不十分なところは何であるか、どうしてその様な状態から脱却出来ないのかといったことについて、ご自身の考えや理解・変容について発信して、一般の来訪者の皆さまと問題意識を共有する場を作りましょう。

そのために現場に足を運んでインプットする機会を設定します。

日本は国土面積の 7 割近くが森林で覆われています。その 4 0 %に当たる 1, 0 0 0 万 ha が人工林です。人工林は管理をし続けないと、健全性を保つことができず、また、収穫し、再造林しなければ若返り（更新）が担保されません。それらを担うのが林業です。

つまり、林業がちゃんと回らなければ、人工林が若返る機会が生じることがなく、劣化が進んで破綻してしまうのです。

その林業を日本は放棄して良いのでしょうか？

林業を取り巻く環境は非常に厳しいものです。現在の日本において、林業には全方位に解決しなくてはならない問題があると言っても過言ではありません。林業従事者が少ない問題、森林所有者の問題（5 0 0 万 h a におよぶ森林が私有地であり、所有者の 3 / 4 は 5 h a 以下の小面積所有、そして所在不明案件が 1 0 万件に及ぶなどの問題）、獣害の問題、コストの問題（大型草本の問題や獣害の問題とも関係する）など、枚挙すれば切りがありません。

林業従事者は 5 万人に満たないというのが現状です。仮に 5 万人として、人工林の面積 1, 0 0 0 万 ha を 5 万人で割り算すると、従事者一人当たり 2 0 0 h a となります。仮に就業年数を 4 0 年とすると、従事者一人が毎年 5 ha（1 日当たりに換算すると 2 0 0 m 2 ほど）の森林を割り当てられる勘定になります。

そういった状況にある「林業」について考えてみたい、考える必要を感じる、重要なんだろうけどどこか他人ごとになってしまう、という普通の東大生に「皆で考える」場を提供するゼミにしたいと思っています。

それらについて、ただ考えるだけでなく、考えたことを交流させる「場」を本ゼミに実現させて、それを拡大して学園祭にも「場」を作り広げることを一つの具体的な目標とします。

そういった問題一つ一つへの理解と、社会全体に理解を広めることが、日本が林業を手放すという選択肢を選択しないために不可欠なことなのではないでしょうか。

企画系自由研究ゼミはこれまで、学園祭においてイノシシピザやイノシシソーセージの燻製を来訪者に提供する取り組みを通して、体験ゼミ「伊豆に学ぶ」で扱ったイノシシ被害の問題が南伊豆地域に存在していることを伝えてきました。

その活動を発展する形で、垣根を低く設定して林業についてじっくり考えて発信するゼミを立ち上げることにしました。

講義タイトルにはあえて「日本は林業を放棄してよいのか」と書きました。もちろん放棄してよいとは考えていません。現代社会は複雑であるがために、私たちを取り巻く様々な関係が希薄になっています。それがために、諸処において自分と対象物・対象事象との繋がりに実感が伴われにくくなっています。その結果、当事者意識が希薄になり、それが問題をさらに深刻化させているという、負のスパイラルが生じていると思われます。体験ゼミ「伊豆に学ぶ」「森に学ぶ」「秩父に学ぶ」ではこれらの気付きを得た学生さんが多数います。

ゼミ中に得たその「感覚」も、そのまま放置すると、あっという間に風化してしまいます。それは実にもったいないことです。

本自由研究ゼミナールは、体験ゼミ「伊豆に学ぶ」「森に学ぶ」「秩父に学ぶ」とは少し違う角度から本件について考察を深めていきたいと考えています。違う角度とは何か？このゼミナールでは自律的に企画することにより、体験ゼミとは違った視点得て、発信することを通して深く考える力や行動する力を涵養してもらいます。

この自由研究ゼミの目的は「林業問題」の解決に向け政策提案することではありません。政策提案することを目的としてしまうと、あたかもその提案によって解決できるかの如く話をまとめることを目指してしまう恐れがあります。また、提案として体裁が整っていることを重視しがちになります。聞きかじったことや、目立つ現象を結び付けて、理屈としては解決に向かうはずだという形式を整えることは、このゼミでは目指さないことにします。本ゼミでは形式を整えたり提案体験をしたりすることではなく、社会に伝えたいこと・伝えるべきことを自分の言葉で表現して伝えることを目的とします。表現の仕方は自由です。来訪者の皆さまの理解が深まるボードゲームを創作したという事例は、自由の象徴と言えるかもしれません。

複雑な問題に対して何とか「解（のようなもの）」を捻り出して政策提案することを目的とせずに、複雑な問題とじっくりと向き合い、自分の視点から感じたこと・考えたことを社会に向けて発信することを目的とします。既にいくつかの体験ゼミで気づきを得たあなたは、ゼミを通して自分の内に起こった「変容」を意識できていることでしょうか。ご自身の内に起こった変容こそが、発信の中核に値するものではないでしょうか。あなたの変容が社会が変容していく切っ掛けとして活用する、それもこのゼミが目指している学園祭における社会への発信の重要なテーマになると考えています。

繰り返しになりますが、このゼミでは五月祭・駒場祭に「獣害問題とは何の問題か」と来訪者の方々へ発信する企画を打ち出します。問題の本質が何であるのかを一緒に考えるきっかけを提供するのがこの企画の狙いです。来訪者に良いモノを提供する企画を立ち上げるゼミですが、もちろん、この企画体験を通して、もっとも実りが多いのはあなたご自身です（情けは人の為ならず的）。

学園祭企画を創作していきましょう。

※少し気になった方は、ガイダンス（初回講義）だけでもどうぞ。

全学自由研究ゼミナール

成績評価方法	※学園祭に自分たちの企画を出展することを本ゼミの最終目標とする
教科書	※企画への拠出金などは不要です。心配無用です。
ガイダンス	授業中の取り組み姿勢、企画立案および企画実行の取り組み姿勢、責任ある行動を重視する。
	教科書は使用しない。／Will not use textbook
	第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51400	A	教養として考えるデモクラシー・AI・ジェンダー・人間・動物	山本 浩司	経済学部	木 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		本ゼミの目標は、現代世界を大きく左右する政治・経済・科学・文化的事象について、文理の枠組みを超えて考え抜く教養的素養を身につける場の創出です。キーワードとして注目するのは、「デモクラシー・AI・ジェンダー・人間と動物」です。受講者の皆さんには、世界を覆い尽くした資本主義、目覚ましい速度で生活の隅々に浸潤する AI 関連イノベーション、「社会」の構成要素を根底から問い直すジェンダー・フェミニズム論、そしてそれらの背後にいる「人間」なる動物について、自分なりの分析視点を見つけ、意見を練り上げてもらいます。 答えのない大きな問いに向き合うための素材・土台として本ゼミが使うのが、英米圏の文芸記事やジャーナリズムです。特に、New York Review of Books や New Yorker など、定評の高い教養英文雑誌から記事を選び、精読を行います。開講する教員は歴史的アプローチを専門とする研究者です。世界をめぐる様々な問題とそれを分析する諸学問について、そして関連する事象・問題類型・分析方法・エビデンス生産などのあらゆる観点について、それぞれの成立背景や歴史をふまえ、時に俯瞰し、時に仔細に分析することになるでしょう。 本ゼミが目標とする研鑽の場の創出の主体となるのは、受講者の皆さんです。参加者には、毎週チームに分かれ、指定の記事について発表をしてもらいます。記事の内容についてはもちろん、文章の構成、一つの段落やセンテンスの持つ機能についても批判的に考えることで、分析的読み手としてのスキルを培っていただきます。授業時間中は、受講者の発表をベースにディスカッションを行います。学生間での議論をふまえ、担当教員からのフィードバックと対話も行います。このように、本ゼミでは受講者の議論や問題提起を起点として、ボトムアップで教員も議論に参加していきます。 具体的トピックを通じて文系・理系の諸学問をまたがる様々な理論や分析概念の特徴について学ぶきっかけがえられるのも、このゼミの大きな特徴となるでしょう。 授業時間外のグループワークを前提としますので、負担は決して軽くありません。しかし、文系理系の垣根を越えて最先端の英文記事と格闘しながら大きな問題に取り組む経験は、大学での進学選択はもちろん、その後のキャリアを考える上でも、替え難い機会となるはずです。 知的好奇心旺盛な学生の受講を歓迎します。					
成績評価方法		プレゼンテーション・ディスカッションおよびリアクション・ペーパーをもとに評価を行います。					
教科書		授業中に指示をする。／Will specify at class time					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51401	A	現代中東基礎講座 II	鈴木 啓之	スルタン・カブール・グローバル中東研究寄付講座	金 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		【授業の目的】 この講義では、現代中東の諸相を横断的に学び、現代社会を理解するための基礎教養を身につけていきます。					
成績評価方法		【到達目標】 目標① 中東地域で起きた出来事について、具体例を 3 つ以上挙げて説明することができる。 目標② 中東地域での事象を事例として、自らの意見を述べるすることができる。 目標③ 関連する 3 点以上の言葉を、因果関係で結びつけて整理し、示すことができる。 目標④ 任意のテーマについて、関連するキーワードを 3 点以上用いて論述することができる。 目標⑤ 自らの関心に引きつけて、中東地域の具体的な事象を論じることができる。 目標⑥ 中東地域に関わる任意のテーマに関して、自ら参考文献を調べ、まとめることができる。					
教科書		・以下の 3 点の項目から評価します 1. エントリー得点（受講者得点です）（5 点：達成目標の①、②に対応） 2. ボーナス課題（各 10 点を加点：達成目標の③に対応） 3. 学期末プレゼン（45 点：達成目標の④、⑤、⑥に対応） ・上記を総合して以下の基準で評価します （合：50 以上、否：49 以下、#：評価なし） ・100 点満点ではないので、奇妙に見えるかもしれませんが、得点が 50 点を超えれば「合」、下回れば「不合」とします					
ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51402	A	異文化間能力・葛藤解決能力 養成実践講座ーケーススタデ ィと AS トレーニングを通し て学ぶー	園田 智子	国際交流センター	水 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		現代社会において、人々は国境や文化的背景を越えて日常的に接触し、協働する機会が急速に増加しています。こうした多文化的環境では、価値観や行動様式の違いに起因する摩擦や誤解、対立（＝異文化間コンフリクト）が生じることは避けられません。しかし、それらの衝突は「トラブル」ではなく、互いの文化理解を深め、共生への道を切り開く契機ともなり得ます。 本講義では、異文化間における対立の構造や原因、そしてその対処法について、異文化間コミュニケーション学の視点から、理論的知見と実践的スキルの両面を学びます。ケーススタディ、ロールプレイ、アサーション・トレーニング、さらには異文化の現場で活動するゲストスピーカーの講話などを通じて、異文化的状況下での対話力と問題解決力を高めることを目指します。 将来、国際的なフィールドでの活躍を目指す学生はもちろん、多様性に富む現代日本社会で他者と協働して生きていくすべての学生にとって、必須の素養となる「異文化間能力」を養う実践型の授業です。 本講義の具体的な目標は以下の通りです。 1. 異文化間の価値観やコミュニケーション様式の違いを理論と実例を通じて理解する 2. 異文化間で生じるコンフリクトの背景・構造・心理的要因を分析する力を身につける 3. 異文化状況において、自他を尊重しながら自己表現できるアサーティブな態度を育てる 4. ロールプレイ・実践演習・ゲスト講義などを通じ、現実世界の対立に対処する実践力を高める 5. 自分自身の文化的価値観を内省し、多様な立場を理解・尊重する姿勢を身につける					
成績評価方法		1. 講義ごとの小クイズ・リフレクションシートの提出（70%） 2. 個別・グループ発表（30%）					
教科書		プリントを配布する。／Will distribute handouts 久米昭元他 ケースで学ぶ異文化コミュニケーション 有斐閣選書 9784641281080 ※毎時資料を配布しますので、本を購入する必要はありません。					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51404	A	全学自由研究ゼミナール (地 球社会におけるリアリズムの 探求 II)	馬路 智仁	社会・社会思想史	金 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		この授業では、グローバル化した地球社会における今日の問題を論じた英文記事を分析し、議論を重ねることで、どのような分野に進もうともその基礎的体力となる、知識と情報分析能力、そして「自立した思考」の獲得を目指します。誰かの受け売りではなく、自分の目で見て、自分の頭で考え、自分の言葉で表現する能力（仮に「思考のリアリズム」と呼びます）を培うことが、本授業の最大の目的です。同時にこの授業では、 ● 現代的課題をめぐる英文記事の分析を通じて、この世界で何が起きているか、この世界はどのような方向に向かおうとしているかを知り、日本の位置を相対的に捉える視点を獲得すること、 ● 思考のリアリズムを培い、独立した個、そしてその表裏として、他者を正面から理解し協働する能力を養うこと、 ● 今後それぞれの進路においてリーダーシップを発揮する人材となるための知的体力を身に着けること、を目標とします。 なお本ゼミは、履修人数を 18 名前後に制限します。そのため選考を行いますので、「履修上の注意」を読んでください。 授業での報告・ディスカッション、論考を基に評価する。					
成績評価方法		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
教科書		特に行わない。／Will not conduct guidance					
ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51405	A	最先端の生命科学研究を 駒場で体験する /Experiencing cutting-edge life science research at Komaba	吉本 敬太郎、加納 純子、 晝間 敬、北西 卓磨、 野本 貴大、谷崎 祐太、 長谷部 政治、佐藤 守俊、 道上 達男	統合自然科学科	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いため留意すること。特に2年生は本科目の成績が進学選択が可能となる条件に含まれない見込みが高いため、履修にあたっては十分に注意すること。 教養学部後期課程（理系）・統合自然科学科の「統合生命科学コース」には、ライフサイエンス研究の若きトップランナーが集結し、生命科学のフロンティアを開拓しています。本ゼミの履修学生は、最先端の研究を展開している研究室に数名ずつ配属され、未解明の研究課題に実際に取り組んでもらいます。 研究の進め方は教員と相談して決めます。研究室によって曜限を指定する場合、指定しない場合、集中して行う場合があります。セメスターの最後に、履修者全員が参加して成果報告会を開催する予定です。 統合生命科学コースの特徴は、先端性と多様性である。准教授が独立した研究室を運営できるため、26もの研究室がある。その研究テーマは極めて多様であり、分子生物学や細胞生物学、植物生理学といった理学的な基礎研究から、神経科学、内分泌学といった医科学的な研究、そして、創薬などを目指した薬学・農学・工学的な研究まで多岐にわたる。ノーベル生理学・医学賞を受けたオートファジー研究が駒場で開始されたという事実が象徴するように、流行にとらわれない独創性の高い研究が行われている。実験や理論などのアプローチ法も多彩である。若き教員が柔軟な発想で、先端的でチャレンジングな研究テーマを選び、熱心に学生を指導するのみでなく、教員自らが現場に立って実験をしている研究室も多い。 生命科学およびその関連・融合分野に興味があり、新しい分野を切り拓きたいという熱い思いを持つ学生を歓迎する。また、文系から理系への転向を考えている学生も受講できる。教科書で学ぶことの先にある生命科学の最先端を体験して欲しい。 各研究室における研究活動への取り組み、成果報告会での発表をもとに評価します。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time							
成績評価方法							
教科書							
ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51406	A	表象文化論入門	竹峰 義和	表象文化論コース	火 2	2	1 年 文科 2 年 文科
授業の目標概要 本授業では、映画・写真・絵画・音楽・アニメーション・マンガ・テレビ・ファッション・政治・ファンダムなどにおける「表象」(representation)をめぐる問題について、表象文化論に関する基本文献を読みながら考察・議論することで、この学術分野の基本的な考え方や方法論を学ぶ。シニアの表象文化論コースを紹介する入門ゼミという位置づけ。							
成績評価方法		発表と授業への貢献度をもとに総合的に評価する。全学自由研究ゼミナールであるため、可否の判定しかしないことに注意されたい。					
教科書		プリントを配布する。／Will distribute handouts					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51407	A 1	新書で考える教育と社会	中村 高康	教育学部	月 1, 木 1	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 授業担当者の専門分野である教育社会学では、研究者たちによって学問的見識に基づく様々な社会発信が行なわれている。そうした社会発信の一つの手段である「新書」は初学者には格好のテキストとなる。そこでこのゼミナールでは、こうしたテキストを多数取り上げ、それに入門的な解説を加えつつ講読する。受講者全員で自由に議論を行うことで、学生諸君の教育と社会に関する知的好奇心喚起の一助となることを目指す。なお、例年は、受験勉強のために十分根付かなかった読書習慣を身につける目的で受講する者もいるので、そうした活用法もありうる。							
成績評価方法		成績は、授業参加度（報告＋出席）が中心となるが、簡単なレポートを提出してもらうこともある。それらを総合的に評価する。					
教科書		その他。／Other					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51412	A 1	核融合 -地上の太陽をめざして-	篠原 孝司、田辺 博士、 梶田 信、佐藤 雅彦、 齋藤 晴彦	新領域創成科学 研究科	月 5	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		持続可能な社会の重要な基盤の一つが、持続可能なエネルギー源である。人類社会が数千年単位で持続することを考えた時、既存のエネルギー源は、その燃料や供給源の観点から十分とは言えない。水素を燃料とする核融合はこの問題を克服できる。核融合は太陽で起きている反応で、まさに地上に太陽のエッセンスを実現しようというプロジェクトとも言える。本講義では、この核融合がどういうものであるのか、そして、その課題がどのようなもので、どのように研究が進められているのかを多角的に理解する。 なお、第一回目を含め、全て対面にて実施する。					
成績評価方法		レポート					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51415	A	作曲・指揮	伊東 乾	情報学環	火 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		担当者は本学理学部物理学科・理学系研究科に学んだが、幼時から学んだクラシック系統の音楽を職業として 20 世紀末年はテレビ番組「題名のない音楽会」芸術監督などで生計を立てながら音楽の脳認知で学位を取り、自然科学を正確に適用しつつ音楽を創り出す世界に類例のない研究室を解説して 28 年目になる。実技は東京藝術大学などで教えてきたが、音楽を専門としない本学学生にも、趣味道楽でなくこの専門と正面から向き合う方法を扱うようにしている。 作曲：長年私は「ハーモニーなどの音楽理論はヤマハなどで学んだほうが安価で丁寧」と、藝大で教えるような書法の講義やゼミは行ってこなかった。だが東大の残りも 4 年となり、また数理物理や脳認知の手法を活用する私自身の体系化で既存の和声を包摂する議論を構築しつつあることもあり、今期はそうした話題も扱おうかと考えている。私自身はポストセリエールの作曲家であるが、近年はそれを包含する響きの枠組みを情報幾何などの方法を用いて体系化する仕事もしている。 18 世紀初頭、ラモー「和声学 Traité de l'harmonie réduite à ses principes naturels」(1722)以来の和声は、自然科学といいながら鍵盤やフレット、ならびに大譜表を前提とし、音程関係を障壁の個数で表象してきた。これに対して 19 世紀中葉、非常に耳の良いピアニストでもあったヘルマン・ヘルムホルツは和声進行の生理を決定づける法則を求めて、よく知られた大著「楽音知覚教程 Die Lehre von den Tonempfindungen」(1858/63)を現したが、多くの誤謬を含む楽理に関わる部分は忘れ去られている。古典的な和声進行は T-S-D-T (T=トニカ、D=ドミナント、S=サブドミナントなどの術語は前提としよう) のような進行を許容するが、その時間反転 T-D-S-T は禁止される。この方向性は事前に S を前提とする D と、D を前提とする S という二つの関係をベイズ統計的に扱い、KL ダイバージェンスなどの統計量を検討することでモデル化出来そうである。甘利俊一先生との雑談から発展した、現在手掛けているこうした話題にも触れることを考えて居る。 指揮：ピエール・ブーレーズと私の「スペクトラル・コンダクティング」のメトードを扱う。今期は 11 月にベートーヴェン「交響曲第八番」「ピアノ協奏曲第三番」などの録音、また子供のための指揮教室なども予定しているので、それらと関連づけて実技を扱う。					
成績評価方法		出席と実習 提出物など					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51417	A	AI と社会——科学技術から 読み解く社会と文化	田中 東子、寛 康明 、 久野 愛、OH SUNJIN	情報学環	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		生成 AI がつくり出す絵や文章、日々の関心を先回りする SNS、亡くなった人がデジタル空間に残していく痕跡。こうした光景は、すでに私たちの日常の一部となっている。AI をはじめとする高度なデジタル技術の進展は、民主主義や資本主義、ジェンダー規範など、社会制度の変容をもたらすだけでなく、死生観や身体性、感覚、親密性といった根源的な生のあり方にも深い影響を及ぼしている。こうした技術的変容を前に、私たちはそれに単に受動的に反応するのではなく、思想的かつ実践的な応答の可能性を模索することが求められている。 本ゼミナールでは、「創作活動」「情報メディア」「身体・感覚」「ジェンダー」「環境問題」「死後産業」など、私たちの日常から切り離すことのできないさまざまな領域が、AI 技術といかに学問的・実践的にかかわっているかを検討し、さらに、複数回にわたってゲスト講師を迎え、各領域の最前線の知見との対話を重ねることで、科学技術と社会の関係についての多角的な理解を深める。技術が不可避免的に組み込まれていく現代社会において、望ましい技術と人間の関係とはいかなるものか、その可能性を共に考え、描いていく場を提供する。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		議論への参加度（50%）＋レスポンスペーパー（50%） 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51418	A	研究入門：現代社会を深掘り する（情報学環・開沼博ゼ ミ）①	開沼 博	情報学環	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		◆本ゼミの概要 このゼミでは社会学・社会心理学・メディア論やその周辺領域の知見をベースに、政治・経済・文化・科学技術・医療福祉・教育等多様な領域を越境しながら現代社会の流行や課題、あるいは普段は意識されていないが多くの人が目撃しているはずのテーマをとりあげます。 「文献ゼミ」と「論文ゼミ」とがあります。 ◆そもそもゼミって？ この「研究入門」の受講者には情報学環・開沼研究室が主催するゼミに参加していただきます。 （ゼミといっても色々ありますが）ここでいうゼミとは、担当者のプレゼンテーションと、それを元にした参加者同士でのディスカッションで構成される形式の授業を指します。講義を聞く、書籍を読む、それによって知識を補完したり体系的に理解したりするという勉強方法ではなく、参加者が調査や実験を自らの手で進めて得られた知見と、それについての質問やコメントとで成立します。 ◆文献ゼミではどんな書籍を扱う？ これまで扱った文献の例は以下です。 『ブルックリン化する世界—ジェントリフィケーションを問い直す』『暇と退屈の倫理学』『パンツをはいたサル：人間は、どういう生物か』『不寛容論』『2.5 次元文化論 舞台・キャラクター・ファンダム』『眼差しの地獄』 ◆論文ゼミどんなテーマを扱う？ 2026 年度 S セメスターでとりあげたテーマは以下です。 ・アニメは現代人を救うのか：聖地巡礼・ボーカロイド・Vtuber・生成 AI・災害復興等に注目して ・海外マスメディアは日本をいかに描いているのか ・ももクロファンとウェルビーイング ・日本の新宗教の信者とコミュニティの現場 ・東京の最先端はいまどこにある：クラフトカルチャーの現在地 ・訪日外国人から見える日本社会の特異性 ・「風評」が生まれるメカニズムとは ・富裕層はどんな人とつながり、何を楽しみに生きているのか といったことを時間の限り扱っていきます。 ◆何を学べる？どんな力がつく？ 上記のテーマを見て何を感じるでしょうか。 全てではないにしても、どれかは面白そうだなと思ってくれる人もいるでしょう。 一見軽薄に見えるかもしれないし、「そんなの学問の対象としてよいの？」と思うかもしれませんが。 ですが、これらは立派な学問であり、現代社会を論じる上で避けては通れないといっても過言ではない、価値ある研究対象です。 まず、上記のテーマを見て、これは面白そうだなと思えるならば、それぞれのテーマについて深く学ぶことができます。 ただそれ以上に学べることは「研究とはなんぞや」ということです。 このゼミでは「学術的な研究とは何か？どういう方法や観点で進めていけばよいのか？」ということに触れ、論理的思考ははじめ未知のことにどう向き合うかという点で必要なスキルを学ぶことができます。 人によっては、普段学んでいること、3 年生から学ぼうとしている専門領域とは離れていると思う人もいるかもしれませんが、それでも「学術的に研究をする」ということの根本は同じです。 現代社会を深掘りするということは、身近で具体的なことを扱うということにつながります。それ故、「研究」にふれる機会がまだ少ない学部生に、「研究」とはいかなる営みなのか、学んでもらいやすい内容でもあります。					
成績評価方法		以下の割合で評価します。					

教科書 ガイダンス	▼ゼミでのレジュメ作成（文献ゼミ） or コメントシート記入（論文ゼミ） &グループディスカッション参加 100%
	毎回、何らかのアウトプットが求められることになるので、欠席すれば自動的に点数は減ることになります。 ただし、出席の代替措置を希望する場合は、都度事前にメールにてご相談ください。 【履修上の注意と評価方法】 本授業は①と②があります。よく確認の上、①と②の両方を履修登録してください。 3単位付与の場合：文献ゼミと論文ゼミのいずれにも十分に参加したとみなされる場合「①」「②」計3単位を付けます。 2単位付与の場合：文献ゼミか論文ゼミのいずれかに十分に参加した、あるいは文献ゼミと論文ゼミのいずれにも一定の参加をしたとみなされる場合には「②」のみを合格として2単位を付けます。その場合には「①」は欠席とします。 1単位付与の場合：文献ゼミか論文ゼミのいずれかに一定の参加をしたとみなされる場合には「①」のみを合格として1単位を付けます。その場合には「②」は欠席とします。 単位付与ができない場合：いずれもが欠けている場合には単位を付けられません。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行く。／Will conduct guidance at another time

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51419	A	研究入門：現代社会を深掘りする（情報学環・開沼博ゼミ）②	開沼 博	情報学環	集中	2	1年 文科 理科 2年 文科 理科

授業の目標概要	◆本ゼミの概要 このゼミでは社会学・社会心理学・メディア論やその周辺領域の知見をベースに、政治・経済・文化・科学技術・医療福祉・教育等多様な領域を越境しながら現代社会の流行や課題、あるいは普段は意識されていないが多くの人が目撃しているはずのテーマをとりあげます。 「文献ゼミ」と「論文ゼミ」とがあります。 ◆そもそもゼミって？ この「研究入門」の受講者には情報学環・開沼研究室が主催するゼミに参加していただきます。（ゼミといっても色々ありますが）ここでいうゼミとは、担当者のプレゼンテーションと、それを元にした参加者同士でのディスカッションで構成される形式の授業を指します。講義を聞く、書籍を読む、それによって知識を補完したり体系的に理解したりするという勉強方法ではなく、参加者が調査や実験を自らの手で進めて得られた知見と、それについての質問やコメントとで成立します。 ◆文献ゼミではどんな書籍を扱う？ これまで扱った文献の例は以下です。 『ブルックリン化する世界—ジェントリフィケーションを問い直す』『暇と退屈の倫理学』『パンツをはいたサル：人間は、どういう生物か』『不寛容論』『2.5次元文化論 舞台・キャラクター・ファンダム』『眼差しの地獄』 ◆論文ゼミどんなテーマを扱う？ 2026年度Sセメスターでとりあげたテーマは以下です。 ・アニメは現代人を救うのか：聖地巡礼・ボーカロイド・Vtuber・生成AI・災害復興等に注目して ・海外マスメディアは日本をいかに描いているのか ・ももクロファンとウェルビーイング ・日本の新宗教の信者とコミュニティの現場 ・東京の最先端はいまどこにある：クラフトカルチャーの現在地 ・訪日外国人から見える日本社会の特異性 ・「風評」が生まれるメカニズムとは ・富裕層はどんな人とつながり、何を楽しみに生きているのか といったことを時間の限り扱っていきます。 ◆何を学べる？どんな力がつく？ 上記のテーマを見て何を感じるでしょうか。 全てではないにしても、どれかは面白そうだなと思ってくれる人もいるでしょう。 一見軽薄に見えるかもしれないし、「そんなの学問の対象としてよいの？」と思うかもしれませんが、 ですが、これらは立派な学問であり、現代社会を論じる上で避けては通れないといっても過言ではない、価値ある研究対象です。 まず、上記のテーマを見て、これは面白そうだなと思えるならば、それぞれのテーマについて深く学ぶことができます。 ただそれ以上に学べることは「研究とはなんぞや」ということです。 このゼミでは「学術的な研究とは何か？どういう方法や観点で進めていけばよいのか？」ということに触れ、論理的思考はじめ未知のことにどう向き合うかという点で必要なスキルを学ぶことができます。 人によっては、普段学んでいること、3年生から学ぼうとしている専門領域とは離れていると思う人もいるかもしれませんが、それでも「学術的に研究をする」ということの根本は同じです。 現代社会を深掘りするということは、身近で具体的なことを扱うということにつながります。それ故、「研究」にふれる機会がまだ少ない学部生に、「研究」とはいかなる営みなのか、学んでもらいやすい内容でもあります。 以下の割合で評価します。 ▼ゼミでのレジュメ作成（文献ゼミ） or コメントシート記入（論文ゼミ） &グループディスカッション参加 100% 毎回、何らかのアウトプットが求められることになるので、欠席すれば自動的に点数は減ることになります。 ただし、出席の代替措置を希望する場合は、都度事前にメールにてご相談ください。 【履修上の注意と評価方法】 本授業は①と②があります。よく確認の上、①と②の両方を履修登録してください。
成績評価方法	

教科書 ガイダンス	3 単位付与の場合：文献ゼミと論文ゼミのいずれにも十分に参加したとみなされる場合「①」「②」計 3 単位を付けます。
	2 単位付与の場合：文献ゼミか論文ゼミのいずれかに十分に参加した、あるいは文献ゼミと論文ゼミのいずれにも一定の参加をしたとみなされる場合には「②」のみを合格として 2 単位を付けます。その場合には「①」は欠席とします。
教科書 ガイダンス	1 単位付与の場合：文献ゼミか論文ゼミのいずれかに一定の参加をしたとみなされる場合には「①」のみを合格として 1 単位を付けます。その場合には「②」は欠席とします。
	単位付与ができない場合：いずれもが欠けている場合には単位を付けられません。
教科書 ガイダンス	教科書は使用しない。／Will not use textbook
	特定日に行う。／Will conduct guidance at another time

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51426	A	読み紡ぐ政治学・読み破る政治学 ー多読・乱読・精読そして議論を楽しむゼミー	牧原 出	先端科学技術研究センター	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		このゼミは対面で行います。説明会は第一週にオンラインで開催します。各回については、体調など個々の学生の状況に応じて、オンラインでの参加を認めてハイブリッドで開催することもあります。なお、授業前にオンラインでの講義や打ち合わせがある学生については、東大先端研の牧原研究室でオンラインで視聴するスペースを用意しますので、事前に申し出た上でオンラインの打ち合わせなどに参加した後、対面のゼミに参加して下さい。 牧原研の YouTube チャンネルに、ゼミの概要を配信しています。 URL は https://www.youtube.com/channel/UCjmHAPyMqKTnEINKAK_k6hg など、過去のものも含めて適宜参照してみてください。どうしても説明会に参加できないが（できなかったが）受講を希望する学生については、個別に contact@pha.rcast.u-tokyo.ac.jp までご連絡ください。 今年で 14 年目となるこのゼミでは、多読、乱読、ときに精読を心がけ、古今東西の政治学に関する本を「読み紡ぐ」そして「読み破る」ことを目標にします。「読み紡ぐ」は歴史をひもとき、互いの議論をつないでいくという意味をこめ、「読み破る」はこれまでの自分の読みを乗り越えていくことを目標としています。毎週 1 冊本を読んで短いペーパーを書いて全員が事前にそれを読んだ後、ゼミが始まります。ゼミでは、いくつかのペーパーを取り上げて、全学生が意見を言う、質問をする、応答する、質問を重ねる、といった議論を繰り返します。もちろん人の意見をじっくり聞くことも大切です。教員はできるだけ議事進行に努めますが、ここぞというときには今学生に必要と判断したコメントを出すようにします。学生同士の議論が基本です。そこから何が得られるのでしょうか。もちろん政治と政治学についてよりよい読みを目指して理解を深めることはとりあえずの目標です。しかしそれだけではありません。まずは自分の考えを構築してみましょう。その上で他の学生からの質問に驚いたり新たに考えたりすることで、一冊の本に対する多様な理解があることを知るでしょう。集合知としての本に対する理解というものがあることに気づいてほしいと思います。そこから初めて自分の読みが広がります。このように自分の読みを深め広げることこそが、これから勉学を深めたり、研究に踏み込んだり、自分の人生を生きぬく力を得ることができるのです。 こうした読書とそれについての思索・議論は、海外の大学の授業では基本的な開講形態です。また文理の学問分野の違いから言えば、このゼミでの読書とそれについての議論とは、理系にとっての実験がそうであるように、文系にとっての「実技」です。理系の人は、もう一つの「実験」の授業と思って参加していただいてかまいません。読書自体は特別なことではないのですが、毎回気心の知れた多くのメンバーと読書して語り合う経験は、皆さんにとって特別貴重な経験となるでしょう。 ゼミでは、そのためにいろいろな仕掛けを用意しています。ゼミ生同士で読書会をしたい人たちは、先端研の牧原研の自習室を自由に利用することができます。ゼミでは著者同席の回や、「私の勧める一冊」という回もあるでしょう。ゼミ終了後恒例のアフター・ブック・サロン、その他ブック・トリップ、ラボ・アドベンチャーも可能な範囲で行うことを考えています。すでに多くの修了生がいますが、これらは修了生も一部参加することがあり、読書を重ねた先輩からいろいろな話を聞いたり、議論したりすることができるでしょう。また、春休みには「合宿」（宿泊が難しい場合は、一日講義室でゼミを行う形をとります）を行います。合宿で何をするかは未定ですが、ここ数年、夏合宿は重要と目される本の集中的な講読、後期に継続開講するゼミでの冬合宿は本に関するドキュメンタリーを製作することが課題でした。 ※受講人数：あらかじめ制限はしない。					
成績評価方法		平常点による。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51427	A	最先端バイオテクノロジー開発・生命科学研究への誘い@ 駒場 II キャンパス Invitation to Advanced Biotechnology Development and Life Science Research @ Komaba II Campus	西増 弘志、 太田 禎生	先端科学技術研究セ ンター	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		研究や専門は本郷でと思いませんか？駒場 II キャンパスに、世界が注目する若い研究室（ https://www.lsbm.org ）が集まっているのを知っていますか？ 本ゼミは、駒場 II キャンパスで進む最先端バイオテクノロジー開発や生命科学研究の内容を、学部生の皆さんに伝え、実際の研究に関わっていくきっかけとすることを目指しています。12 月 19 日（土）12 時～15 時に、駒場 II キャンパスの先端研 4 号館講堂（2 階）にて開催される「駒場 II 生命科学シンポジウム」に参加してください（集中講義）。冒頭に、本全学ゼミのガイダンスを行い、その後、駒場 II キャンパスで行われている研究・開発内容や、学生の関わり方に関して発表します。 さらに同日シンポジウム後の 15 時～18 時に、駒場 II キャンパスの生命科学・技術系の研究室合同でポスター発表会があります。希望者は参加して各研究室の教員や研究者・学生と交流し、より深く学ぶ機会もできます。また、担当研究室に個別に連絡（email）をして各研究室に独自に見学・体験（実践的な研究に携わる）することもできます。 同シンポジウムで紹介される先端バイオテクノロジー開発・生命科学研究に関して、興味のある研究室の研究内容に関して、レポート課題（ https://www.sadaotalab.net/ ; https://sadaotalab.com/ に掲載）を提出してください。 シンポジウム後にポスター発表会に参加してより深く学ぶことが可能です。担当研究室に個別に連絡（email）をして各研究室に独自に見学・体験（実践的な研究に携わる）することも可能です。 本授業は出席と提出するレポートの内容で成績評価を行います。 【LSBM とは】 LSBM は、次世代生命医科学を開拓すべく有機的に協働する、先端科学技術研究センターのメンバーを中心とするバーチャルな十以上の研究室集合体です。工学・理学・情報科学・医学の研究者が、積極的なコラボレーションを展開しています。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		本授業は出席と提出するレポートの内容で成績評価を行う。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51428	A	ボーカロイド音楽論	稲見 昌彦	先端科学技術研究セ ンター	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		「ボーカロイド音楽論」を、稲見を代表教員とし鮎川ばて氏によるリードで開講します。 本講義は、現代日本の音楽状況の中でもっとも重要な存在感を示す「ボーカロイド（ボカロ）」を用いた音楽群の分析を通して、音楽自体の本質に迫ろうというものです。「アンチ・セクシュアル」というキーワードが、講義のひとつの軸になっていきます。 最初に「ボーカロイド音楽シーンの中で人気を博したのが、ラブソング群ではなかった」という事実に注目します。かつて音楽評論家の湯川れい子さんは「人間は、思春期を迎えるとラブソングを求めるようになる生き物なんです」と語りました。果たしてそうでしょうか。ボカロシーンでは、恋愛などの通念を自明とはしない感性を持った曲—アンチ・ラブソングが人気を集めました（ex.「ラブという得体の知れないもの」）。人によっては厨二病的とも言うその感性の内と外を、フランスの人文学者ミシェル・フーコーの議論を参照しながら考えていくところから講義はスタートします。 講義全体の 1/3 以上を、ジェンダー／セクシュアリティの議論が占めることになります。フェミニズム、LGBTQ をはじめとする性の多様性理解、クィア理論など、ジェンダー論の基礎を知ることはもちろん、それらが先端工学と関わった先にある、新しい身体論（身体情報学）を考えることにも、本講義は役立つはずです。 主なアプローチ手法は、記号論、ジェンダー論、精神分析ですが、駒場と言えば、リベラルアーツ。前記の人文科学的手法に留まらない領域横断的な分析を試みます。 ボカロは老若男女、すべての人を受け入れるシーンですが、その上で、やはり主役は、若いみなさんだと思っています。みなさんが当事者として立ち会い、そしていまだ深度のある議論が少ないボカロカルチャーこそは、そのような批評の対象とするに最適です。 ボカロ、表現、科学、ジェンダー。これらのうちどれかひとつにでも高い関心を持っていれば、どの立場の人も主役です。ボーカロイド音楽についての前提知識は必要ありません。科類も問いません。「感覚を思考の俎上に載せること」を恐れないあなたの参加をお待ちしています。 ＜鮎川ばてプロフィール＞ ボカロ P／音楽評論家 ／東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程（身体情報学分野 稲見・門内研究室） ／東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 非常勤講師					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51431	A	日本近世史料の読解と近世政治史入門	荒木 裕行	史料編纂所	火 4	2	1年 文科 理科 2年 文科 理科
授業の目標概要		日本近世政治史研究のための初歩的な能力を身につける。日本近世史料の読解・研究目的の設定・議論の構築などを学ぶ。					
成績評価方法		履修者数により変更の可能性もありますが、基本的に毎授業中に行う小テストにより評価します。					
教科書		プリントを配布する。／Will distribute handouts					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51432	A	ミュオグラフィと諸科学との連携による地球-社会-医療-におけるテーマ開拓 Looking for new research subjects in the field of the Earth-Society-Health in collaboration with muography	田中 宏幸	地震研究所	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 成績評価方法 教科書 ガイダンス		透視、ナビゲーション、時間計量学、暗号通信等に成果を上げてきた「ミュオグラフィ」。本全学自由研究ゼミナールでは、海洋、エネルギー/環境、情報、医学、放射線工学における専門家が課題を洗い出す。そしてミュオグラフィを今後どのような価値ある形で社会へとつなげていけるのかについて集中的に考えることを目的とする。(1) 海洋センシングの新展開の可能性について議論する。(2) 石油天然ガス資源とそれに伴う温暖化対策（二酸化炭素地中貯留（CCS））の両輪について議論する。(3) 放射線工学技術の応用について議論する。(4) 大規模ストレージ開発の歴史と技術やIOTについて議論する。(5) 医療画像の機械学習による自動診断技術についても考察する。特に大規模データ活用の議論については総合研究博物館見学会として総合研究博物館のデジタルアーカイブ技術やIOTに対する理解を深める。 Muography, the novel imaging technique to visualize gigantic objects such as volcanoes, pyramids, and nuclear reactors, has been restricted to its performance on the ground. In this seminar, the experts in the fields of marine, natural resource and planetary scientists will clarify the restrictions in the current observation techniques, and will extensively discuss the following topics to address how muography can be applied to benefit their fields. (1) In the field of ocean sensing technologies, it is now possible to collect marine and ocean floor information with GNSS-A and DAS. However, the spatiotemporal windows of these techniques are still limited. (2) The target of the oil and natural gas resources are deepened, more complicated, and down-sized, and more technological developments are required. (3) Controlling and safe operation of carbon capture and storage (CCS) could be an essential technique for realizing the carbon neutral society. In this lecture, the current CCS techniques will be introduced and muographic applications to CCS will be discussed. (4) In the field of medical science, the techniques of machine learning of medical images have been highly developed. In this lecture, the recent trend of medical machine learning will be introduced and its possible application to muographic diagnosis of active volcanoes will be discussed. (3) Planetary sciences. Furthermore, in order to realize sharing and machine learning large-sized muographic data, and to utilize the muographic results between researchers and/or researchers and society in the valuable way, (4) large-sized storage and networking technologies will be discussed. 出席 Attendance 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51433	A	地震火山史料を読む	加納 靖之、 大邑 潤三	地震研究所	月 2	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 成績評価方法 教科書 ガイダンス		東京大学の地震研究所と史料編纂所が連携して設立された地震火山史料連携研究機構では、地震学者と歴史学者が協力して史料の収集・編纂と分析と、地震活動や火山活動の長期的な情報を提供するデータベースの構築を行っている。 この連携研究機構が提供するゼミナールでは、地震や火山噴火に関する歴史史料を読みとく。入門的な素材からスタートし、講義の後半では受講生の興味に応じて選択した史料を読みとく。デジタルアーカイブで公開されている史料を活用し、必要に応じて既刊の地震史料集や刊本も利用する。歴史史料を読みとく作業を通じて、必要な情報を抽出し解釈する方法を学び、また、異分野融合研究の意義や在り方に触れる。 授業は、加納靖之・大邑潤三（地震研究所）が担当する。 【目標】 ・歴史学や地震学を背景として、地震や火山噴火に関する歴史史料を読みとく ・複数の研究分野からのアプローチでより深く現象を理解できることを知る ・これらの研究のおもしろさや解決すべき課題について考える 【こんな人に来てほしい】 文系理系を問わず、歴史、地球、防災などに関心のある人。また、本や資料を読むのが好きな人、観察や観測をもとに推理するのが好きな人など。 （参考）地震火山史料連携研究機構の概要 地震火山史料連携研究機構は、東京大学の地震研究所と史料編纂所が連携して設立されました。この学際的な研究機構では、歴史学者と地震学者が協力して史料の収集・編纂と分析を実施し、日本における地震活動や火山活動の長期的な情報を提供できる科学的なデータベースを構築しています。このような歴史時代のデータは、地震や火山の危険性の長期的な予測には不可欠です。 授業での報告や討論への参加。課題（毎回のゼミナールに関する簡単なメモ）の提出。期末レポート。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

全学自由研究ゼミナール

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51434	A	マハーバーラタを読む	川村 悠人	東洋文化研究所	水 5	2	1年 文科 理科 2年 文科 理科
授業の目標概要		古代インドの叙事詩マハーバーラタを、神と英雄、そして英雄たちが振るう神々の武器という観点から分析していく。その過程において、古代インドの神話・伝説、世界観、文化などについても詳細に立ち入って議論する。これらを通じて、南アジアの地にあった世界の見方や思考法を学びつつ、南アジア文化を根底から規定する国民文学について一定の理解を得る。さらに、現代社会との連続性や非連続性を考えながら、議論を整理して展開していく手法を身につける。					
成績評価方法 教科書		出席具合（20%）および期末試験（80%）により評価する。 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 川村悠人 古代インドの神器学——弓と魔法と英雄と 法蔵館					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51435	A	学部学生のための研究入門コース-UROP2 (Undergraduate Research Opportunity Program 2)	川越 至桜、 大島 まり	生産技術研究所	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 駒場リサーチキャンパスにある生産技術研究所（生研）では、IT、ナノテクノロジー、バイオや環境の分野を始めとした、工学全般における様々な最先端の研究を行っている。このような先端研究について、従来の受動的な授業とは異なり、自分自身の手を動かしながら研究を進め、実験や実習を通して実践的に学んでいくのが、本ゼミナールの特徴である。 研究テーマに関しては、生研で行われている数々の研究から興味のあるテーマを選択する。授業の形態としては、選択したテーマを研究している研究室の一員として、設定した目的や計画のもと研究を進め、最後に研究成果の発表を行う。具体的な方法、内容や日時などの研究の進め方については、研究室の教員と相談しながら決めること。 このような実際の研究プロセスを体験することにより、研究のノウハウを学んでいく入門コースである。 授業内容や研究テーマの詳細については、ホームページ(http://www.oshimalab.iis.u-tokyo.ac.jp/UROP/)を参照のこと。 ※履修人数を20名に制限する。 ※開講場所：生産技術研究所 ※ガイダンスは、10月6日（火）および10月8日（木）の2日間、12時20分よりオンラインにて行う。2回とも同一内容で実施。 成績評価方法 日頃の研究への取り組み、報告書、および研究発表により、成績を評価する。 教科書 授業中に指示をする。／Will specify at class time ガイダンス 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51441	A	裏事情から語る産業政策Ⅱ	鈴木 寛	公共政策大学院	木 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		AI、エネルギー転換、人口減少など、社会課題が複雑化する中で、政府には制度や市場そのものを設計する役割がこれまで以上に求められています。産業政策とは何か。市場を設計するとはどういうことなのか。各テーマを通じて、政策形成の考え方を具体的に学びます。本講義は、S セメスターに引き続き、鈴木寛教授と、経済産業省で 35 年間勤務し、デジタル庁統括官も務めた村上敬亮特任教授が担当します。 今期は、 ・未来のエネルギー政策（再生可能エネルギーの課題と温暖化対策の今後） ・AI 時代の産業政策（AI とベンチャーから、産業社会を縦から横に変えていく） ・これからの地方創生（本当に持続可能な地域社会とは何か） という三つの切り口から、表からは報じられない産業政策の裏側を語りつつ、産業や市場を作っていくに当たり、パブリックは何に取り組んでいくべきか、履修生の皆さんと一緒に考えたいと思います。					
成績評価方法		極力リアルな出席を求めます。ただし、事前に事情をメールしていただければ、オンライン参加や欠席も可とします。毎回、簡単な授業の感想の提出を求めます。単位は、その状況を見ながら付与します。 なお、単位は不要だが、聴講したいという方の参加も歓迎します。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行く。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51443	A	海のアジア 2026 東南アジア と付き合う	山口 健介	公共政策大学院	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		☆受講希望者はガイダンス（オンラインにて実施予定）へご参加ください。（詳しくは下記「履修上の注意」項を参照） 近年アメリカによる保護主義的な関税政策や、中国の力による現状変更の試みが国際秩序を揺るがす中で、日本と東南アジアは、共に自由で安定した地域秩序を守る立場にあります。こうした環境のもと、東南アジアとの連携を強化することは、日本の国家安全保障や経済戦略上、極めて重要な意味を持ちます。 東南アジアは、日本にとって地理的に近く、日本のシーレーン上に位置する戦略的要衝であり、今後の経済成長も期待される地域です。今後日本が国際社会でプレゼンスを維持し、東アジアの秩序を安定させていくために、今こそ東南アジアとの関係を再考するべきです。 ところで、みなさんは、東南アジアと聞くと、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。 AI は「ご飯がおいしい」「発展途上」などの印象を抱いているそうです。 しかし、これらの印象は本当に正しいのでしょうか。「機械」的な理解に過ぎないのではないか。本ゼミは「機械」的な理解を乗り越え「人間」的な視点から東南アジアを捉え直していきます。 東南アジアは、国ごとに利害や価値観が異なるにもかかわらず ASEAN という地域共同体を形成し、また国内においても民族・言語・宗教の多様性を抱えながら国民国家を築いてきました。その過程では、国内の少数民族問題や国家間の領土問題など「多様性」と「まとまり」のジレンマが立ちはだかってきました。 このゼミでは、そうした東南アジアの近現代史を紐解いていく中で「東南アジアとはどのような地域か」を理解し、その上で「日本は東南アジアとどのように向き合うべきか」を考えていきます。 講義はアジアの現場経験豊富な経済産業省の現役官僚によって行われ、さらに実務家を招いたセミナーや、春休みには現地を訪問するエクスカージョンも予定しています（希望者多数の場合、成績によって選抜します）。いずれも、日本と東南アジアの関係を実践的に考える貴重な機会となっています。 みなさんのご参加をお待ちしております。 ※昨年度のセミナーでは、東南アジア諸国関係の現役官僚をはじめ、ASEAN 地域に深く関与されている方をお呼びしました(下記参照)。 【昨年度開催したセミナー】 ・石井正文氏 (元駐インドネシア特命全権大使) ・山田滝雄氏 (AZEC 担当大使)					
成績評価方法		1) 授業への出席（エクスカージョンやセミナー参加は任意です。）、2) グループによる最終発表、3) 希望者は個別レポート提出を認めます。					
教科書		次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 岩崎育夫 入門 東南アジア近現代史 講談社					
ガイダンス		特定日に行く。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51444	A	日本の経済戦略と政策が果たす役割 ～政策の最前線で奮闘する現役官僚が語る～	星野 岳穂、 澤田 恒河	公共政策大学院	金 3	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		世界では、「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「経済暗線保障（サプライチェーン強靱化）等の大きな課題に直面し、まさに激変の時代に直面しています。 日本では、さらに、超少子高齢化、生産年齢人口の減少（人手不足）や財政赤字、物価上昇、若年層の格差拡大、国内市場の需要飽和、消費者ニーズの多様化・個別化といった新たな構造変化の局面を迎え、国内生産の促進や技術保護、国際的な協力などさまざまな政策を大規模に展開しています。天然資源確保、食糧確保等の枠組みについても再検討する必要があることも強く示唆されます。ロシア・中国・イスラエルをめぐる国際情勢の変化、中東などにおける民族や宗教の対立をはじめとする世界の不安定化等、日本を取り巻く環境のめまぐるしく変化がみられます。このようなグローバルな大変化や出来事 1 つ 1 つが、直ちに我々の生活や経済などに大きな影響を与え、これらが様々なリスクを含んでいることに気づかされます。これまで日本が享受してきた「秩序」や「安心」を確保する枠組みは、決して自明なものではなく、持続可能なものではないことを実感する時代に突入しました。 他方、生成型 AI に象徴される人工知能（AI）と機械学習、量子コンピュータ、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、ドローン技術などの新技術は、私たちの社会や生活を大きく変える可能性を秘めています。「豊かさ」や「安心」を持続可能にしながら、「今までなかった価値」を生み出していくためには、社会と経済の「仕組み」を不断に見直し、世界の目まぐるしい変化の最先端に適応し続けることが求められます。 本講義では、このような激動する社会において、政策立案の最前線で日々奮闘している経済産業省、財務省及び金融庁の現役官僚をゲストスピーカーとして招きます。それぞれが担当する政策分野について、 ①激動する国際社会の動向、 ②その変化が私たちの社会・経済に与える影響やその変化の意義、 ③これらを踏まえた日本経済の再生に向けた戦略、 ④政策が果たす役割を語るとともに質問に答え、また学生の皆さんとディスカッションしていただきます。産業政策、財政政策、金融政策、通商政策、資源エネルギー政策、環境政策など私たちの社会・経済のあり方に深く関わる政策をテーマとしてとりあげる予定です。 本講義を通じ、以下の 3 点を身につけていただくことができると考えています。 1）メディアでは時として報道されない、世界規模の構造変化の真の姿 2）学際的な視点から、社会・経済の諸問題を分析すること 3）日本経済の再生戦略と、それを実現するために政策が果たす役割 文系・理系を問わず、次代の日本を担う学生の方、国家公務員の業務に関心のある皆さんの幅広い参加を期待しています。					
成績評価方法		出席点及びレポートにより評価。レポートは、各回の終わりにゲストスピーカーが出題する課題について、2 テーマを選択し、それぞれ数枚（A 4 で 2－3 ページ）にまとめたものを、所定の時期（各回の講義の中でお知らせします。）までに提出して下さい。 詳細はガイダンス時に説明いたします。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51448	A	Ethnography of Care and Mobility	FACIUS Michael	東京カレッジ	月 4	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		What is 'care'? Why do we care—and conversely, why do we often fail to care enough? This course introduces students to the complex dimensions and structural dynamics that shape care, exploring its intersections with gender, the economy, politics, and mobility/migration. Care is fundamental to reproduction and development, and it has regained importance following the awareness during the COVID-19 crisis and in the post-COVID era. There is a pressing need to discuss and support care, amid significant demographic challenges and regional disparities. Yet, care is still undervalued, underpaid (and unpaid), and low-skilled labor, rendering socioeconomic inequalities and marginalized populations. Ethnography is an essential method for understanding the complexities of care. In this course, students will engage with ethnographic literature to explore this field, while also applying ethnographic methods to disentangle their own social surroundings and relationships. Students will conduct short fieldwork to produce a final term paper. The course will culminate in a roundtable session, providing a dedicated space to discuss research ethics and reflect on our shared knowledge. <<Learning Goals>> The class has the following objectives: (1) ... to study complex dimensions and structural dynamics that shape care (2) ... to explore ethnographic methods to disentangle our own social surroundings and relationships (3) ... to refine reading skills for conceptualization and argumentation (4) ... to critically place questions of care within broader questions of political economy, gender, and inequalities Assessment: Student seminar presentation and final assignment (100% of the final grade)					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51454	A	Molecular Biology of the Cell 輪読ゼミ	菅谷 佑樹、 石川 俊平	医学部	金 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		主に駒場の 2 年生を対象とし、Molecular Biology of the Cell を英語で読むことで、生命科学を英語で学ぶ習慣を身につけ、さらにその基礎となっている原著論文を読む事が出来るようになる事を目標とする。本郷キャンパスで行う。1 年生も本郷キャンパスまで来られる方は参加可能とする。					
成績評価方法 教科書		出席と上記のプレゼンテーションに基づいて評価を行う。 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook Bruce Alberts, Rebecca Heald, Alexander Johnson, David Morgan, Martin Raff, Keith Roberts, Peter Walter, John Wilson Molecular Biology of the Cell 7th edition W W Norton & Co Inc;					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51457	A	生命科学の最前線	岸 雄介	定量生命科学研究所	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		生命科学の教科書には「答え」が書かれています。しかし研究の現場にあるのは、まだ誰も答えを知らない「問い」です。ピペットを手に取り、顕微鏡を覗き込む。研究室にはそこでしか感じられない空気があります。その最前線に、直接足を踏み入れてみませんか？ 本ゼミナールでは、定量生命科学研究所の研究室を実際に訪れ、世界最先端の研究が行われているその場で、生物材料を使った実験体験や実験設備の見学を行います。研究者が日々向き合っている実験の空気を直接感じることで、これまで教科書で学んできた生命科学の知識が、どのような問いや挑戦の上に成り立っているのかを実感してほしいと思います。 さらに、研究者の仕事とはどのようなものか、研究室とはどんな場所なのかを肌で感じ、実際に研究者と対話できる機会も提供します。将来の進路に迷っている学生も、知的好奇心のままに参加したい学生も、研究の熱気を体で体験しにきてください。文系・理系を問わず歓迎します。 (参考：定量生命科学研究所 HP: https://www.iqb.u-tokyo.ac.jp)					
成績評価方法		成績は講義の出席回数によって評価します。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60215	A 2	Let's try cell culture! 細胞を培養しよう！	ウッドワード ジョナサン ロジャー、 松田 良一	PEAK 前期	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		An adult human body consists of about 30 trillion cells. If cells are separated from the body and isolated into single cells, can cells survive even outside of the body? Attempts to break apart cells and keep them alive in vitro were conducted in Germany and the United States between 1880 and 1919 using frogs and chickens. Cells separated from the body could be cultured under appropriate conditions. This cell culture technology became a fundamental technology in biological research, but today it is indispensable for producing vaccines, antibodies, artificial skin, and “cultured meat.” 成人一人の身体はおよそ 30 兆個の細胞から成り立っている。では細胞を身体から分離し、バラバラにすると細胞は生きていられるだろうか？実際に細胞をバラバラにして生体外で生かそうという試みはカエルやニワトリを用いて 1880 年から 1919 年にドイツやアメリカで行われ、身体から分離した細胞は適切な環境下で培養できることが分かった。この細胞培養技術は生物学研究の基本技術であるのみならず、今日ではワクチンや抗体、さらに人工皮膚や培養肉の作成において、欠くことができない技術になっている。					
成績評価方法		Course evaluation will be performed based on attendance, commitment to and completion of the experimental work.					
教科書		コースの評価は、実験作業への出席、取り組み、完了に基づいて行われます。					
ガイダンス		プリントを配布する。／Will distribute handouts 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60217	A 2	平和のために東大生ができること II	岡田 晃枝	教養教育高度化機構	木 5	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		この授業は A2 ターム集中の国際研修「平和のために東大生ができること：中央アジア研修」の準備授業である。 渡航先であるカザフスタン共和国の政治・経済・文化について知識を深めるとともに、カザフスタンで現地学生に向けて行うプレゼンテーションの土台作りのために、関連する日本の事情についても探求する。 授業内容に関心があれば、国際研修に参加しない学生の履修も歓迎する。					
成績評価方法		授業へのコミットメントによって評価する。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51289	A	囲碁で養う考える力	森畑 明昌	教養教育高度化機構	金 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。					
成績評価方法 教科書		囲碁は、古い歴史を持つ日本の伝統文化であるばかりでなく、国際的にも広く普及し親しまれている頭脳のスポーツである。本ゼミナールでは、囲碁のルールを学び、お互いの実戦を通じて、判断力、分析力、洞察力、集中力などを養う。指導に際しては日本棋院の全面的な協力を得る。 囲碁は初めての人を対象として、基本のルールから教える。 第1回にオンラインでガイダンスを行い、履修希望調査（UTOL で提出）をふまえ受講者「40 名」を決定する。 ※受講者は囲碁の未経験者・初心者に限る ※ガイダンスはオンラインで、受講者決定後の講義は対面で行う。オンラインでの参加はできない。 講義への参加状況をもとに可否を判定する。 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 石倉昇・梅沢由香里・黒瀧正憲・兵頭俊夫 東大教養囲碁講座 ーゼロからわかりやすく 光文社（新書） 978-4334034108					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51312	A	身近な環境化学実習－身の周りの水を水質調査から科学する－	佐藤 守俊、堀 まゆみ	教養教育高度化機構	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 「水」と聞いてどのようなイメージを持ちますか？ 蛇口をひねれば当たり前のように出てくる水道水。採取場所や日時によって水質に違いがあるのか？水道水とペットボトルの水、何が違う？ミネラルウォーターにも種類があるけれど、それぞれどう違うのか？水道水と井戸水の水質はどのような違いがあるのか？このようなさまざまな疑問を、化学実験を通して多角的な視点で解決していきます。 本実習では、キャンパス内の建物や自宅の水道水、ミネラルウォーター、井戸水など、身近な「水」を題材に、自分でテーマを決め、実験を計画し、試料を選び、分析し、考察します。化学分析（試料サンプリング、前処理操作、測定）を実際に行い、構成している成分が何であるか、それらの成分濃度はどれくらいであるか、といった情報を取得し、得られた結果から普段私たちが身近に接している水の状態を環境化学的に解釈し考察します。実習最終日にはショートプレゼンテーションを実施し、学生同士のピアレビューを通して、得られた結果や考察について議論を交わすことで理解を深めます。 専門知識や事前学習を必要としません。実習を通して、研究がどのように計画され、進められていくのかを実体験として学ぶことができます。自分だけの実験プロジェクトを自由に探究し、環境化学の面白さに触れてもらうことを重要視しています。そのため、文科・理科を問わず、環境や水に興味がある学生を歓迎します。 【ガイダンス（授業の詳細説明）】 2026 年 10 月 7 日(水)12:15～12:45 Zoom 配信 以降、10 月 19 日までオンデマンド視聴可能（UTOL に掲載） 出席、取り組み姿勢、ショートプレゼンテーションを総合的に評価。詳細は、ガイダンスおよび初回授業時に説明する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					
成績評価方法							
教科書							
ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51326	A	ロボット競技を体験しよう B	岡田 慧、小島 邦生	工学部	水 6	2	1 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 ロボット競技とは、決められたルールに従ってオリジナルのロボットを製作して競わせるものである。ルールを徹底的に分析し、討論して最適戦略と最適マシン仕様を策定し、機械工学、電子工学、情報工学、人工知能を学び、身につけ、協力して最強のマシンを設計・製作・改良・検証する。勝つためには、訴求力あるプレゼン資料の作成や、力を発揮する組織運営、あらゆる事象を想定した危機管理など、文系的能力も不可欠である。 本ゼミでは、これらの総合的取り組みの様々な段階を実体験することで、一つの具体的目標に向けて、全員が徹底的に頭脳を振り絞り、創造力を発揮することで、総合的に人間力を高めることを狙う。 専門的な知識は前提としない。文理問わず興味を持った人に来てもらいたい。 本ゼミは 1 年 S セメスターの A から 2 年 A セメスターの D までで構成される。A に参加した学生には、基礎からの講義および実習を行い、基礎的な知識・技能の習得をまず達成する。その後、次学期以後の当ゼミに参加して発展的内容に取り組むことで学習効果が十分に得られるが、どうするかは本人の自由である。 発展的な内容を体験したい学生や、本格的なロボットの企画設計、製作等の活動を通した「ものづくり」を体験したい場合は、「NHK 学生ロボコン」に参加するチーム「東京大学 RoboTech」の活動への参加も歓迎する。 講義はオンラインおよび一部対面で実施予定である。現地での実施が可能な場合、実習は集中講義形式を取り、本郷で行う（土曜、日曜、長期休暇中に行う場合がある）。 ※関連 HP：https://tuk.t.u-tokyo.ac.jp/robotech/ 講義及び実習への参加度合いにより、合格・不合格を判定する。 各学生の得意分野を積極的に評価する。たとえば、文系の学生で機械加工等が得意でなくとも、論理的分析やプレゼン資料作成で評価するなど、多様性を重んじる。 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					
成績評価方法							
教科書							
ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51327	A	ロボット競技を体験しよう D	岡田 慧、 小島 邦生	工学部	水 6	2	2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 ロボット競技とは、決められたルールに従ってオリジナルのロボットを製作して競わせるものである。ルールを徹底的に分析し、討論して最適戦略と最適マシン仕様を策定し、機械工学、電子工学、情報工学、人工知能を学び、身につけ、協力して最強のマシンを設計・製作・改良・検証する。勝つためには、訴求力あるプレゼン資料の作成や、力を発揮する組織運営、あらゆる事象を想定した危機管理など、文系的能力も不可欠である。 本ゼミでは、これらの総合的取り組みの様々な段階を実体験することで、一つの具体的目標に向けて、全員が徹底的に頭脳を振り絞り、創造力を発揮することで、総合的に人間力を高めることを狙う。 専門的な知識は前提としない。文理問わず興味を持った人に来てもらいたい。 本ゼミは 1 年 S セメスターの A から 2 年 A セメスターの D までで構成される。A に参加した学生には、基礎からの講義および実習を行い、基礎的な知識・技能の習得をまず達成する。その後、次学期以後の当ゼミに参加して発展的内容に取り組むことで学習効果が十分に得られるが、どうするかは本人の自由である。 発展的な内容を体験したい学生や、本格的なロボットの企画設計、製作等の活動を通した「ものづくり」を体験したい場合は、「NHK 学生ロボコン」に参加するチーム「東京大学 RoboTech」の活動への参加も歓迎する。 講義はオンラインおよび一部対面で実施予定である。現地での実施が可能な場合、実習は集中講義形式をとり、本郷で行う（土曜、日曜、長期休暇中に行う場合がある）。 ※関連 HP : https://tuk.t.u-tokyo.ac.jp/robotech/ 講義及び実習への参加度合いにより、合格・不合格を判定する。 各学生の得意分野を積極的に評価する。たとえば、文系の学生で機械加工等が得意でなくとも、論理的分析やプレゼン資料作成で評価するなど、多様性を重んじる。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 教科書ガイダンス 第一回授業日に行く。／Will conduct guidance at first time					
成績評価方法							
教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51328	A	フォーミュラレーシングカーを作る B	山崎 由大	工学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 本ゼミでは 8 月または 9 月に開催が予定されている自動車技術会主催の「学生フォーミュラ日本大会」に出場する電気駆動フォーミュラレーシングカーの企画、設計、製作、試験、改良の一連のプロジェクトを体験する。これにより、「ものづくり」の楽しさ、面白さ、難しさを感じ取ると共に、工学の基礎を身に付け、更には自分の進むべき道を見つけることを目標とする。 自動車産業が総合産業であるのと同じく、本プロジェクトに要求される内容も単に工学的知識だけでなく、企業との交渉、広報活動、ドライビングなど多岐にわたる。ゼミ参加メンバー各自がそれぞれに自分の得意とするあるいは興味の有る分野の仕事を見つけ、進める。このため本ゼミでは工学部進学希望者に限らず、文科系、理科系全ての学生を対象とする。水曜日の 5・6 限に駒場で、あるいは土・日等の休日に本郷で行う集中講義形式とする。（詳細日程はゼミ参加者で相談して決める） 授業では電気自動車の基礎、ものづくりの基礎を講義・演習（この部分を必修とする）を通して教える。それらの基礎の上に、希望者に関しては「東京大学フォーミュラファクトリー」の活動に参加してもらい、フォーミュラレーシングカーの企画から設計、製作、試験、改良などの一連の作業に取り組み、仮想的企業活動を体験する。 本ゼミは 1 学年 S セメスターの「フォーミュラレーシングカーを作る A」に始まり、A セメスターの「同 B」・・・と各セメスターに開講するが、S セメスター開講の A 及び A セメスター開講の B(A を履修しなかった学生向け)で基礎を教える。2 年次以降の学生でも一連のゼミを受講する場合は最初に「フォーミュラレーシングカーを作る A」または「同 B」を受講すること。「フォーミュラレーシングカーを作る A」を受講した学生は「同 B」以後の受講を可能とする。初めて「フォーミュラレーシングカーを作る B」を受講した学生は「同 C」以後の受講を可能とする。「同 B」以後のゼミは、主に輪講形式で実施する。更に専門課程進学後の 3 年から 4 年夏に掛けては工学部共通科目「創造的ものづくりプロジェクト」の 1 テーマとして、修士 1 年に対しては工学系研究科共通科目「創造性工学プロジェクト」の 1 テーマとして設定されており、文科系であっても他学部聴講あるいは他研究科聴講の形で受講できる。 具体的製作活動は「学生フォーミュラ日本大会」出場チームである「東京大学フォーミュラファクトリー」の活動として行う。製作活動は本郷キャンパス工学部 8 号館地下 2 階 0069 号室「メカノデザイン工房」及び「工学部ものづくり実験工房」で行う。 ※安全教育を実施します（対面で実施予定）。これは実習受講のために必須なので、受講希望者は必ず出席すること。出席できない場合は、事前に草加まで連絡すること。 ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法		必修項目への出席およびプロジェクトへの参加度合いにより、合格・不合格を判定する。					
教科書 ガイダンス		プリントを配布する。／Will distribute handouts 第一回授業日に行く。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51329	A	フォーミュラレーシングカーを作る D	山崎 由大	工学部	集中	2	2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いため留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いため、履修にあたっては十分に注意すること。 本ゼミでは 8 月または 9 月に開催が予定されている自動車技術会主催の「学生フォーミュラ日本大会」に出場する電気駆動フォーミュラレーシングカーの企画、設計、製作、試験、改良の一連のプロジェクトを体験する。これにより、「ものづくり」の楽しさ、面白さ、難しさを感じ取ると共に、工学の基礎を身に付け、更には自分の進むべき道を見つけることを目標とする。 自動車産業が総合産業であるのと同じく、本プロジェクトに要求される内容も単に工学的知識だけでなく、企業との交渉、広報活動、ドライビングなど多岐にわたる。ゼミ参加メンバー各自がそれぞれに自分の得意とするあるいは興味の有る分野の仕事を見つけ、進める。このため本ゼミでは工学部進学希望者に限らず、文科系、理科系全ての学生を対象とする。水曜日の 5・6 限に駒場で、あるいは土・日等の休日に本郷で行う集中講義形式とする。（詳細日程はゼミ参加者で相談して決める） 授業では電気自動車の基礎、ものづくりの基礎を講義・演習（この部分を必修とする）を通して教える。それらの基礎の上に、希望者に関しては「東京大学フォーミュラファクトリー」の活動に参加してもらい、フォーミュラレーシングカーの企画から設計、製作、試験、改良などの一連の作業に取り組み、仮想的企業活動を体験する。 本ゼミは 1 学年 S セメスターの「フォーミュラレーシングカーを作る A」に始まり、A セメスターの「同 B」・・・と各セメスターに開講するが、S セメスター開講の A 及び A セメスター開講の B(A を履修しなかった学生向け)で基礎を教える。2 年次以降の学生でも一連のゼミを受講する場合は最初に「フォーミュラレーシングカーを作る A」または「同 B」を受講すること。「フォーミュラレーシングカーを作る A」を受講した学生は「同 B」以後の受講を可能とする。初めて「フォーミュラレーシングカーを作る B」を受講した学生は「同 C」以後の受講を可能とする。「同 B」以後のゼミは、主に輪講形式で実施する。更に専門課程進学後の 3 年から 4 年夏に掛けては工学部共通科目「創造的ものづくりプロジェクト」の 1 テーマとして、修士 1 年に対しては工学系研究科共通科目「創造性工学プロジェクト」の 1 テーマとして設定されており、文科系であっても他学部聴講あるいは他研究科聴講の形で受講できる。 具体的製作活動は「学生フォーミュラ日本大会」出場チームである「東京大学フォーミュラファクトリー」の活動として行う。製作活動は本郷キャンパス工学部 8 号館地下 2 階 0069 号室「メカノデザイン工房」及び「工学部ものづくり実験工房」で行う。 ※安全教育を実施します（対面で実施予定）。これは実習受講のために必須なので、受講希望者は必ず出席すること。出席できない場合は、事前に草加まで連絡すること。 ※このゼミは 10 月 2 日（木）6 限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		必修項目への出席およびプロジェクトへの参加度合いにより、合格・不合格を判定する。 プリントを配布する。／Will distribute handouts 第一回授業日に行く。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51332	A	魔改造技術者養成プログラム	長藤 圭介	工学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 本講義は、NHK 総合「魔改造の夜」にインスパイアされた「魔改造」の世界観を踏襲し、履修者がチームを組んで、身近な家電製品やおもちゃを決められたルール・期限の中で実際に改造し、最終競技会で成果物の性能を競うプロジェクト型演習である。 学部 1 年生から大学院生までを含むグループで「あえて役に立たないものを作る」活動を通して、現場・現物・現人に基づくものづくりを体感し、創造性のある制作経験を積むことを目的とする。 授業の詳細や過去の実施の様子については、下記の Web サイトを参照すること。 https://utmakaizo.nagato-u-tokyo.jp/about/education/ ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		ガイダンスにて説明します。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行く。／Will conduct guidance at another time					

全学体験ゼミナール

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51333	A	小学生にものづくり教育を行う 「ものラボ」キャンプⅡ	杉田 直彦、 吉崎 れいな	工学部	集中	2	1 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 ○工学部・機械工学科が提供するゼミナールです。下記の 2 名の教員が担当します。 杉田直彦 教授 吉崎れいな 助教 本プロジェクトでは、小学生を対象とした「創造的なものづくりワークショップ」をプロジェクトに参加する学生で開発・実践します。学生はどのようにしたら小学生に創造的なものづくりを楽しんで学んでもらえるかを検討し、ワークショップの企画・運営を行います。これにより、ものづくりにおける難しさ、楽しさはどこにあるかを小学生の眼を通して改めて考え、学生がものづくりの魅力を再発見し、課題解決に取り組みます。このワークショップに参加する子供が、ものづくりの楽しさを体感し、エンジニアを志すきっかけを作ります。 ----- ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる 工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。 -----					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		出席を勘案して決定します。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51334	A	小学生にものづくり教育を行う 「ものラボ」キャンプⅣ	杉田 直彦、 吉崎 れいな	工学部	集中	2	2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 ○工学部・機械工学科が提供するゼミナールです。下記の 2 名の教員が担当します。 杉田直彦 教授 吉崎れいな 助教 本プロジェクトでは、小学生を対象とした「創造的なものづくりワークショップ」をプロジェクトに参加する学生で開発・実践します。学生はどのようにしたら小学生に創造的なものづくりを楽しんで学んでもらえるかを検討し、ワークショップの企画・運営を行います。これにより、ものづくりにおける難しさ、楽しさはどこにあるかを小学生の眼を通して改めて考え、学生がものづくりの魅力を再発見し、課題解決に取り組みます。このワークショップに参加する子供が、ものづくりの楽しさを体感し、エンジニアを志すきっかけを作ります。 ----- ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる 工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。 -----					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		出席を勘案して決定します。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51336	A	最先端テクノロジーを熱く語る ゼミ～熱語（あつかた）ゼミ	泉 聡志、 大宮司 啓文、 杉田 直彦	工学部	月 5	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 最先端で活躍する現役の外部講師を毎週お招きして、成功談・失敗談などを交えて、日進月歩の専門分野の現状を熱く語って頂きます。ここまで約 40 分。次に学生 3 人組でのグループワークを約 5 分してもらい、あとは残りの約 60 分で外部講師と東大の教授陣を質問攻めにして、本音ベースのディスカッションを展開します。ファシリテーターとして東大宇野ゼミの宇野先生が参加。楽しく分かりやすくガイドしてくれるでしょう。機械工学専攻の大学院生もサポートしてくれます。 文系でも理系でも参加できるゼミです。つまり素人、大歓迎ということです。でも東大工学部の教授陣が、毎回責任を持ってバックアップしてくれます。 このように、その分野の真のプロフェッショナルの方々とは東大生の掛け合いによって、テクノロジーの最先端をテーマに、熱く楽しくディスカッションを毎週繰り広げます。素人目線も取り入れて、分からないことは分からないと、素直に質問をぶつけられる雰囲気大切にします。そして心がワクワクする授業にしたいと思います。 ・それ、何の役に立つのですか？何が凄いのですか？ ・何が難しいのですか？本当に実現できるのですか？ ・いつ実現できるのですか？いくら予算がかかるのですか？ ・ビジネスとして成立するのですか？ ・この技術が実現すると、世の中はどう変わるのですか？ ・その時、自分はどうか対応すれば良いのですか？ ・誰が世界のトップランナーなのですか？ ・勝ち目はあるのですか？最終的な夢は何ですか？ 何でも聞いてみて下さい。建前ではなく、本音で熱く語って頂きます。これからの未来は、最先端テクノロジーで変わる、変える、激変するでしょう。その熱気をみんなで分かち合いませんか。文系・理系、学年、性別、バックグラウンドを問わず、全ての東大生を巻き込んだ楽しいコミュニティを目指します。是非、覗いてみて下さい。 自分の人生が良い意味で変わるキッカケになるかもしれません。 この授業は、テクノロジーが社会を大きく変えつつある現実を、より深く理解すると共に、外部講師と教授陣と受講生が緩やかなコミュニティを形成することを目指します。また刺激的な雰囲気身に置くことで、共に成長し合える仲間が増えて、科学技術の目覚ましい発展と向き合える時間をみんなで共有する貴重な機会となるでしょう。将来の進路に関わらず、誰もが押さえておくべき科学的リテラシーを身に付けて、新しい時代のリーダー育成に寄与することを目的とします。興味のあるコマだけの聴講を歓迎します。興味のありそうな友人を誘ってみてください。終了後、講師を交えた簡単な懇親会を予定しています（軽食付き）。 ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		出席・講義への参加 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51337	A	飛行ロボットを作って飛ばす	土屋 武司	工学部	水 5	2	1 年 理科 2 年 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 飛行ロボットとは無人航空機（ドローン）である。室内で飛行する大きさ数 10cm～1m 程度、重量数 100g の飛行ロボットを自ら設計、製作し飛行させることを目標とする。小さくても飛行ロボットには航空工学の要素が詰まっており、講義、実習を通じてこれを理解する。 ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		授業への参加、貢献度による。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51343	A	ナノ・バイオテクノロジー：最先端ラボへようこそ	宮田 完二郎、 江草 大佑、 白岩 隆行、 豊島 遼、 阿部 英司、 近藤 高志、 澁田 靖、 南部 将一、 江島 広貴	工学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 最先端の科学技術では、ナノスケールでの物質の構造や特性の制御が欠かせません。これをどうやって実現しているのか、実際に研究室で体験してみませんか？ ・ナノスケールの極小の世界で起こる出来事は、どのようにして知ることができるのでしょうか？ ・ナノスケールの材料を操作して組み立てるには、どうすればいいのでしょうか？ ・ナノスケールの材料研究において計算科学やシミュレーションはどのように役に立つのでしょうか？ ・mRNA ワクチンなどのナノ医薬はどの様にして調製・評価されるのでしょうか？ 本体験ゼミナールでは、ナノとバイオに関する最先端研究を実際に体験し、その面白さと奥深さを学んでもらいます。 ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		講義や実習への参加による評価 授業中に指示をする。／Will specify at class time 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51344	A	応用化学の最先端研究を体験してみよう B	細野 暢彦	工学部	集中	2	1 年 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 本授業では、工学部応用化学科の研究室での化学実験を通して応用化学の最先端研究を体験し、化学に対する理解を深めることを目的とする。 ***** このゼミは 10 月 2 日(金)6 限（18：45～）の工学部合同ガイダンス（オンライン開催）に参加予定です。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知する予定です。 *****					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		実験への参加状況により評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51348	A	鉱物資源はどこでできるのか？ ～フィールド調査と鉱物採集の 旅：海底資源編～	中村 謙太郎、 安川 和孝	工学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 私たちの文明の発展は、多種多様な鉱物資源によって支えられています。特に近年では、持続可能な人類社会を築くためにさまざまな金属（ベースメタル、レアメタル、貴金属）が不可欠となっており、その供給源としての鉱物資源の役割は増大しています。では、これらの「鉱物資源」は一体どこから生まれるのでしょうか？ 水の惑星と呼ばれる地球には、海でできた鉱物資源が数多く存在しています。驚くべきことに、陸地で採掘される資源の中にも、過去に海で形成されたものがたくさん含まれています。そして、東京近郊にも海に由来する鉱物資源が存在し、実際に過去には採掘されていたのです。 そこでこの授業では、東京周辺で野外巡検（日帰り）を行い、過去の海でできた岩石と鉱物資源を実際に観察・分析してもらいます。自ら手を動かし、その実態と魅力に触れてもらうことで、私たちの生活を支える鉱物資源とそれを生み出す海に対する理解を深めてもらうことを目標とします。 ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）に Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法		野外巡検、講義、化学分析の終了後にレポートを作成してもらい、その内容により成績評価を行います。 なお、2 回の講義と巡検への参加およびレポート提出の全てが単位認定に必須となります。					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51352	A	Virtual Exchange for Global Citizens～プリンストン大学の 学生とのオンライン交流～	秋山 友香	工学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【重要】10 月 2 日（金）6 限 18:45～に行われる【工学部、全学自由研究ゼミナール・全学体験ゼミナール・学術フロンティア講義 合同説明会】への参加が必須です。その説明会で事前登録のフォームを共有します。 プリンストン大学の日本語学習者と協力して、様々なタスクに取り組むプロジェクト型の授業です。授業は講義、国際コミュニケーション演習、そして成果発表の 3 部構成で展開されます。授業での使用言語は英語ですが、プリンストン大学の学生と交流する時には日本語と英語両方を使用します。国境や学問の枠を超えた交流を通じて、世界で活躍するために必要な語学力と異文化コミュニケーション能力を養います。さらに、国と国の表層的な比較に留まらない、多様性に焦点を当てたプロジェクトを行うことで、真のグローバル市民になるのに必要な資質を育てます。 This course offers a project-based collaboration in which students from the University of Tokyo and Japanese language learners at Princeton University tackle various tasks. The course is divided into three key segments: lectures, interactive international communication exercises, and final presentations. By engaging in cross-border and interdisciplinary interactions, the course aims to develop the linguistic and intercultural competencies that are crucial for global effectiveness. Moreover, the projects are designed to foster global citizenship by highlighting the importance of diversity and moving beyond superficial comparisons of nation-states. ※このゼミは 10 月 2 日（金）6 限（18：45～）Zoom で行われる工学部合同説明会への参加を予定しています。 Zoom の URL は後日 UTAS 掲示板のお知らせにて周知いたします。					
成績評価方法		講義での積極的参加 - 30% パートナーとの交流 - 40% 課題 - 20% 成果発表 - 10%					
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51378	A	じっくり学ぶ数学 II	木田 良才、 牛腸 徹	理学部	金 5	2	1 年 文科 理科
授業の目標概要		■ 全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 数学を学ぶ上で微積分学と線型代数学は最も基本的なものです。そこで、S セメスターの「じっくり学ぶ数学 I」に引き続き、論理的な順番には余りこだわらずに、微積分学や線型代数学における基本的な考え方を順番に取り上げて、何をどう考えているのかとか、何がアイデアなのかということになるべくはっきりした形で説明してみようと思います。それにより、正規の数学の講義と合わせて、皆さんにより良く微積分学や線型代数学を身につけていただく助けになればと考えています。 一応、ゼミは講義形式で行おうと考えていますが、時間の余裕のある方には演習問題を解いて頂く時間を取りたいと思っています。また、文系の方でも十分理解していただけるのではないかと思いますので、文系、理系を問わず、興味のある方でしたらどなたでも歓迎します。 ※授業登録はできませんが、もう一度、数学をじっくり学び直したいと思われる 2 年生の参加も歓迎します。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		問題を解いたノート提出 プリントを配布する。／Will distribute handouts 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51383	A	目に見えない素粒子や 原子核を見てやろう	山口 英斉、 横山 輪、 LIM BONG-HWI、 郡司 卓、 酒見 泰寛	原子核科学研究センター	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 ■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 サブ`アトミック粒子、即ち原子以下の大きさを持つ微細粒子を測ることは、原子核・素粒子・宇宙物理学の実験的研究において最も基本的な手法で`あり、検出器はサブ`アトミックな世界を研究する上で`の目や耳ともいうべ`きもので`ある。 授業で`は、目に見えないサブ`アトミック粒子測定の基本原理を理解することを目標とする。そのため、授業は以下のような構成を取る。 (1) 講義により、粒子検出器についての基礎的な検出原理を理解する。(2) 実際に、幾つかの検出器を構築する。 (3) 構築した検出器を用いてサブ`アトミック粒子を測定する。(4) 測定結果を評価考察する。</p> <p>※実習指導の都合から、履修人数は10名以下が望ましい。</p> <p>※このゼミナールは、埼玉県和光市理化学研究所キャンパス(東武・東京メトロ和光市駅から徒歩15分程度)内にある東大原子核科学研究センターで開催される。期間中は近隣の宿泊施設(ホテル)に宿泊していただく予定。</p> <p>実習へと取り組み姿勢と達成度、及び`発表会で`の発表内容に基づ`いて評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time							
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51389	A 1	都市林を支える知と技：武蔵野編	安村 直樹、 前原 忠、 後藤 晋	農学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 森林は木材生産、環境保全、防災など様々な機能を持ち、人間の生活を支え、人間との生活の関わりの中で森林が維持されてきた。近年では温暖化やヒートアイランド現象が進行する中において、「都市林」の重要性が増している。これらの森は、放置しておけばよいのではなく適正な管理、すなわちあるべき森の形を設定し、そのために手を加える必要がある。とくに都市林では散策路に枝が張ったり、ナラ枯れなどの危険木の処理などの新しい課題も出てきている。 本講義では、森林の持つ多面的機能のうち、保健・レクリエーション機能、文化機能に重きを置きながら、森林の調査や管理作業を体験し、都市林の望ましい造成方法や管理手法について考える。本年度は、森と人との関係性、特に東京という場所の地域特性に着目し、東京大学の演習林や明治神宮を訪れ、都市林の造成の背景や造成後の管理方法を学ぶ。 フィールド体験ゼミおよび振り返りへの出席と、レポートによって評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51390	A 1	秩父に学ぶ A 木を育む森を知り・木を伐採し・木を使うゼミ の先へ、発信！	鴨田 重裕	農学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この講義は S2 タームに実施した「秩父に学ぶ S」から継続して受講することを前提に設置しています。本ゼミ「秩父に学ぶ A」のみの受講はできません（単位が付きません）のでご注意ください。ただし、他の体験ゼミ受講生が本ゼミの趣旨をよく理解して受講することはお認めします。 S2 タームゼミでは、実際に木を伐り出し、それを使う体験をしてもらいました。 切り出して、運び出すことを通じて、森林を資源として捉える一つの視点を得られたと思います。視点を得ることによって、森林の見方が少し変わったでしょうか。 秩父に学ぶ A は、皆さんの内部にどのような変容があったかについて考察することを目的とします。 山から運び出した木はどうでしたか？ ・燃料にする（飯盒炊爨は？・ドラム缶風呂は？） ・匂い・味覚を楽しむ（檜のにおいは？・燻製の香りは？） ・小物を作る（木割りは？・バードコール作りは？） 今の山林の状況を知り、将来の山林のことを考えるには、社会ぐるみでそれらに向き合う「気分」の様なものが欠落しているように思われます。このゼミで、実際に木を伐採して、使ってみて、皆さんはどのようなことを感じ、考えたでしょうか。ゼミを通して皆さんの内部に生じた変容（気づきや理解、捉え方の変化）を、一般の方々と共有することを秩父に学ぶ A ゼミの目標とします 現代社会に欠けているものを、君たちの変容を伝えることで補うことができないだろうか。本ゼミに関連する他の全学自由研究ゼミの皆さんが既に次の駒場祭で社会への発信の準備を進めています。本ゼミ「秩父に学ぶ A」の皆さんには、そこに相乗りする形で、駒場祭の場を借りて発信体験をしていただきます。 授業への取り組み姿勢とレポート（ポスター）で評価します。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51391	A	森に学ぶ 林業を意識する低山歩きと 森林生態系を意識する奥山歩き A 1_1 (低山ゼミ A 1)	鴨田 重裕	農学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この体験ゼミは森林・林業を意識するために現地に足を運ぶスタイルをとるため、対面受講できる学生のみが受講可能です。オンライン受講はできないのでご注意ください。ハンディキャップがある方には本当に申し訳ありません。 山歩きを楽しんでもらい、山林に親しみを感じていただくことを本ゼミの一つの目的としていますが、それだけで終わりではありません。 山歩きを切っ掛けとして、ご自身が暮らす日本の国土のことを考えてもらおうという目的を掲げます。多くの山行は、下山後に温浴施設に立ち寄ります。適度な運動のあと。温泉でさっぱりしたあと、その日の山行を振り返って見ましょう。しかも面せずに楽しみながら行う予定です。 A 1 A 2 タームそれぞれに、秩父演習林の宿泊施設に 1 泊する日程を組んであります。日帰り山行ではやりにくい、山行の振り返りと、各々の意見を交換する機会となります。どうぞお楽しみにしてください。 日本の国土は 7 割近くが森林に覆われていることをあなたはご存じだと思います。その 7 割の面積におよぶ森林をどのように管理するべきか、あなたは考えてみたことはありますか？ 山林のことは林業関係者に任せておけば良いでしょうか？ 専門家でもないあなたは何も考える必要はないのでしょうか。人任せにされていて、取り返しのつかないことにならないでしょうか。 いま現在、日本において、その肝心の林業はちゃんと回っているのでしょうか。 日本の林業は外国に比べてコスト高であるため、儲けを出しにくいと言われていました。儲からない産業には資本が投下されにくい（資本主義から見放される）。すべてを資本主義的な価値観で判断するのであれば、日本の山林は放置するのが最も合理的であるということになりかねません。しかし、その判断はあくまでも資本を投下して、その投下に見合った回収を期待できるかどうかという価値観によるものに過ぎません。現状を放置すると、例えば獣が増えて植生を壊滅させることが起こり得ます。植生を失うと、豊かであった土壌が簡単に流亡することになります。土壌の流亡は規模を増したときには、大規模に近辺の植生もろとも土石を下流に押し流してしまうこともあるでしょう。災害ばかりではありません、豊かな土壌を失うことは、生産性を失うことと同義です。一度失うと、簡単に取り戻すことはできません。 あなたはハイキングや山野を歩くことが好きでしょうか（好きになりそうでしょうか）。 このゼミは東京近郊の身近な山で、林業を意識しながら歩いたり、目の前の森林の来し方行く末を思いながら山を歩いたりする機会を提供することを目的とする講義です。自然豊かな山の奥の方と、人里に近い低山とを歩き比べてみましょう。どちらが自分好みか、優劣をつける様な価値を持ち込みがちですが、ここは是非両方の良さを知る機会にしたいと思っています。 森林・林業を意識する？ 山歩きはとても気持ちいいものです。色々なことをくよくよ考えたり、せわしく過ごしたりしがちな日常生活から距離をとる。山歩きをしているその瞬間は、日常をすっかり忘れて、ただ歩くことのみに気持ちを向かわせることができます。それはそれでよいものです。 その様に無心に山林を歩くのも好いですが、このゼミでは森林を意識する・林業を意識するという視点を持って歩くことを提案します。意識を働かせることで見え方がグッと変わってくることを体験してもらいたいのです。林業の視点で山林を眺めるとどの様に見えるでしょう？その様な視点を獲得することがこのゼミの狙うところです。 私たちが生きる現代社会の特徴 私たちが生きる現代社会は、いろいろなプロセスが見えづらい時代であると捉えることができます。構造が複雑になりブラックボックス化が進んでいることがその大きな要因の一つでしょう。しかし、それが原因だから仕方がないと片付けてしまえばそれまでです。複雑で忙しい日々を過ごすうちに、思考を節約して簡単に済ませる術を身に着けるという、いわば生活習慣によって観察できない状態・考えない状態に慣れきっていることではできないでしょうか。 このゼミでは忙しく歩くような山歩きはしません。まわりの植物や現象をゆっくりと観察できる歩調で、時に立ち止りながら山林の中に身を置きます。ゆっくりと歩くと見える量も質も大きく異なってきます。ブラックボックスに立ち向かうためにはゆっくりと思考する姿勢が何よりも大切になります。 このゼミではたっぷりとその様なことを考えてもらいたい。 何か正解を見つけない山歩きをするわけではありません。知れば知るほど難しい問題になるのかも知れませんが、一つだけ正解がある様な問題とは限りません。よく考えてみることで、それ自体がこのゼミの目的と言えます。 手つかずの奥山の様子と資源利用を行う人工林と、両方を意識して歩いてみると何が現れて来るでしょうか。自分が何を感じたか、感じたことを出発点として何を考えたか。そして、それをどの様に自分の行動に落とし込んでいくことができるか。 「感じる・考える・行動する」のサイクルを回そう。これは鴨田が主宰する全てのゼミに共通する理念です。本ゼミをきっかけに、これらのゼミを母体とするコミュニティに残り、どう行動するか部分を大学生の内に何か一つでも実現できたならば、あなたの生き方が大きく変わるかも知れない。これらのゼミの中での気づきや変容について、学園祭に企画を立てて発信することを目的とする全学自由研究ゼミがあります。こちらに繋げてゆくと、なお楽しめます。 講義の受講態度と事後レポートの内容により可否を判定します。 ・レポート提出が無い場合は不合格になります。 ・受講態度が本ゼミに相応しくないと判断された場合には改善を求めますので、指示に従ってください。 ・レポートは内容により可否を判定します。大学生のレポートのレベルに達していると認められない場合は不可になることがあるのでご注意ください。 ・山行の感想文の様なものはレポートとは認められません。 ・無理な出席は推奨していません。そのため、欠席しても以下の様に単位を付けます。 51391「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_1」が 1 単位、 51392「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_2」が 1 単位になっています。 3 山行に参加し、レポートで合格すると 2 単位つきます。					
成績評価方法							
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51392	A	森に学ぶ 林業を意識する低山歩きと 森林生態系を意識する奥山歩き A 1_2 (低山ゼミ A 1)	鴨田 重裕	農学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この体験ゼミは森林・林業を意識するために現地に足を運ぶスタイルをとるため、対面受講できる学生のみが受講可能です。オンライン受講はできないのでご注意ください。ハンディキャップがある方には本当に申し訳ありません。 山歩きを楽しんでもらい、山林に親しみを感じていただくことを本ゼミの一つの目的としていますが、それだけで終わりではありません。 山歩きを切っ掛けとして、ご自身が暮らす日本の国土のことを考えてもらおうという目的を掲げます。多くの山行は、下山後に温浴施設に立ち寄ります。適度な運動のあと。温泉でさっぱりしたあと、その日の山行を振り返って見ましょう。しかも面せずに楽しみながら行う予定です。 A 1 A 2 タームそれぞれに、秩父演習林の宿泊施設に 1 泊する日程を組んであります。日帰り山行ではやりにくい、山行の振り返りと、各々の意見を交換する機会となります。どうぞお楽しみにしてください。 日本の国土は 7 割近くが森林に覆われていることをあなたはご存じだと思います。その 7 割の面積におよぶ森林をどのように管理するべきか、あなたは考えてみたことはありますか？ 山林のことは林業関係者に任せておけば良いでしょうか？ 専門家でもないあなたは何も考える必要はないのでしょうか。人任せにされていて、取り返しのつかないことにならないでしょうか。 いま現在、日本において、その肝心の林業はちゃんと回っているのでしょうか。 日本の林業は外国に比べてコスト高であるため、儲けを出しにくいと言われていました。儲からない産業には資本が投下されにくい（資本主義から見放される）。すべてを資本主義的な価値観で判断するのであれば、日本の山林は放置するのが最も合理的であるということになりかねません。しかし、その判断はあくまでも資本を投下して、その投下に見合った回収を期待できるかどうかという価値観によるものに過ぎません。現状を放置すると、例えば獣が増えて植生を壊滅させることが起こり得ます。植生を失うと、豊かであった土壌が簡単に流亡することになります。土壌の流亡は規模を増したときには、大規模に近辺の植生もろとも土石を下流に押し流してしまうこともあるでしょう。災害ばかりではありません、豊かな土壌を失うことは、生産性を失うことと同義です。一度失うと、簡単に取り戻すことはできません。 あなたはハイキングや山野を歩くことが好きでしょうか（好きになりそうでしょうか）。 このゼミは東京近郊の身近な山で、林業を意識しながら歩いたり、目の前の森林の来し方行く末を思いながら山を歩いたりする機会を提供することを目的とする講義です。自然豊かな山の奥の方と、人里に近い低山とを歩き比べてみましょう。どちらが自分好みか、優劣をつける様な価値を持ち込みがちですが、ここは是非両方の良さを知る機会にしたいと思っています。 森林・林業を意識する？ 山歩きはとても気持ちいいものです。色々なことをくよくよ考えたり、せわしく過ごしたりしがちな日常生活から距離をとる。山歩きをしているその瞬間は、日常をすっかり忘れて、ただ歩くことのみに気持ちを向かわせることができます。それはそれでよいものです。 その様に無心に山林を歩くのも好いですが、このゼミでは森林を意識する・林業を意識するという視点を持って歩くことを提案します。意識を働かせることで見え方がグッと変わってくることを体験してもらいたいのです。林業の視点で山林を眺めるとどの様に見えるでしょう？その様な視点を獲得することがこのゼミの狙うところです。 私たちが生きる現代社会の特徴 私たちが生きる現代社会は、いろいろなプロセスが見えづらい時代であると捉えることができます。構造が複雑になりブラックボックス化が進んでいることがその大きな要因の一つでしょう。しかし、それが原因だから仕方がないと片付けてしまえばそれまでです。複雑で忙しい日々を過ごすうちに、思考を節約して簡単に済ませる術を身に着けるという、いわば生活習慣によって観察できない状態・考えない状態に慣れきっていることではできないでしょうか。 このゼミでは忙しく歩くような山歩きはしません。まわりの植物や現象をゆっくりと観察できる歩調で、時に立ち止りながら山林の中に身を置きます。ゆっくりと歩くと見える量も質も大きく異なってきます。ブラックボックスに立ち向かうためにはゆっくりと思考する姿勢が何よりも大切になります。 このゼミではたっぷりとその様なことを考えてもらいたい。 何か正解を見つけない山歩きをするわけではありません。知れば知るほど難しい問題になるのかも知れませんが、一つだけ正解がある様な問題とは限りません。よく考えてみることで、それ自体がこのゼミの目的と言えます。 手つかずの奥山の様子と資源利用を行う人工林と、両方を意識して歩いてみると何が現れて来るでしょうか。自分が何を感じたか、感じたことを出発点として何を考えたか。そして、それをどの様に自分の行動に落とし込んでいくことができるか。 「感じる・考える・行動する」のサイクルを回そう。これは鴨田が主宰する全てのゼミに共通する理念です。本ゼミをきっかけに、これらのゼミを母体とするコミュニティに残り、どう行動するか部分を大学生の内に何か一つでも実現できたならば、あなたの生き方が大きく変わるかも知れない。これらのゼミの中での気づきや変容について、学園祭に企画を立てて発信することを目的とする全学自由研究ゼミがあります。こちらに繋げてゆくと、なお楽しめます。 講義の受講態度と事後レポートの内容により可否を判定します。 ・レポート提出が無い場合は不合格になります。 ・受講態度が本ゼミに相応しくないと判断された場合には改善を求めますので、指示に従ってください。 ・レポートは内容により可否を判定します。大学生のレポートのレベルに達していると認められない場合は不可になることがあるのでご注意ください。 ・山行の感想文の様なものはレポートとは認められません。 ・無理な出席は推奨していません。そのため、欠席しても以下の様に単位を付けます。 51391「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_1」が 1 単位、 51392「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_2」が 1 単位になっています。 3 山行に参加し、レポートで合格すると 2 単位つきます。					
成績評価方法							
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51393	A	森林フィールドワークから学ぶ デザインイノベーション演習	平尾 聡秀、 左右田 智美、 前原 忠	農学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 現代の社会課題の 1 つである生物多様性の損失を食い止め、自然を回復の方向へ転換する「ネイチャーポジティブ」の実現には、自然の状態を正確に理解するだけでなく、多様な人々が自然に関心をもち、その保全や再生に参加できる新しい仕組みを生み出すことが求められる。 本演習は、フィールドワークを通じて「ネイチャーポジティブ」を体感する実践型授業である。森林・動物・植物・昆虫という 4 つの領域に実地で触れながら、生態系を「知る」ための新しい研究やアイデアを学生自身が構想・実施する。デザインを軸とした市民参加型科学研究 (Citizen Science) の手法を学び、フィールドを起点としたデザインイノベーションの基礎を身につけることを目的とする。 受講を通じて、次の内容を修得することを目指す。 ・森林・動物・植物・昆虫の各領域における基本的な観察・計測手法の理解 ・生態系データの取得から簡潔な整理・可視化までの一連のプロセスの体験 ・デザイン思考を用いた研究アイデアの発想・プロトタイピング・検証の実践 ・フィールドの知見をデザインコンセプトとして発表・共有する力 ※現地講義に参加可能な学生のみに履修を制限します。 ※受講人数を 30 名以下に制限します。 ※受講希望者は 10 月 7 日 (水) 6 限のガイダンスに参加して下さい。 ※担当教員：平尾聡秀・左右田智美・前原忠 出席とプレゼンテーションで評価します。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51394	A	鹿の遠音 ”Soundings of Deer”	大黒 俊哉、 種子田 春彦	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 本全学体験ゼミナール「鹿の遠音」は、北海道十勝平野南部の大樹町にて、エゾシカを巡る6日間のフィールドワークとレクチャーから構成される学際集中講義である。農学（生圏システム）、工学（リモートセンシング、建築）、理学（植物園）、現場（猟師、自治体）、それぞれの研究専門性・実践分野が持ち寄る知見と、実際の現場と現物から見えてくる現実の重ねあわせを通した、学術連携の可能性を感じてもらうことを目的としている。また鹿にまつわる文化的な関わり、すなわち人との関係性を音（楽）や、食、実物に触れることを介して思考を深める。この集中講義を通じて、多様な分野の専門性を重ねて目の前の事象を探究することの面白さを感じ、各の研究分野を選択する際の可能性へとつなげてもらうことを想定している。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		フィールドワーク・レクチャー・ワークショップに取り組む姿勢とレポートによって評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51411	A	最先端メディカルゲノムサイエンス を体験する 2026A	松田 浩一、 合山 進	新領域創成科学研究科	集中	2	1 年 理科 2 年 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いため留意すること。特に2年生は本科目の成績が進学選択が可能となる条件に含まれない見込みが高いため、履修にあたっては十分に注意すること。 メディカル情報生命専攻に所属する教員が実施する体験的プログラムに参加することで、現代生物学・基礎医科学研究の最先端の現場を体験することができます。 合わせて、実施キャンパスの見学説明等も行いますので、実際の大学院での研究がどんな雰囲気のところ、どのように行われるのかを直接肌で感じ取り、今後の進路選択にも役立つ貴重な経験が出来るでしょう。 『A セメスター開催予定プログラム』 （1）合山進先生「最先端の遺伝子編集ツール CRISPR を体験しよう！」 ※ 本プログラムは、白金キャンパスで実施されます。また、UTAS への履修登録に加え、別途メールで実習申込を行い採択される必要があります。詳細情報は「授業計画」を参照してください。 各プログラム責任者からの出席状況を取りまとめこれに基づき評価(合格、不合格、欠席)を決定する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51413	A 1	森と人を紡ぎ直す感性と 技術の方法論	中村 和彦、 藤原 章雄	新領域創成科学研究科	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 昨今、世界中のあらゆる情報がインターネット上に存在するようにも思えるが、それは人の生活圏に限ったことである。人里離れた森の情報は、未だインターネット上に僅かしか存在しない。 森は古来、人間にとって資源獲得や環境保全のために不可欠な存在であった。近代化以前はエネルギー源として生活に直結していたが、現代では二酸化炭素吸収や防災、保健・レクリエーションなど、人間との関係における時空間スケールがより大きくなり、森と人の関係を実感しにくくなっている。 本ゼミナールでは、現代的な森と人の新たな関係を紡ぎ直すための感性と技術の方法論として、実際に森を訪れて撮影とインターネットへの配信（平たくいえば「森の YouTuber」的な活動）を体験する。 授業への参加態度および映像の制作・配信内容を総合的に評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51420	A	フィールドワーク入門：現代社会を歩く①	開沼 博	情報学環	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 ◆この授業の概要 様々な現場に赴き、そこに生きる方々の声に耳を傾け、風景からその奥にあるものを読み取り、あるいは目に見えない歴史的蓄積をさぐります。さらにその内容を研究成果とすべく学会報告や査読論文としてまとめることを目指します。具体的には以下のプロセスを取ります。 ・参加者同士でのフィールドワークプログラムのプランニング ・フィールドについての文献やインタビュー等を活用した事前調査 ・プログラムの実施 ・リフレクション この流れを繰り返し、フィールドに入り込み、情報を読み取り、知識を得るトレーニングをします。その上で、意欲がある受講者は学会報告 or 査読論文投稿を目指します。 具体的なフィールド選定の部分から受講者の関心を踏まえて検討します。 キーワードとしては、都市・地方／政治・行政／災害・有事／メディア・ジャーナリズム／コミュニティ・組織／貧困・格差／グローバリゼーション・エスニシティ。これらに関する問題を捉え直す機会になるようにフィールド選定・プログラム設計を行います。無論、これは大学の授業であり「教育の場」ですので、物理的・非物理的に安全が保たれる範囲でプログラムは実施されることが前提になります。 なお、これまで以下のようなフィールドワークを実施しました。いずれも学部1・2年生が関わっての学会報告や査読論文投稿の実績につながりました。 ・北海道ホタテ生産加工現場フィールドワーク：中国による日本産水産物禁輸措置の打撃を最も受けた北海道ホタテの現状を知るために自動車でおホーツクと噴火湾とを5日間フィールドワーク ・蔵前クラフトカルチャーフィールドワーク：関東大震災の被災の中心地であり、東工大や東京電力やかつては国技館（いまの両国国技館）があったエリアである蔵前。江戸時代は全国のコメがあつまり札差たちが取引を行う金融エリアでもあった。ここにいま再生し、新たに芽吹き出した「クラフト」の産業と文化の集積とを調査 ・福島フィールドワーク：福島第一原発事故で全域が避難指示の対象となりがつては「死の町」とも形容された地域で、夏休み期間中に3回にわたってのべ10日間徹底的に住民の話をきき、課題と可能性を明らかにした ◆そもそもここでいうフィールドワークって？ 人文・社会科学的フィールドワークを指します。 文系・理系問わず、フィールドワークは様々な学問で用いられる手法です。部屋に閉じこもって本を読んだり実験したりするのも重要な研究方法ですが、何らかの現場に出るフィールドワークでしか得られないこともあります。フィールドワークという概念は多義的で領域や人によって定義もまちまちです。何らかのフィールドに出ればそれで「フィールドワーク」だというスタンスもあり得るし、もっと厳密に学術的なフィールドワークはかくあるべきでそこから外れるものは認めないというスタンスもありえます。 この授業でいうフィールドワークは、2つの方向性において、他とは区別されると考えています。一つは人文・社会科学的フィールドワークであること。山に入って動植物の生態系をみるような自然科学的なフィールドワークではなく、人や社会を対象とします。人や社会を対象としたフィールドワークは、社会学や人類学・民俗学等で行われてきましたがそのようなものが人文・社会科学的フィールドワークです。もう一つは、単に「現場にいて面白かったです」という話では終わらない、フィールドスタディとしての要素が必須ということです。フィールドにいくことは、その現場から得られる以上のことを得るための一連の学習のプロセスの一部分であり、また研究でもあるということです。学習であり研究であるフィールドワークを通して、頭と手足との全てを回しながら現代社会を捉え直すトレーニングの機会を提供します。 ◆何が学べる？ フィールドワークの技法を学べます。そのための実践的なトレーニングができます。これは研究をしないとしても、ビジネス・政治行政・NPO等々の世界においても、一生役立つ経験とスキルになります。 ・必要な事実を把握し、論理的かつ俯瞰的に考え、意図を他者にわかりやすく伝え、何かを教えてもらったり、協力してもらったりする ・だれかと仲良くなり信頼関係をつくり、あるいは交渉や互いを高めるための良い競争をする ・普通の人がアクセスできないところに踏み込み情報・知識を得るルートをつくり、あるいはそのルートを短時間で見つける ・意図せざるコンフリクトやあからさまに悪意ある妨害・嫌がらせ等にあっても目的に向けて淡々とトラブルシューティングしていく あえて言葉にするならば、そういったスキルが、フィールドワークの中で身につきます。（文科省的に言うと「生きる力」であり「対話的・主体的に深い／個別最適／協調的な学び＝探究力」が身につきます。） なお、フィールドワークの教科書的な書籍や論文は調べればいくらでも出てきます。そういったものを読むことも有意義ではありますが、残念ながら水泳やスキーをしたり自転車に乗ったりするのと同様で、理屈を学ぶことは大事ですが、実際にやってみないことには本当に必要な技術は何も身につけません。もちろん、スポーツやなんらかの芸・術と同様に、一定の技術を身につけた後に理論的に細部を洗練させるのに知識面のインプットをするのは大切です。書籍・論文のみならず動画等も容易にアクセスできる時代ですから、そういうのも活かすべく自主的に研鑽をつむのも良いです。 以下の割合で評価します。 ▼授業参加 1 0 0 % 毎回、何らかのアウトプットが求められることになるので、欠席すれば自動的に点数は減ることになります。ただし、コロナ感染等明確な欠席理由があり、出席の代替措置を希望する場合は、都度事前にメール等にてご相談ください。 【履修上の注意と評価方法】 本授業は①と②があります。よく確認の上、この2つをセットで履修登録をしてください。 3単位付与の場合：（1）「積極的かつ十分な時間の授業参加」（2）「レポート提出等課題への対応と大学1・2年生として十分な内容」があった場合「①」「②」計3単位を付けます。 2単位付与の場合：（1）（2）のいずれか一方が十分に満たされ、いずれかが一定が最低限満たされた場合には「②」のみを合格として2単位を付けます。その場合には「①」は欠席とします。					
成績評価方法							

教科書	1 単位付与の場合：(1) (2) のいずれもが最低限満たされた場合には「①」のみを合格として 1 単位を付けます。その場合には「②」は欠席とします。 単位付与ができない場合：(1) (2) のいずれか、あるいはいずれもが欠けている場合には単位を付けられません。 なお、レポート課題についてこちらの求める水準に達しない場合はこちらから不足点を指摘し内容を改善する機会を設けます。単位付与基準は都度お伝えします。 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 開沼博 漂白される社会 ダイヤモンド社						
	ガイダンス 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time						

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51421	A	東大福島部：福島を見る・食べる・ 学ぶ・遊ぶ①	開沼 博	情報学環	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 ◆この授業の概要 講義名の通り「福島を見る・食べる・学ぶ・遊ぶ」ことを通して、福島について主体的・対話的に深く学びます。扱われるのは、福島の地域史、食や風習、政治・経済・メディア教育等々、3.11 後の課題や変化以外も含めたあらゆる角度からの福島です。 具体的には、 ・座学（数回） ・フィールドワーク（数回） ・イベント参加を通じた実践 というプロセスを通し、地域コミュニティとつながり自分たち自身もコミュニティを形成（「福島部」化していく）の過程に身を置く中で、学際的に一つのエリア・テーマを多角的に見て、そこから新たな知見を得る経験ができます。 昨年度の様子はこちらの note をご確認ください https://note.com/utokyofukushima ◆この授業の背景と意図 講師はこの 20 年ほど、福島をフィールドにした人文・社会科学的研究を続けてきました。15 年前に 3.11（東日本大震災・東京電力福島第一原発事故）がありましたが、それ以前からの福島、近年徐々に鮮明になりつつある災害を乗り越えた新たな福島をも対象に通時的に調査や実践を重ねてきました。 その中で常に重要な要素として存在してきたのは「コミュニティづくり」です。災害復興はもちろん、研究も教育・学びも、もちろん政治・行政も経済も、いかに人のつながり、コミュニティをつくり、持続可能な形にするのが全てを決める、といっても過言ではない現実を見てきました。 学ぶことで人のつながりができ、飲み食いするなど時間をすごすことで、さらにそこから学びが深まり、その先に研究がうまれ、それ自身が「遊び」のように楽しくもなっていく。例えばそういう循環が生まれる先に、当初は頑として動きそうもない扉がすんなりと開いていくような瞬間を何度も見てきました。 授業の枠内でできることは限られますが、3.11 にとどまらない多様な福島の側面について研究を続けてきた講師が、座学と現地訪問とを組み合わせる多角的にガイドする中で、一つの食材（フィールド）をあらゆる角度から切り刻み、知る限りの方法を駆使しながら徹底的に料理する魅力を伝えるよう努力する中で、それを五感で感じ、人にも伝えられる力を養って頂ければと思います。 以下の割合で評価します。 ▼授業参加 1 0 0 0 % 毎回、何らかのアウトプットが求められることになるので、欠席すれば自動的に点数は減ることになります。感染等明確な欠席理由があり、出席の代替措置を希望する場合は、都度事前にメール等にてご相談ください。 【履修上の注意と評価方法】 本授業は①と②があります。よく確認の上、この 2 つをセットで履修登録をしてください。 3 単位付与の場合：(1) 「積極的かつ十分な時間の授業参加」(2) 「レポート提出等課題への対応と大学 1・2 年生として十分な内容」があった場合「①」「②」計 3 単位を付けます。 2 単位付与の場合：(1) (2) のいずれか一方が十分に満たされ、いずれかが一定が最低限満たされた場合には「②」のみを合格として 2 単位を付けます。その場合には「①」は欠席とします。 1 単位付与の場合：(1) (2) のいずれもが最低限満たされた場合には「①」のみを合格として 1 単位を付けます。その場合には「②」は欠席とします。 単位付与ができない場合：(1) (2) のいずれか、あるいはいずれもが欠けている場合には単位を付けられません。 なお、レポート課題についてこちらの求める水準に達しない場合はこちらから不足点を指摘し内容を改善する機会を設けます。 単位付与基準はガイダンスでお伝えします。 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 開沼博 はじめての福島学 イースト・プレス					
成績評価方法		ガイダンス 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					
教科書							
ガイダンス							

授業の目標概要	■ 全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いため留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いため、履修にあたっては十分に注意すること。 ◆ この授業の概要 講義名の通り「福島を見る・食べる・学ぶ・遊ぶ」ことを通して、福島について主体的・対話的に深く学びます。扱われるのは、福島の地域史、食や風習、政治・経済・メディア教育等々、3.11 後の課題や変化以外も含めたあらゆる角度からの福島です。 具体的には、 ・ 座学（数回） ・ フィールドワーク（数回） ・ イベント参加を通じた実践 というプロセスを通し、地域コミュニティとつながり自分たち自身もコミュニティを形成（「福島部」化していく）の過程に身を置く中で、学際的に一つのエリア・テーマを多角的に見て、そこから新たな知見を得る経験ができます。昨年度の様子はこちらの note をご確認ください https://note.com/utokyofukushima ◆ この授業の背景と意図 講師はこの 20 年ほど、福島をフィールドにした人文・社会科学研究を続けてきました。15 年前に 3.11（東日本大震災・東京電力福島第一原発事故）がありましたが、それ以前からの福島、近年徐々に鮮明になりつつある災害を乗り越えた新たな福島をも対象に通時的に調査や実践を重ねてきました。 その中で常に重要な要素として存在してきたのは「コミュニティづくり」です。災害復興はもちろん、研究も教育・学びも、もちろん政治・行政も経済も、いかに人のつながり、コミュニティをつくり、持続可能な形にするのが全てを決める、といっても過言ではない現実を見てきました。 学ぶことで人のつながりができ、飲み食いするなど時間をすごすことで、さらにそこから学びが深まり、その先に研究がうまれ、それ自体が「遊び」のように楽しくもなっていく。例えばそういう循環が生まれる先に、当初は頑として動きそうもない扉がすんなりと開いていくような瞬間を何度も見てきました。 授業の枠内でできることは限られますが、3.11 にとどまらない多様な福島の側面について研究を続けてきた講師が、座学と現地訪問とを組み合わせる多角的にガイドする中で、一つの食材（フィールド）をあらゆる角度から切り刻み、知る限りの方法を駆使しながら徹底的に料理する魅力を伝えるよう努力する中で、それを五感で感じ、人にも伝えられる力を養って頂ければと思います。 以下の割合で評価します。 ▼ 授業参加 100% 毎回、何らかのアウトプットが求められることになるので、欠席すれば自動的に点数は減ることになります。感染等明確な欠席理由があり、出席の代替措置を希望する場合は、都度事前にメール等にてご相談ください。 【履修上の注意と評価方法】 本授業は①と②があります。よく確認の上、この2つをセットで履修登録をしてください。 3 単位付与の場合：（1）「積極的かつ十分な時間の授業参加」（2）「レポート提出等課題への対応と大学1・2年生として十分な内容」があった場合「①」「②」計3単位を付けます。 2 単位付与の場合：（1）（2）のいずれか一方が十分に満たされ、いずれかが一定が最低限満たされた場合には「②」のみを合格として2単位を付けます。その場合には「①」は欠席とします。 1 単位付与の場合：（1）（2）のいずれもが最低限満たされた場合には「①」のみを合格として1単位を付けます。その場合には「②」は欠席とします。 単位付与ができない場合：（1）（2）のいずれか、あるいはいずれもが欠けている場合には単位を付けられません。 なお、レポート課題についてこちらの求める水準に達しない場合はこちらから不足点を指摘し内容を改善する機会を設けます。 単位付与基準はガイダンスでお伝えします。 次の教科書を使用する。／Will use the following textbook 開沼博 はじめての福島学 イースト・プレス ガイダンス 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time
成績評価方法	
教科書	ガイダンス 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
51450	A	ささえあいレシピ ～ピア サポートを知る&動く～	高野 明	相談支援研究開発センター	火 4	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 ピアサポートとは、学生生活上で支援(援助)を必要としている学生に対し、仲間である学生同士で手助けを行う活動です。本学では、学生みなさんの支え合いと自主的成長を促進するために、学生ボランティアのピアサポーターを組織し、学生による学生を支えるピアサポート活動を全学的に展開しています。 この授業では、ピアサポートの理論と実践方法について体験的に学習し、相互扶助のキャンパスづくりに貢献できる知識とスキルを習得することを目標とします。授業は、ピアサポート活動に関わる教員による講義と実習、学生同士のディスカッションによって構成されます。受講者には、相互扶助のキャンパス作りに関する学習への積極的なコミットメントが求められます。 なお、この授業を受講することで、ピアサポーター認定のための予備研修・総括講義を受けたことになり、登録後すぐに活動ができます。					
成績評価方法		授業での発表や毎回授業で実施するレポート作成をもとに評価します。					
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook					
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60225	A 2	房総の森と生業（なりわい）を学ぶ	鎌田 直人、 井上 広喜、 楠本 大	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 ■ 全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 森林は長らく人間の生活の一部であり、生業（なりわい）として森林の資源を利用する人々を中心に管理されてきた。しかし、現代ではそれらの生業の多くは衰退し、人間と森林の関わりは希薄になってきており、様々な弊害も生じている。たとえば、森林における生業が衰退すれば広大な森林への目配りや管理が不十分となる。その上、森林との関わりの希薄化は森林に対する誤解や過剰な期待をもたらし、森林による地球温暖化防止や国土保全といった課題に際して方向性を誤る恐れも大きくなる。 本ゼミは、人間との共存の長い歴史を持つ南房総の暖温帯林において、森林の生態や景観に親しむとともに、炭焼きや林業、工芸、狩猟採集などの生業を体験・学習することで、自分が納得できる「森林との関係」を会得するとともに、今後推進すべき森林産業や、森林と人間のあるべき未来を考えてもらうことが目的である。 将来様々な分野に進む幅広い人材が受講することを期待しています。 【履修希望者への注意事項】 履修希望者は、第 1 回講義終了後から 10 月 17 日（土）17：00 までに下記サイトにアクセスし、所定のフォームで①氏名、②メールアドレス、③希望動機（100 字程度）を入力してください。10 月 17 日の 17 時を過ぎるとアクセスできなくなります。なお、この履修希望申込とは別に、大学の通常の履修登録も所定の手続きで行ってください。欠員が出た場合には、追加で参加を認める場合がありますので、選考にもれた場合でも履修に興味がある場合には履修登録を行うことを推奨します。ただし、履修登録をしても受講が認められなかった場合、成績は欠席扱いとなります。 参加希望申込サイト： https://forms.gle/T1KMKYpcLfTcw3Wr7 参加の可否は 10 月 19 日（月）24：00 までにメールで連絡しますが、連絡がない場合は下記の担当教員にメールで問い合わせて下さい。また履修希望申込をしたあとや、参加可能な連絡を受けたあとにキャンセルする場合も必ず担当教員に連絡して下さい。 連絡先：鎌田直人（千葉演習林 教授） kamatan@uf.a.u-tokyo.ac.jp 最終日に学習成果を発表し討論を行う。成果発表により可否を判定する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time							
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60226	A 2	雪の森林に学ぶ～北海道演習林	尾張 敏章、 仲畑 了、 田中 延亮	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。北方針広混交林帯に位置する北海道演習林では、森林環境の保全と持続的な木材生産との調和を目指した研究を一貫して行っている。本ゼミナールでは、雪に覆われた北海道の冬の森林をスノーシューを履いて探索し、冬季の樹木、植物、動物などの姿を通じて森林生態系の総合的な理解を深める。また、北海道演習林で行っている天然林施業の実際を学ぶことにより、森林資源の保全と活用の方法について考究する。 【注意】この授業は、開講日程の都合上、成績が前期課程修了要件に反映されないことがあるので、履修にあたっては十分に注意すること。第1回講義およびガイダンスに出席していない学生の受講は認めない。インターネット経由でビデオ配信する第2回講義の課題および、現地講義・実習におけるレポートによる合否判定					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60227	A 2	続伊豆に学ぶ イノシシソーセージ 作りから考える	鴨田 重裕	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意】本ゼミは対面で実施します。リモート受講はできません。 皆さんは外を歩いている時にイノシシに出会ったことがあるでしょうか？ 東京に暮らしていると野生の獣、特に大型の獣に出会う機会はほとんどないと思います。ニュースや新聞で、地方都市にクマやイノシシの出現が報じられても、どこか他人ごとになってしまいがちではないでしょうか。 地方に暮らす人にとって、獣は身近な存在であり、自分の生活を直に脅かす存在です。 一方、大都市の中心地に暮らす人は、野生の獣に接する機会はないので、恐怖を感じることもありませんし、明日収穫しようと思っていた野菜を野生獣に食べられ続けることもありません。そういう生活をしていれば、野生獣に苦しめられている人の気持ちを理解しにくいかも知れません。殺処分と聞けば、嫌悪感をいだくかも知れません。 私たち現代人はとても複雑な仕組みの中で暮らしています。複雑であることから、多くのことに自分の目を向けることを諦めてしまいがちです。なぜならば、逐一のことに拘泥する「暇」がないからです。 自分の常識が通用しない世界があること、そんなことは当たり前でしょうと言うかもしれませんが、知らず知らずの内に、常識に似ているかも知れないステレオタイプによって雁字搦めになってはいないでしょうか。 この講義は南伊豆でイノシシソーセージ作りを教えてもらったり、くくり罠作りを教えてもらったりしながら、南伊豆の人が吸う同じ空気を吸うことから始めて徐々にその土地への理解を深めていただきたい。 イノシシソーセージが語り掛けて来るまで、かすかな声を聴き分けられるまで、ゆっくりとじっくりと時間を過ごしてみてはいかがでしょうか。 積極的に活動に取組む姿勢を最重視する。 加えて事後レポートの内容で評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					
成績評価方法 教科書 ガイダンス							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60228	A 2	続伊豆に学ぶ 林業体験から考える 薪はただのエネルギーではない。 味のあるエネルギーなのだ	鴨田 重裕	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意】本ゼミは対面で実施します。リモート受講はできません。 私たち現代人はとても複雑な仕組みの中で暮らしています。複雑であることから、多くのことに自分の目を向けることを諦めてしまいがちです。なぜならば、逐一のことに拘泥する「暇」がないからです。(ただし、本当にそういう暇がないのかと言えば、議論の余地はあるかも知れません) そして、あふれる情報。情報が多いと一つ一つ吟味しては、情報処理が間に合いません。そこで、ステレオタイプが幅を利かせることになります。符号化するステレオタイプは便利です。もともとは考える時間の節約だったのですが、度を過ぎして、節約どころか、「根本原理」的なものになっていないでしょうか。 もう一つ、入試を経て大学にきた君たちは、知らず知らずのうちに「ある習慣」に慣らされているということからも、小さからぬ影響を受けているのではないのでしょうか。その習慣とは、難しい問題は後回しにすることです。入試で得点を伸ばすスキルとしては、致し方ないところであると思います。正解に到達する見通しがないところに時間を割かずに、確実に得点できるところに時間を割く方が、パフォーマンスを示しやすい。もちろんそれにも、マネジメント力が必要ですから、受験者の能力を見極めていることになっていると考えられます。 しかし、社会問題もそういった調子で向き合うことで良いのでしょうか？ 入試は合格することが目的であり、正解数を稼ぐことは手段と割り切ることができます。 しかし、社会問題はどうでしょう。 正解っぽい回答をいくつか揃えて部分点を狙ったとしても、問題そのものの解決につながらなければほとんど意味をなしていないと思われます。 なぜ、林業を考えてもらいたいか。 日本の国土の2／3は森林で覆われていて、そのおよそ40％が人工林です。国土面積の実に1／4強に相当します。林業はこれらの人工林を管理する、唯一の手段と言えます。 このような話の流れの中で、日本社会は林業を手放してよいのだろうか？と問えば、手放してよいという回答にはなりにくいでしょう。 しかし、私たちは社会生活の中で、手放さない方が良いという回答に該当する行動をとったり、意識したりしているでしょうか。 ・国産材の消費を心掛けている ・契約した新電力会社は森林を切り開いて太陽光パネルを設置していない ・木質バイオマス発電所は、輸入チップに頼るべきではない これまで君たちが自分から「日本林業をどうすればよいか？」などと考える機会はほとんどなかったと思います。この授業の目標は、受講生に「日本林業のこと・日本林業再生のことは、他人ごとではなく自分事として感じられるようになることです。 林業に一生懸命に取り組んでいる方々と知り合う機会を得ることは、きっとその様な感じ方ができる近道になるのでは。 一人でも、日本林業の今後のことを考えてくれる人を増やさなければならないと思っています。 このゼミに、その様な力があるのでしょうか？ それは受講した気にたちだけが知ることになるのでしょうか。 まず、参加してみたいと思っています。 積極的に活動に取組む姿勢を最重視する。 加えて事後レポートの内容で評価する。 教科書 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60229	A 2	続伊豆に学ぶ_伝統工芸を守ることから考える 日本刀は刀鍛冶だけでできるものではないという 当たり前を正しく理解することの真のねらい	鴨田 重裕	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意】本ゼミはたたら製鉄・刀剣の里である岡山県を訪ねます。研磨炭焼き体験を基に考察するゼミですので、リモート受講はできません。 巷では日本刀ブームがおこり、日本刀に魅力を感じる若い人が増えている様です。それはとても素晴らしいことだと思います。日本刀は我が国の伝統工芸の代表格と言えるものかも知れません。 日本刀などの伝統工芸の価値とはいったいどの様なものでしょう。美術的な価値でしょうか、あるいは希少性に由来する類の価値でしょうか。例えば、上杉謙信公の愛刀ともなれば希少性は相当に高く、国宝となっているものがいくつか知られています。 しかし、このゼミでは伝統工芸の価値を、これらの「国宝」の価値とは切り離して考えてみたいと思います。（伝統工芸に興味を持つ入口として、国宝クラスの日本刀の魅力が果たす役割を否定するものではありません。日本刀好きから、興味が広がって本ゼミの受講を検討いただけることは、むしろ嬉しく思います。） 伝統工芸には長い歴史の中で培われてきたその土地その土地での人の営みを顧みたり、人がどの様に自然に向き合い活用してきたかを今に伝えたりする価値（≒意義）があると考えています。手に入れられるモノが限られる中で、使えるものを徹底的に工夫して、最大限に活用する（素材の良さを最大限に引き出す）技が蓄積していったのでしょう。技が受け継がれ、その技の対象と成るモノがしっかりと供給されて、初めて伝統工芸が守られることになります。それらがしっかりと守られることによって、現代社会が見落としがちのことに意識を向ける絶好の仕掛けとして機能するのではないかと期待します。 このゼミで着目する駿河炭は、それ自体がいわゆる伝統工芸品ではありません。駿河炭は伝統工芸品の製造に欠かせない研磨炭です。歴史は意外に浅くて、明治期に漆器製造が盛んであった静岡県（駿河）でアブラギリの炭が焼かれ研磨炭に用いられたことに端を発するとのこと。現在、駿河炭は駿河では焼かれておらず、福井県と岡山県で焼かれています。 駿河炭には、ニホンアブラギリ資源の枯渇という持続可能性の面で問題がありました。アブラギリはかつて桐油(乾性油)を得るために栽培され、明治初期は福井県や島根県が主要な産地でした。今も福井で駿河炭が焼かれているのは、資源量が多かったからと言えそうです。今は、それも底をつきつつあります。 木材の塗装や紙に撥水性を付与する用途のために桐油が使われましたが、石油由来の製品にとって代われ、今ではアブラギリを栽培することはなくなりました。ということは、現状で何もしなければ、アブラギリ資源は回復を見込めないということになります。東大演習林は、アブラギリ資源を絶やさない施業の仕方に取り組んでいて、それも伝統工芸を守る重要な役割の一つであると考えています。 駿河炭は漆器表面の研磨に欠かせない研磨炭ですが、そのことはあまり知られていません。漆器と言えば、ウルシ（植物）や漆掻きや塗師の重要さは誰でも知っているが、研磨炭は漆器の仕上がりを左右するというのにその重要性が知られていないのはどうしたことでしょう。 本ゼミでは日本刀の聖地のひとつ岡山県長船を訪ねます。刀工集団「福岡一文字派」が活躍した備前国福岡の地。現在の長閑な雰囲気と、かつて武器製造拠点であったという史実に大きな隔たりを感じるのでしょうか、それとも蓋然性のようなものを感じるのでしょうか。ゼミ中にあなたは何を感じ、何を思うのか。本ゼミではそれを大事にしたいと思います。 成績評価方法 積極的に活動に取組む姿勢を最重視する。加えて事後レポートの内容で評価する。 教科書 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 第一回授業日に行く。／Will conduct guidance at first time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60230	A 2	続伊豆に学ぶ エネルギーの森作りから考える A エネルギー不足の日本で森林資源をエネルギー利 用しない手はない。エネルギー利用ならユーカリ を活用しよう！	鴨田 重裕	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要 ■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。この講義の目的は、東京大学の学生の皆さんに日本の山林管理の重要性に気づいてもらうことです。「エネルギーの森づくり」と言うのはその管理手法の一つの形態であると捉えてください。エネルギーの森づくりという話題を入口として、我が国の森林管理の在り方について考えてもらいたいと思っています。エネルギーの森づくりの話をする前に、大前提の話をさせてもらいます。 ①我が国は慢性的にエネルギー不足の国である ②国土の 1 / 4 強を針葉樹人工林としているにも拘らず、その唯一の管理手段である林業を衰退させたまま半ば放置している これら①②については、皆さんはご存じだと思います。 これらに加えてもう一つ。 ③獣、特にシカの密度が高いため森林の更新がうまくいかない。そういう状況があちこちの森林で起こっている ③はご存じない方も少なくないかも知れません。森林の更新というのは森林の若返りと言ってもよく、更新を維持できないと森林は森林であり続けることができません。一本一本の樹木には寿命があり消えていきますが、更新が健全に行われるとその穴を埋めるように次の樹木が育ち、次々と受け継がれていき森林は森林であり続けることができるのです。シカの密度が高いと更新の担い手である椎樹・幼樹をことごとく食べつくしてしまいます。その状態が長く続けば森林は森林であり続けられないことになります。 ユーカリの利点は成長が早いことと、逸出の危険性が低いことです。 成長の早さは、一般的には体積を増すスピードで計られます。つまり、材積をどれだけ増やすかという尺度です。私たちになじみ深いスギは成長が早い方ですが、ユーカリはそのスギと比べてもはるかに成長が早い樹種（少し厳密に言うくと、ユーカリ属の中にはスギよりも成長が早い種が存在する）と言えます。 成長が早いと材がスカスカなのではないかと思われがちですが、ユーカリはそんなことはありません。空気中で乾燥した状態の比重（気乾比重と言う）で比べると、スギは 0. 4 くらいであるのに対して、比較的軽めのユーカリ種で 0. 5 5 くらいから重めのユーカリでは 0. 8 くらいになります。（ユーカリというのはユーカリ属の総称で、ユーカリ属の中には種が 8 0 0 もあると言われています。灌木のようなものから高木になるものまで様々です。私たちが「ユーカリ」と言うとき高木になり、成長が早いものを指すことが多いです。） 材積が大きく比重も大きいことから、ユーカリの光合成能力はスギよりも高いといえます。カロリーベースで比較するならば、スギよりもかなり有利な樹種と言えます。 逸出というのは、種子が散布されたりして勝手に増えてしまうことです。スギやヒノキという樹種はよく逸出することが知られています。逸出する外来種の樹木としては、ニセアカシア（ハリエンジュ）が有名でしょうか。ニセアカシアは日本の至る所に入り込んでしまいました。川沿いなど林縁が多いのが少し救いなのかも知れませんが、もはや駆除できる段階ではありません。ユーカリはどうかと言うと、かなりおとなしい外来種と言えそうです。南伊豆町の樹芸研究所では 4 0 年来ユーカリ林を維持していますが、逸出は確認されていません。 ゼミのタイトル的には①の話がされることしか想像できないかも知れませんが、それほど単純に済ませるべきではないというのが、このゼミの真骨頂だと思います。 ①②③は別の話として語られることが多いのですが、つなげて考えるとところに妙味があると考えています。ゼミではそういう話をしさせてください。 積極的に活動に取り組む姿勢を最重視する。加えて事後レポートの内容で評価する。 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイダンス 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time							

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60231	A 2	森に学ぶ 林業を意識する低山歩きと森林生態系 を意識する奥山歩き A 2_1（低山ゼミ A 2）	鴨田 重裕	農学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この体験ゼミは森林・林業を意識するために現地に足を運ぶスタイルをとるため、対面受講できる学生のみが受講可能です。オンライン受講はできないのでご注意ください。ハンディキャップがある方には本当に申し訳ありません。 山歩きを楽しんでもらい、山林に親しみを感じていただくことを本ゼミの一つの目的としていますが、それだけで終わりではありません。 山歩きを切っ掛けとして、ご自身が暮らす日本の国土のことを考えてもらおうという目的を掲げます。多くの山行は、下山後に温浴施設に立ち寄ります。適度な運動のあと。温泉でさっぱりしたあと、その日の山行を振り返って見ましょう。しかも面せずに楽しみながら行う予定です。 A 1 A 2 タームそれぞれに、秩父演習林の宿泊施設に 1 泊する日程を組んであります。日帰り山行ではやりにくい、山行の振り返りと、各々の意見を交換する機会となります。どうぞお楽しみにしてください。 日本の国土は 7 割近くが森林に覆われていることをあなたはご存じだと思います。その 7 割の面積におよぶ森林をどの様に管理するべきか、あなたは考えてみたことはありますか？ 山林のことは林業関係者に任せておけば良いでしょうか？ 専門家でもないあなたは何も考える必要はないのでしょうか。人任せにされていて、取り返しのつかないことにならないでしょうか。 いま現在、日本において、その肝心の林業はちゃんと回っているのでしょうか。 日本の林業は外国に比べてコスト高であるため、儲けを出しにくいとされています。儲からない産業には資本が投下されにくい（資本主義から見放される）。すべてを資本主義的な価値観で判断するのであれば、日本の山林は放置するのが最も合理的であるということになりかねません。しかし、その判断はあくまでも資本を投下して、その投下に見合った回収を期待できるかどうかという価値観によるものに過ぎません。現状を放置すると、例えば獣が増えて植生を壊滅させることが起こります。植生を失うと、豊かであった土壌が簡単に流亡することになります。土壌の流亡は規模を増したときには、大規模に近辺の植生もろとも土石を下流に押し流してしまうこともあるでしょう。災害ばかりではありません、豊かな土壌を失うことは、生産性を失うことと同義です。一度失うと、簡単に取り戻すことはできません。 あなたはハイキングや山野を歩くことが好きでしょうか（好きになりそうでしょうか）。 このゼミは東京近郊の身近な山で、林業を意識しながら歩いたり、目の前の森林の来し方行く末を思いながら山を歩いたりする機会を提供することを目的とする講義です。自然豊かな山の奥の方と、人里に近い低山とを歩き比べてみましょう。どちらが自分好みか、優劣をつける様な価値を持ち込みがちですが、ここは是非両方の良さを知る機会にしたいだと思います。 森林・林業を意識する？ 山歩きはとても気持ちいいものです。色々なことをくよくよ考えたり、せわしなく過ごしたりしがちな日常生活から距離をとる。山歩きをしているその瞬間は、日常をすっかり忘れて、ただ歩くことのみに気持ちを向かわせることができます。それはそれでよいものです。 その様に無心に山林を歩くのも好いですが、このゼミでは森林を意識する・林業を意識するという視点を持って歩くことを提案します。意識を働かせることで見え方がグッと変わってくることを体験してもらいたいのです。林業の視点で山林を眺めるとどの様に見えるでしょう？その様な視点を獲得することがこのゼミの狙うところです。 私たちが生きる現代社会の特徴 私たちが生きる現代社会は、いろいろなプロセスが見えづらい時代であると捉えることができます。構造が複雑になりブラックボックス化が進んでいることがその大きな要因の一つでしょう。しかし、それが原因だから仕方がないと片付けてしまえばそれまでです。複雑で忙しい日々を過ごすうちに、思考を節約して簡単に済ませる術を身に着けるといって、いわば生活習慣によって観察できない状態・考えない状態に慣れきっていると捉えることはできないでしょうか。 このゼミでは忙しく歩くような山歩きはしません。まわりの植物や現象をゆっくりと観察できる歩調で、時に立ち止りながら山林の中に身を置きます。ゆっくりと歩くと見える量も質も大きく異なってきます。ブラックボックスに立ち向かうためにはゆっくりと思考する姿勢が何よりも大切になります。 このゼミではたっぷりとその様なことを考えてもらいたい。 何か正解を見つけない山歩きをするわけではありません。知れば知るほど難しい問題になるのかも知れませんが、一つだけ正解がある様な問題とは限りません。よく考えてみることで、それ自体がこのゼミの目的と言えます。 手つかずの奥山の様子と資源利用を行う人工林と、両方を意識して歩いてみると何が見えて来るのでしょうか。自分が何を感じたか、感じたことを出発点として何を考えたか。そして、それをどの様に自分の行動に落とし込んでいくことができるか。 「感じる・考える・行動する」のサイクルを回そう。これは鴨田が主宰する全てのゼミに共通する理念です。本ゼミをきっかけに、これらのゼミを母体とするコミュニティに残り、どう行動するか部分を大学生の内に何か一つでも実現できたならば、あなたの生き方が大きく変わるかも知れない。これらのゼミの中での気づきや変容について、学園祭に企画を立てて発信することを目的とする全学自由研究ゼミがあります。こちらに繋げてゆくと、なお楽しめます。 講義の受講態度と事後レポートの内容により可否を判定します。 ・レポート提出が無い場合は不合格になります。 ・受講態度が本ゼミに相応しくないと判断された場合には改善を求めますので、指示に従ってください。 ・レポートは内容により可否を判定します。大学生のレポートのレベルに達していると認められない場合は不可になることがあるのでご注意ください。 ・山行の感想文の様なものはレポートとは認められません。 ・無理な出席は推奨していません。そのため、欠席しても以下の様に単位を付けます。 51391「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_1」が 1 単位、 51392「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_2」が 1 単位になっています。 3 山行に参加し、レポートで合格すると 2 単位つきます。 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイドンス 特定日に行く。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60232	A 2	森に学ぶ 林業を意識する低山歩きと森林生態系を 意識する奥山歩き A 2_2（低山ゼミ A 2）	鴨田 重裕	農学部	集中	1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この体験ゼミは森林・林業を意識するために現地に足を運ぶスタイルをとるため、対面受講できる学生のみが受講可能です。オンライン受講はできないのでご注意ください。ハンディキャップがある方には本当に申し訳ありません。 山歩きを楽しんでもらい、山林に親しみを感じていただくことを本ゼミの一つの目的としていますが、それだけで終わりではありません。 山歩きを切っ掛けとして、ご自身が暮らす日本の国土のことを考えてもらおうという目的を掲げます。多くの山行は、下山後に温浴施設に立ち寄ります。適度な運動のあと。温泉でさっぱりしたあと、その日の山行を振り返って見ましょう。しめ面せずに楽しみながら行う予定です。 A 1 A 2 タームそれぞれに、秩父演習林の宿泊施設に 1 泊する日程を組んであります。日帰り山行ではやりにくい、山行の振り返りと、各々の意見を交換する機会となります。どうぞお楽しみにしてください。 日本の国土は 7 割近くが森林に覆われていることをあなたはご存じだと思います。その 7 割の面積におよぶ森林をどの様に管理するべきか、あなたは考えてみたことはありますか？ 山林のことは林業関係者に任せておけば良いでしょうか？ 専門家でもないあなたは何も考える必要はないのでしょうか。人任せにされていて、取り返しのつかないことにならないでしょうか。 いま現在、日本において、その肝心の林業はちゃんと回っているのでしょうか。 日本の林業は外国に比べてコスト高であるため、儲けを出しにくいと言われています。儲からない産業には資本が投下されにくい（資本主義から見放される）。すべてを資本主義的な価値観で判断するのであれば、日本の山林は放置するのが最も合理的であるということになりかねません。しかし、その判断はあくまでも資本を投下して、その投下に見合った回収を期待できるかどうかという価値観によるものに過ぎません。現状を放置すると、例えば獣が増えて植生を壊滅させることが起こります。植生を失うと、豊かであった土壌が簡単に流亡することになります。土壌の流亡は規模を増したときには、大規模に近辺の植生もろとも土石を下流に押し流してしまうこともあるでしょう。災害ばかりではありません、豊かな土壌を失うことは、生産性を失うことと同義です。一度失うと、簡単に取り戻すことはできません。 あなたはハイキングや山野を歩くことが好きでしょうか（好きになりそうでしょうか）。 このゼミは東京近郊の身近な山で、林業を意識しながら歩いたり、目の前の森林の来し方行く末を思いながら山を歩いたりする機会を提供することを目的とする講義です。自然豊かな山の奥の方と、人里に近い低山とを歩き比べてみましょう。どちらが自分好みか、優劣をつける様な価値を持ち込みがちですが、ここは是非両方の良さを知る機会にしたいだと思います。 森林・林業を意識する？ 山歩きはとても気持ちいいものです。色々なことをくよくよ考えたり、せわしく過ごしたりしがちな日常生活から距離をとる。山歩きをしているその瞬間は、日常をすっかり忘れて、ただ歩くことのみに気持ちを向かわせることができます。それはそれでよいものです。 その様に無心に山林を歩くのも好いですが、このゼミでは森林を意識する・林業を意識するという視点を持って歩くことを提案します。意識を働かせることで見え方がグッと変わってくることを体験してもらいたいのです。林業の視点で山林を眺めるとどの様に見えるでしょう？その様な視点を獲得することがこのゼミの狙うところです。 私たちが生きる現代社会の特徴 私たちが生きる現代社会は、いろいろなプロセスが見えづらい時代であると捉えることができます。構造が複雑になりブラックボックス化が進んでいることがその大きな要因の一つでしょう。しかし、それが原因だから仕方がないと片付けてしまえばそれまでです。複雑で忙しい日々を過ごすうちに、思考を節約して簡単に済ませる術を身に着けるといって、いわば生活習慣によって観察できない状態・考えない状態に慣れきっていると捉えることはできないでしょうか。 このゼミでは忙しく歩くような山歩きはしません。まわりの植物や現象をゆっくりと観察できる歩調で、時に立ち止りながら山林の中に身を置きます。ゆっくりと歩くと見える量も質も大きく異なってきます。ブラックボックスに立ち向かうためにはゆっくりと思考する姿勢が何よりも大切になります。 このゼミではたっぷりとその様なことを考えてもらいたい。 何か正解を見つけない山歩きをするわけではありません。知れば知るほど難しい問題になるのかも知れませんが、一つだけ正解がある様な問題とは限りません。よく考えてみることで、それ自体がこのゼミの目的と言えます。 手つかずの奥山の様子と資源利用を行う人工林と、両方を意識して歩いてみると何が見えて来るのでしょうか。自分が何を感じたか、感じたことを出発点として何を考えたか。そして、それをどの様に自分の行動に落とし込んでいくことができるか。 「感じる・考える・行動する」のサイクルを回そう。これは鴨田が主宰する全てのゼミに共通する理念です。本ゼミをきっかけに、これらのゼミを母体とするコミュニティに残り、どう行動するか部分を大学生の内に何か一つでも実現できたならば、あなたの生き方が大きく変わるかも知れない。これらのゼミの中での気づきや変容について、学園祭に企画を立てて発信することを目的とする全学自由研究ゼミがあります。こちらに繋げてゆくと、なお楽しめます。 講義の受講態度と事後レポートの内容により可否を判定します。 ・レポート提出が無い場合は不合格になります。 ・受講態度が本ゼミに相応しくないと判断された場合には改善を求めますので、指示に従ってください。 ・レポートは内容により可否を判定します。大学生のレポートのレベルに達していると認められない場合は不可になることがあるのでご注意ください。 ・山行の感想文の様なものはレポートとは認められません。 ・無理な出席は推奨していません。そのため、欠席しても以下の様に単位を付けます。 51391「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_1」が 1 単位、 51392「森に学ぶ__林業を意識する低山歩きと森林生態系を意識する奥山歩き A 1_2」が 1 単位になっています。 3 山行に参加し、レポートで合格すると 2 単位つきます。 教科書は使用しない。／Will not use textbook ガイドンス 特定日に行く。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60233	A 2	伊豆に学ぶ自然の恵みを活かす技（冬） Learning at Izu: skills and arts to utilize nature's gifts (winter)	齋藤 暖生、 鄧 送求、 鴨田 重裕	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 樹芸研究所は伊豆半島の南端、静岡県南伊豆町に立地する東京大学演習林の一つである。この研究所は、第二次世界大戦中、熱帯・亜熱帯産の特用樹木の研究施設として設立された歴史を持つ。東京大学演習林の中で、樹芸研究所の特徴として以下の2点が挙げられる。熱帯・亜熱帯の植物を多く扱っている点、および樹木をはじめとした森林植物の加工過程に重点が置かれている点である。 特に後者の特徴は、本講義の主題に深く関わる。樹木は、私たち人間が価値を見出し、あるいはさらに手を施すことによって「恵み」となる。この研究所が追求する「樹芸」とは、樹木をはじめとした森林の様々な資源を、より有効に人間社会に活かそうとする人間の技や営みである。 本講義は、樹芸研究所および周辺地域における体験を伴う現地集中講義を主体とする。本講義が行われる地域は、伊豆半島の南端であり、どの地域からもアクセスは容易ではない。しかし、こうした地域にも多くの人々が暮らしてきたし、また、その歴史も長い。このことは、この地域にある自然を「恵み」として活かす「眼差し」や「技」が、古くから存在してきたことを意味する。 日本は小資源国である、という定説がある。この定説において、人が自然から「恵み」を創り出す能力は、捨象されていると言ってよい。本講義は、この人が持つ能力の可能性を理解することを目標とする。そして、この能力は、単に机上の知識で十分に理解できるものではない。実際に現地を歩き、自然から恵みを得るための作業に身を投じ、頭と体をフル動員して理解してもらいたい。 ※受講可能人数：野外実習での安全管理のため 15 名までとする。受講希望者がこれを上回る場合は抽選を行う。 ※ガイダンス：12 月 4 日 2 限に行う。 ※現地集中講義の時期と場所：2 月 23 日（火）から 2 月 26 日（金）までの 3 泊 4 日の日程で、樹芸研究所およびその周辺地域において実施する。 出席（原則として全参加）および、現地講義終了後のレポートによって評価する。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	所属	曜限	単位	対象
60234	A 2	猟師に学ぶヒトと自然	齋藤 暖生、 鄧 送求	農学部	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■全学体験ゼミナールを履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照し、本冊子には掲載されていない詳細な授業内容等を確認したうえで、履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に2年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 ヒトは雑食動物であり、植物のみならず動物も主要な栄養摂取源としてきた。各種の考古学的史料を見るまでもなく、ヒトが食料を獲得するために行う狩猟の歴史は、ヒトの歴史とともに古い。しかしながら、現代のヒトは動物性の栄養源を獲得するために、狩猟を必須としない。むしろ、狩猟以外の方法、すなわち畜産等に依存している。このような時代においても狩猟が存在するということは、興味深い事象である。 動物性の食料を得るうえで現在私たちが依存しているのは、人類が築き上げた知恵であり、技術であると概括できる。畜肉を取り上げるならば、動物を家畜化し、家畜の特性に改良を重ね、量的・質的に安定した生産システムを構築し、消費者の負担を極度に軽減する形で提供される流通システムが実現されている。現代の私たちが気軽に畜肉を消費できる背景には、こうした大掛かりなシステム（技術の集合）があるが、これはまさに人類の知恵の産物である。 一方、狩猟は技術という点では、銃の使用や GPS の導入など、一定の進展はあるとはいえ、いまだに低位に留まっている。猟師が獲物に接近するには、現地に立ってその目で観察し、獲物の居場所を自分の知力で突き止める必要があるし、突き止めたところで、確実に捕獲できるとは限らない。上記の畜肉と比較したとき、技術水準の低さから資源獲得の確実性は低位に留まっていると特徴づけられる。しかし、低技術であるがゆえに、狩猟には狩猟者自身の高度な知識と技が要求される。その重要な部分が、生身の体をもって自然の状況を知る技である。これは、現代の人類の多くが失いつつある、あるいはすでに失ってしまった能力であり、今となってはヒトの「もうひとつの知性」と言えるものだろう。 樹芸研究所青野研究林では、猟師グループによるイノシシを主要なターゲットとした狩猟活動が行われている。本講義では、この狩猟グループに属する狩猟者とともに、実際の猟場を探索し、狩猟者の活動を可能な限りリアルに体験することで、「もうひとつの知性」を体得する足掛かりとしたい。また、「もうひとつの知性」を得ることで見えてくる自然のあり方、ヒトのあり方を学ぶことを目指す。 ※受講可能人数：野外実習での安全管理のため 10 名までとする。受講希望者がこれを上回る場合は初回講義で提示した課題への提出内容に応じて、選抜を行う。 ※事前講義：12 月 7 日（月）1 限にガイダンスを兼ねた第 1 回講義、1 月 18 日（月）1 限に第 2 回講義を行う。 ※現地集中講義の時期と場所：2 月 10 日（水）から 2 月 12 日（金）までの 2 泊 3 日の日程で、樹芸研究所において実施する。 出席（原則として全参加）および、現地講義終了後のレポートによって評価する。					
成績評価方法 教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time					

	3. 「マイケルソン干渉計で学ぶ重力波検出」(神岡宇宙素粒子研究施設) 4. 「高エネルギーガンマ線望遠鏡で見る極限宇宙」 【サステイナブル政策コース(4 プログラム)】対象：科類問わず 理科・文科 2027 年 2 月 17 日(水)—19 日(金) 1. 「気候変動の解決に、条約は有効に機能しているのか、考えてみよう」 2. 「デジタルヘルスで実現するウェルビーイング」 3. * English program 「Exploring Low-Carbon Futures: Data, Modeling, and Simulation」使用言語：英語 4. 「複合的危機って何だろう？：気候変動対策と資源利用から学ぶ」 【物性コース (4 プログラム)】対象：理科・文科 2027 年 2 月 16 日(火)—19 日(金) 1. 「理論研究を体験し新現象を発見しよう！」 2. 「強磁場と超音波で見る物質の量子現象」 3. 「結晶を作って、電子のふるまいを測ってみよう」 4. 「分子シミュレーションを体験しよう」 【大気と海洋コース (5 プログラム)】対象：理科・文科 2027 年 3 月 2 日 (火) —5 日 (金) 1. 「人工衛星データを用いて地球環境を調べてみよう」 2. 「南極海の石から探る変動する地球の姿」 3. 「バイオリギングで調べる海洋動物の行動と生態」 4. 「未知なる海の動物プランクトンの多様性を探索しよう」 5. 「変わりゆく海洋環境—化学の視点から」
成績評価方法	担当教員による研究室体験活動の評価と成果発表会の評価による。(Evaluation will be based on the research experience activity assessment by the instructor and the final presentation assessment.)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
ガイダンス	特定日に行う。／Will conduct guidance at another time

	3. 「マイケルソン干渉計で学ぶ重力波検出」(神岡宇宙素粒子研究施設) 4. 「高エネルギーガンマ線望遠鏡で見る極限宇宙」 【サステイナブル政策コース(4 プログラム)】対象：科類問わず 理科・文科 2027 年 2 月 17 日(水)—19 日(金) 1. 「気候変動の解決に、条約は有効に機能しているのか、考えてみよう」 2. 「デジタルヘルスで実現するウェルビーイング」 3. * English program 「Exploring Low-Carbon Futures: Data, Modeling, and Simulation」使用言語：英語 4. 「複合的危機って何だろう？：気候変動対策と資源利用から学ぶ」 【物性コース (4 プログラム)】対象：理科・文科 2027 年 2 月 16 日(火)—19 日(金) 1. 「理論研究を体験し新現象を発見しよう！」 2. 「強磁場と超音波で見る物質の量子現象」 3. 「結晶を作って、電子のふるまいを測ってみよう」 4. 「分子シミュレーションを体験しよう」 【大気と海洋コース (5 プログラム)】対象：理科・文科 2027 年 3 月 2 日 (火) —5 日 (金) 1. 「人工衛星データを用いて地球環境を調べてみよう」 2. 「南極海の石から探る変動する地球の姿」 3. 「バイオリギングで調べる海洋動物の行動と生態」 4. 「未知なる海の動物プランクトンの多様性を探索しよう」 5. 「変わりゆく海洋環境—化学の視点から」
成績評価方法	担当教員による研究室体験活動の評価と成果発表会の評価による。(Evaluation will be based on the research experience activity assessment by the instructor and the final presentation assessment.)
教科書	教科書は使用しない。／Will not use textbook
ガイダンス	特定日に行う。／Will conduct guidance at another time

「国際研修」の履修について

国際研修の各授業では、以下の共通目標が定められている。

異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現場を体験し、グローバルな視野を養う機会を得る。

授業内容としては、(1) 海外の学生との合同学習などを含む短期の海外研修、(2) 海外教育機関との海外での共同教育プログラム、(3) 海外の学生との日本国内での研修、(4) 海外の教育機関が提供するプログラムを利用した研修等のさまざまな活動がある。授業参加学生は、研修への参加と各授業が求める課題の提出等によって単位を得ることができる。

国際研修の受講にあたっては、海外渡航経験の有無は問わない。国際研修はむしろ、学生にとってのはじめての海外経験を後押しする科目である。進んで自分の視野を開こうとする、学生の積極的な参加姿勢がのぞまれる。

授業によっては、参加者の選抜が行われる場合や、ある水準以上の語学力が求められる場合がある。国内外の研修に参加する前に事前講義が実施される授業や、他の科目の履修が条件とされる授業もある。履修科目登録期間後に選抜の結果が発表される授業もある。その場合は履修を希望する授業にまず登録し、選抜にもれた場合は履修科目確認・訂正期間に登録を削除する必要がある。また、履修が許可された後から出発までの期間に履修を辞退することは、担当教員に膨大な負担をかけることになるので、予め十分に授業内容、渡航に際する留意事項、費用を確認して履修登録すること（履修を取りやめることで学生個人に対して生じるキャンセル料は原則学生負担になる）。学生が負担する費用については、授業によって異なる。それぞれの授業のシラバスを参照し、ガイダンスに出席して説明を受けること。

※国際情勢・諸外国の動向により、開講形態や研修内容等が大幅に変更になる可能性があるため、履修にあたっては必ず最新のシラバスを UTAS で確認すること。

国際研修

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	曜限	単位	対象
60087	A 2	ミュンヘン大学ドイツ語春季研修	斉藤 渉	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■国際研修を履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照した上でガイダンス等で必要な情報を得るなど、本冊子には掲載されていない詳細なプログラムの内容を確認して履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意】国際情勢や渡航先の状況、その他やむを得ない事情、または最少催行人数に達しない場合には、本研修を変更または中止することがあります。 ・「国際研修」科目では、異なる言語・文化の環境に触れ、国際交流の現状を体験し、グローバルな視野を養う機会を得ることを目標とします。 ミュンヘン大学で約 2 週間ドイツ語集中講座を受講し、実践的なドイツ語能力習得を目指します。午前中は話す、聞く、書くを中心としたドイツ語集中コース、午後や週末はドイツ・ヨーロッパ事情の講義やワークショップ、ドイツの社会や文化に触れる研修等を行います。 渡航前の準備会への参加、授業への積極的な参加と、帰国後のレポート（4000 字程度）の提出、（メールによる提出）。 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance				
成績評価方法						
教科書						
ガイダンス						

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	曜限	単位	対象
60088	A 2	慶熙大学校春季韓国語研修（インテンシヴ〔高度〕研修）	河崎 啓剛	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■国際研修を履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照した上でガイダンス等で必要な情報を得るなど、本冊子には掲載されていない詳細なプログラムの内容を確認して履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意】国際情勢や渡航先の状況、その他やむを得ない事情、または最少催行人数に達しない場合には、本研修を変更または中止することがあります。 中級レベルの韓国朝鮮語学習者を主たる対象として、慶熙大学校（韓国ソウル）での語学研修を行う。会話を中心とした実践的な韓国朝鮮語力を身に付けることを目的とする。また、数回の事前学習や事前レポート、アクティブ・ラーニングや文化体験などを通じて韓国の社会や文化について学ぶ。 【参加資格】 ・中級レベルの韓国朝鮮語の授業を履修済み（見込み）であること。 ・韓国朝鮮語初級（インテンシヴ）〔高度〕の A セメスターの授業を履修済み（見込み）であること。 ・韓国朝鮮語一列・二列を 1 年間、履修済み（見込み）であること。				
成績評価方法		事前学習、レポート、現地での活動状況によって評価する。				
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook				
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	曜限	単位	対象
60089	A 2	国際研修（台湾）高度インテンシブ研修	阿古 智子	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■国際研修を履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照した上でガイダンス等で必要な情報を得るなど、本冊子には掲載されていない詳細なプログラムの内容を確認して履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意】国際情勢や渡航先の状況、その他やむを得ない事情、または最少催行人数に達しない場合には、本研修を変更または中止することがあります。 台湾にてフィールドワークを中心とする研修を行う。A2 に行われる事前講習にも必ず出席しなければならない。台湾をめぐる歴史や国際関係、社会問題などに強い関心を持ち、事前授業から台湾でのフィールドワーク、レポート執筆に積極的に参加できるものを選抜する。事前講義の日程はのちほど連絡する。昨年度は、11 月下旬から 1 月の金曜 5-6 限（グループワークの相談はオンラインでも行う）。 後日連絡する。				
成績評価方法		教科書は使用しない。／Will not use textbook				
教科書		授業でお伝えする。				
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	曜限	単位	対象
60090	A 2	ロシア語インテンシヴ研修	浜田 華練	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■国際研修を履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照した上でガイダンス等で必要な情報を得るなど、本冊子には掲載されていない詳細なプログラムの内容を確認して履修登録を行ってください。 【注意】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本科目の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意】国際情勢や渡航先の状況、その他やむを得ない事情、または最少催行人数に達しない場合には、本研修を変更または中止することがあります。 この授業は、2025 年度入学の初修ロシア語を履修した学生のうち、すでに高度なロシア語運用能力を身に着けている者を対象に実施する。授業の参加には一定レベルのロシア語運用能力が必要とされるため、履修希望者には選抜試験（筆記試験およびロシア語による面接）を課す（選抜試験の日程は、後日 UTAS 掲示板および UTOL で通知）。 授業の目標は以下の通り。 1. ロシア語教育を専門とする教育機関において、ロシア語で授業を受けることで、総合的なロシア語運用能力の向上を目指す。 2. ロシア語というツールを用いて多様な言語的・文化的背景を持つ人々と交流することを通じて、グローバルな視野を養う。 3. 実際に現地で生活することで、知識だけでなく生身の経験に基づいて異文化への理解を深める。				
成績評価方法		事前研修を含めた研修全体における参加および貢献と、研修後に提出するレポートに基づいて評価を行う。				
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook				
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	講義題目	担当教員	曜限	単位	対象
60091	A 2	平和のために東大生ができること：中央アジア研修	岡田 晃枝	集中	2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
授業の目標概要		■国際研修を履修する場合は、必ず UTAS でシラバスを参照した上でガイダンス等で必要な情報を得るなど、本冊子には掲載されていない詳細なプログラムの内容を確認して履修登録を行ってください。 【注意 1】この授業は開講日程の都合上、成績が所定の確認日より後に公開される見込みが高いので留意すること。特に 2 年生は本授業の成績が前期課程修了要件に含まれない見込みが高いので、履修にあたっては十分に注意すること。 【注意 2】この国際研修の履修を希望する者は必ず 10/8（木）5 限に行われる全学自由研究ゼミナール「平和のために東大生ができること I」のガイダンスに参加し、A1 タームの同全学ゼミを履修してセレクションを受けること。セレクションに合格して国際研修を履修することになった者は、A2 ターム木曜 5 限に行われる全学ゼミ「平和のために東大生ができること II」を履修すること。 【注意 3】国際情勢や渡航先の状況、その他やむを得ない事情、または最少催行人数に達しない場合には、本研修を変更または中止することがあります。 【注意 4】履修者数を前期・後期あわせて 12 名、うち後期課程生を 3 名までに制限する。				
成績評価方法		旧ソ連中央アジアの一国カザフスタンは、ソ連時代に数百回の核実験が行われたセミパラチンスク核実験場（1991 年閉鎖）跡を国内に擁し、核軍縮分野でイニシアティブを発揮しており、この分野で日本と協働することも多い。一方で、エネルギー転換の必要性から原子力発電所の建設計画が動き出しており、2024 年 10 月の国民投票では建設賛成多数であったとはいえ、依然として残る核実験被害と核の平和利用の間で国民感情は揺れている。また、2022 年 1 月に大きな国内暴動と政治変動を経験し、現在は関係の深いロシアのウクライナ侵攻によりさまざまな影響を受けている。 この国際研修ではカザフスタンを訪問し、同国が直面している安全保障上の問題について現地で学ぶと同時に、持続可能な開発目標（SDGs）の目標 16「平和と公正をすべての人に」をテーマに、現地学生と学び合い、議論してその成果をまとめる。 事前準備として A1 ターム・A2 タームを使って全学ゼミ（上記注意事項参照）で基礎的な知識を得てもらうほか、外務省や駐日カザフスタン大使館等での事前研修を予定している。 実施時期は 2 月末から 3 月上旬の約 2 週間を予定している。 *この国際研修のガイダンスは、A1 ターム全学ゼミ「平和のために東大生ができること I」のガイダンスと同時に行う。10 月 8 日（木）5 限実施。履修希望者は必ず出席すること。				
教科書		研修準備への取組、研修中のプログラムへのコミットメント、研修後の報告書				
ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特定日に行う。／Will conduct guidance at another time				

PEAK 科目

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50114	A	自然科学ゼミナール (PEAK)	前田 章、 ウッドワード ジョナサン ロジャー、 甘蔗 寂樹	PEAK 前期	月 3	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Applications of Mathematics in the Sciences This course is designed to demonstrate how mathematical concepts that U. Tokyo students have learned in their pure mathematics classes are used and applied in advanced studies in the natural and social sciences. Understanding applications of mathematics in the sciences allows students to understand what they have learned more deeply, and helps them to realize the importance of mathematics for their advanced studies in the Senior Division programs. The course is delivered by three instructors from different fields of expertise, presenting three stories of the use of mathematics. Each part focuses on particular mathematical ideas and methods and gives examples of where they can be applied. The fields of academic discipline and topics are the following: Part I (physics / chemistry). The mathematical description of quantum mechanics: Complex linear vector spaces and bra-ket notation and their application in describing the fundamental property of spin. Part II (mathematical economics). Dynamic optimization and economic decision: Finding optimal lifelong consumption-savings plan. Part III (chemical and environmental engineering). Process modeling and control: Mathematical modelling and control systems related to industrial and environmental processes.				
成績評価方法		Grading for this course is based on those of three parts. Part I: Assignments, quizzes, attendance and participation Part II: In-class quizzes and attendance Part III: Assignments, attendance and participation				
教科書 ガイダンス		授業中に指示をする。／Will specify at class time 特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50119	A	思想・芸術I(PEAK)	藤井 翔太	PEAK 前期	月 3	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Comparative Philosophy of Education In this course, we will explore a range of philosophical themes from a comparative perspective, approaching philosophy as a fundamental inquiry into worldviews and ways of life. We will also examine the educational implications of key concepts—such as the self, virtue, moral dilemmas, human nature, and the limits of language—and consider how these ideas can be applied in our own teaching practice. Through close readings of textbooks and scholarly articles on Asian philosophy written by English-speaking philosophers, we will engage with distinctive interpretations of Asian thought that draw on conceptual frameworks from Western philosophy. By critically reading and discussing these comparative philosophical works, students are expected to develop a rich and nuanced understanding of central ideas in both Eastern and Western philosophy.				
成績評価方法		a. Reading Questions: 12% of Grade b. Online Discussions: 12% of Grade c. Leading Class Discussions: 30% of Grade d. Final Essay and Presentation: 30% of Grade e. Participation (throughout): 16% of Grade *The grading scheme may be adjusted at the beginning of the semester depending on the number of students enrolled. Any changes will be announced during the first class session.				
教科書 ガイダンス		その他。／Other 特に行わない。／Will not conduct guidance				

PEAK 科目

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50155	A	コンピューティングの基礎(PEAK)	甘蔗 寂樹	PEAK 前期	月 4	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Introduction to computing In recent academic and scientific researches, computer aided researches such as analysis and design have become more highlighted than before. In this class, beginners will touch the academic computing and learn how to create the numerical computing algorithms using MATLAB, a computer programming software.				
成績評価方法		Assignments and class participation				
教科書		プリントを配布する。／Will distribute handouts				
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50177	A	哲学・倫理(PEAK)	佐藤 邦政	PEAK 前期	月 5	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Introduction to Non-Ideal Epistemology This class aims to explore a broad range of basic topics in contemporary non-ideal epistemology. Traditionally, epistemology in the analytic tradition has concentrated primarily on the nature of justification and knowledge. However, recent developments in this field have expanded its scope to illuminate previously underexplored dimensions. These include the social and political dimensions of knowledge transmission and inquiry, agential dimensions of doxastic agency, and ethical dimensions of epistemic justice, as well as our responsibility for transformation and ignorance. This class provides participants with the opportunity to comprehend the basics of the aforementioned themes, enabling them to critically evaluate both classical and contemporary issues. This includes addressing epistemic dysfunctions within the present social world. Learning goals: First, students will acquire historical and contemporary perspectives on non-ideal epistemology, such as disputes over the nature of ignorance. Second, students will acquire questioning competencies through active participation in group discussions so that they can clearly express their views.				
成績評価方法		Grade: Your grade is determined by participation in the group questioning practice in each class (13 times) (about 70%) and term paper submission (30% max.). I will adjust grades to expected levels for undergraduate programs. Regarding the term paper, students are assigned a term paper between 1000 and 2000 words (incl. any footnote and bibliography). Topic: Any theme is acceptable as long as your paper discusses themes relevant to the class discussion. Content: The term paper comprises a synopsis of the class argument and your critique of the discussion. Submission: the instruction is given in class.				
教科書		プリントを配布する。／Will distribute handouts				
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time				

PEAK 科目

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50215	A	地球環境(PEAK)	成田 大樹	PEAK 前期	火 1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要	Global environmental problems and sustainable development This course will introduce the students to the current debates surrounding the global environmental problems, such as climate change, transboundary air pollution, biodiversity loss, and the issues of natural resources and their use (water, etc.). In the course, we will not discuss environmental problems in isolation but view them as an element among other great social challenges of our time. Specifically, the course's perspective is summarized by the following basic questions: - People in the world are living under vastly different conditions in terms of income levels, etc. Given these differences, what kind of global environment should we aim for? - How can we form a global consensus on collective actions against environmental problems? On a more practical level, what are the existing global agreements and institutions on environmental management? - On a global scale, what kinds of environmental or resource limits are we bound by? Given the instructor's field of expertise, a particular attention will be paid to economic dilemmas of the global environmental problems, e.g., the needs for balancing environmental quality and poverty reduction. However, the lectures and class discussions also touch on various other aspects -- such as natural-scientific, policy (political and legal) and technological aspects -- of global environmental issues. From a methodological standpoint, the focus of lectures will be placed on: (i) how we can formulate consistent and comparable metrics regarding global sustainable development, which often needs to deal with vague concepts (e.g., "sustainability"); (ii) how we can distinguish reliable and unreliable data, and where we can find the latter in practice; (iii) what aspects of global sustainable development are potentially quantifiable, and what are not. The course is primarily designed for PEAK students, but participation of April-entry students (一般生、非 PEAK 学生) is also welcomed.					
成績評価方法	Grading will be made based on a class presentation and commentaries about class presentations (25%), a final essay (25%) and short assignments/quizzes given at each class (50%). Details of each requirement will be given at class.					
教科書 ガイダンス	教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50421	A	法・政治(PEAK)	松原 健太郎、杉之原 真子	PEAK 前期	火 4	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要	Law and Political Science The objective of the course is to familiarize the students with the basics of law and political science. The course will be taught by specialists in these fields.					
成績評価方法	Written examination at the end of the semester. Class participation (including submission of comments via Google Forms) will also be taken into account.					
教科書 ガイダンス	教科書は使用しない。／Will not use textbook Class materials will be distributed digitally via UTOL. 特に行わない。／Will not conduct guidance					

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50423	A	科学技術基礎論(PEAK)	三村 太郎	PEAK 前期	火 4	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要	History of Science: from Greek Science to Newton Science has an image of being a discipline that deals with unchangeable truths. but on the other hand, science has a long history dating back to ancient times, with various 'sciences' having been accomplished in different regions and at different times, forming the science of today. This lecture will provide an opportunity to look at science from the perspective of world history. In particular, I will trace how science was developed in each region and period, by what kind of people, for what purpose and in what form, from ancient times to the formation of modern science.					
成績評価方法	The final report will be required.					
教科書 ガイダンス	教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance					

PEAK 科目

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50446	A	社会科学ゼミナール(PEAK)	ジロドウ イザベル	PEAK 前期	火 5	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Science, Technology, and Law This course is an introduction to Science, Technology, and Law as an emergent field of study. It explores the multifaceted interplay existing between law (environmental law, constitutional law, human rights law, criminal law, property law, international trade law) and technological developments in both life sciences and information sciences. Through interactive lectures, case studies, and the preparation of a final mini-project, students reflect in particular on how to address the growing gap between the pace of such developments and the lagging responsiveness of legal and ethical oversight society relies on to govern innovations in science and technology.				
成績評価方法		Active participation in group and classroom discussions: 30%. Three 600-word write-ups: 30%. Final mini-project (joint oral presentation + individual 1000-word essay): 40%.				
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50457	A	経済・統計(PEAK)	Griffen Andrew Shields	PEAK 前期	火 6	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		This is a topics course on economics and statistical models. We will approach the models from a mathematical, empirical, and applied perspective. There will be a fair amount of reading and class grades will depend on both a final exam and class discussion (making comments, asking questions, etc.). The overall goal is to give you a sense of how economics and statistics can be used to answer policy important questions. Topics will include markets, supply and demand, competition, monopoly, public goods, the commons, environmental policy, human capital, economic history, GDP, economic growth, monetary policy, finance, and AI. Compared to previous years I am to conduct this class in a more discussion based format but that will depend on student interest and effort. As a default we may resort to pure lecture style with homework and quizzes. This will be my final year teaching at PEAK as I will be on sabbatical in 2027.				
成績評価方法		My idea ts to base the final grades on class discussion and a final exam. Class discussion will be assessed based on doing the assigned reading, asking questions, making comments, and overall contributions to the discussion, There will be a cumulative final exam on the last day of class. As a default, we may revert to lectures + homework/quizzes and a final exam.				
教科書 ガイダンス		教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50651	A	思想・芸術II(PEAK)	川坂 和義	PEAK 前期	水 4	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Popular Culture and Japanese/Asian studies This course offers an introduction to popular culture and Japanese/Asian studies, and a chance to explore key fields of popular culture including television, manga, video game, fashion, and geek (otaku) in contexts of Japan and beyond. Topics for detailed study will include Japanese nationalism and popular culture; manga and queer reading; social discourses about “Otaku”; Disability representation in fiction; gender in video games; Asian queer representations in media outside Asia; kawaii culture and queer femininity; feminist and queer arguments on Boy’s love ,and censorship against Japanese animation such as Dragon ball outside Japan. This course will explore: 1. What kind of discussions are being conducted in Japanese/Asian studies on popular culture 2. How to academically discuss popular cultural works 3. How useful perspectives of gender and sexuality are to analyze cultural representations				
成績評価方法		Class attendance and participation: 30% Class Presentation: 30% Term’s essay: 40%				
教科書 ガイダンス		授業中に指示をする。／Will specify at class time 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time				

PEAK 科目

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50698	A	意思決定の数理(PEAK)	前田 章	PEAK 前期	木 1	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Decision Analysis Policy makers in governments and management in businesses are experiencing ever more complex situations these days in light of their economic surroundings, stakeholders, organizations, etc. To make rational and sound decisions in policy making or management strategy, they seek for transparent methodologies and tools that have a basis on objective information and quantitative analyses. In this lecture, students will learn the theory and practice of Decision Analysis (DA). DA is a school among theories of decision making that is on the basis of probability, optimization, and expected utility theories, and that is intended to offer a framework of “normative” decision making. Related disciplines include management science/operations research and microeconomics. This lecture thus also works as a good introduction to these subjects.				
成績評価方法		Evaluation is based on take-home final exam (assignment). The details will be announced in due course.				
教科書		プリントを配布する。／Will distribute handouts				
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50748	A	電磁気学の基礎(PEAK)	深津 晋	PEAK 前期	木 2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Electromagnetism (PEAK) Electromagnetism is at the heart of many, if not all, natural sciences. In fact, chemical bondings are no more than electromagnetic couplings, whilst diverse activities in living things are largely controlled by the electromagnetic interactions. This course is intended to be an introduction to the concepts of classical yet modern theories of electromagnetism building on the Maxwell’s equations and Lorentz force. Key topics include electrostatics and magnetostatics, time-varying electric and magnetic fields with their origins, scalar and vector potentials, and electrodynamics. Relevant topics including special theory of relativity in view of potential applications will also be covered. More than a handful series of table-top, hands-on experiments for demonstrative purposes are planned.				
成績評価方法		Homework assignments: 30% (Vector calculus 5%, Electrostatics 5% , Magnetostatics 5% , Time-varying fields 5%, DIY experiment 10%) Final exam.: 70%				
教科書		Total 100% (Figures are approximate. The number and content of homework assignments may vary,) プリントを配布する。／Will distribute handouts				
ガイダンス		特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50846	A	スポーツ・身体運動実習II(PEAK)	竹下 大介、田名辺 陽子	PEAK 前期	木 4	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Recreational activities for the promotion of fitness and wellness Provide an understanding of the fitness components and the importance of good strength, flexibility and endurance in physical health and wellness. Expose students to variety of activities that can be incorporated into a daily lifestyle. Apply the training principles for the management of the fitness components.				
成績評価方法		Attendance and reports.				
教科書		教科書は使用しない。／Will not use textbook				
ガイダンス		第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time				

PEAK 科目

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
50949	A	国際関係(PEAK)	鈴木 早苗	PEAK 前期	金 2	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Introduction to International Relations This is an introductory course on international relations and aims to obtain theoretical perspectives to understand international phenomena. We plan to cover a wide range of issues related to international relations. This course consists of three parts. The first concerns history and structure of international system to learn basic concepts in international relations. The second part deals with how to order and manage international system and the role of nation-states. Finally, we will learn how to analyze transnational and global issues beyond nation-state in international relations.				
成績評価方法 教科書 ガイダンス		feedback reports (40%), final exam (60%) 授業中に指示をする。／Will specify at class time 特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
51051	A	国際・地域II(PEAK)	大道寺 隆也	PEAK 前期	金 4	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Introduction to International Organizations This course explores international organizations (IOs) from historical and theoretical perspectives. What is the United Nations (UN), and how has it evolved into its current form? What are regional organizations (ROs), and why do they matter? How should we analyze IOs? To address these questions, the course is divided into three parts. First, it examines the political contexts in which IOs were established and developed, aiming to "demystify" them. Second, it provides an overview of the history, institutional structure, and recent challenges facing ROs, with a particular focus on the European Union (EU). Finally, it introduces theoretical debates by contrasting traditional approaches to IOs with more critical perspectives.				
成績評価方法 教科書 ガイダンス		Active participation (30%), mid-term exam (30%), and final exam (40%) 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance				

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
51052	A	統計学(PEAK)	プラナスシッジャ イザク	PEAK 前期	金 4	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		To provide students with a basic knowledge of probability, statistics, and machine learning. To introduce students to scientific programming using R, the statistical programming language. To develop understanding of the scientific method and learn effective ways to report results.				
成績評価方法 教科書 ガイダンス		Class and Homework (40%), Exam (60%) 教科書は使用しない。／Will not use textbook 特に行わない。／Will not conduct guidance				

PEAK 科目

時間割 コード	開講	授業科目名	担当教員	所属	曜限	対象
51079	A	社会・制度III(PEAK)	川坂 和義	PEAK 前期	金 5	1 年 文科 理科 2 年 文科 理科
講義題目 授業の目標概要		Introduction to Cultural Studies This course offers an introduction to Cultural Studies which emerged in the UK. The discipline of Cultural Studies is focused on cultural processes in societies and their representations in the arts and the media. It examines the mechanisms of (everyday) culture and analyse the extent to which political, social, and economic interests of certain social actors or groups are inscribed in cultural works. This course aims to understand the basic frameworks of Cultura Studies as well as how Cultural Studies has developed in Japanese cultural contexts. In particular, the course examines strategies of representation, factor of audience, class struggles, power, ideology, processes of production, distribution, and cultural products as diplomatic tools and national brandings.				
成績評価方法		Class attendance and participation: 30% Class Presentation: 30% Term's essay: 40%				
教科書 ガイダンス		その他。／Other 第一回授業日に行う。／Will conduct guidance at first time				